

IV 保護者編

IV-1 属性

(1) 子どもの学校種別

	小学生	中学生	高校生	合計
回答数(人)	493	537	464	1,494
割合(%)	33.0	35.9	31.1	100.0

(2) 地域別

	備前県民局	備中県民局	美作県民局	合計
回答数(人)	704	579	211	1,494
割合(%)	47.1	38.8	14.1	100.0

(3) 保護者の年齢<問1>

	~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~	無回答	合計
回答数(人)	6	25	182	497	498	226	41	15	4	1,494
割合(%)	0.4	1.7	12.2	33.3	33.3	15.1	2.7	1.0	0.3	100.0

(3) 同居している人<問2> (複数回答)

	配偶者等	子1人	子2人	子3人以上	親	兄弟・姉妹	その他	無回答	合計
回答数(人)	1,247	269	727	479	276	21	42	3	1,494
割合(%)	83.5	18.0	48.7	32.1	18.5	1.4	2.8	0.2	100.0

(4) 子どもとの続柄<問3>

	父親	母親	祖父	祖母	その他	無回答	合計
回答数(人)	138	1,343	1	6	3	3	1,494
割合(%)	9.2	89.9	0.1	0.4	0.2	0.2	100.0

IV-2 調査結果

1 家庭の就労形態について

問4 あなたの家庭は、共働きですか。《○は1つ》

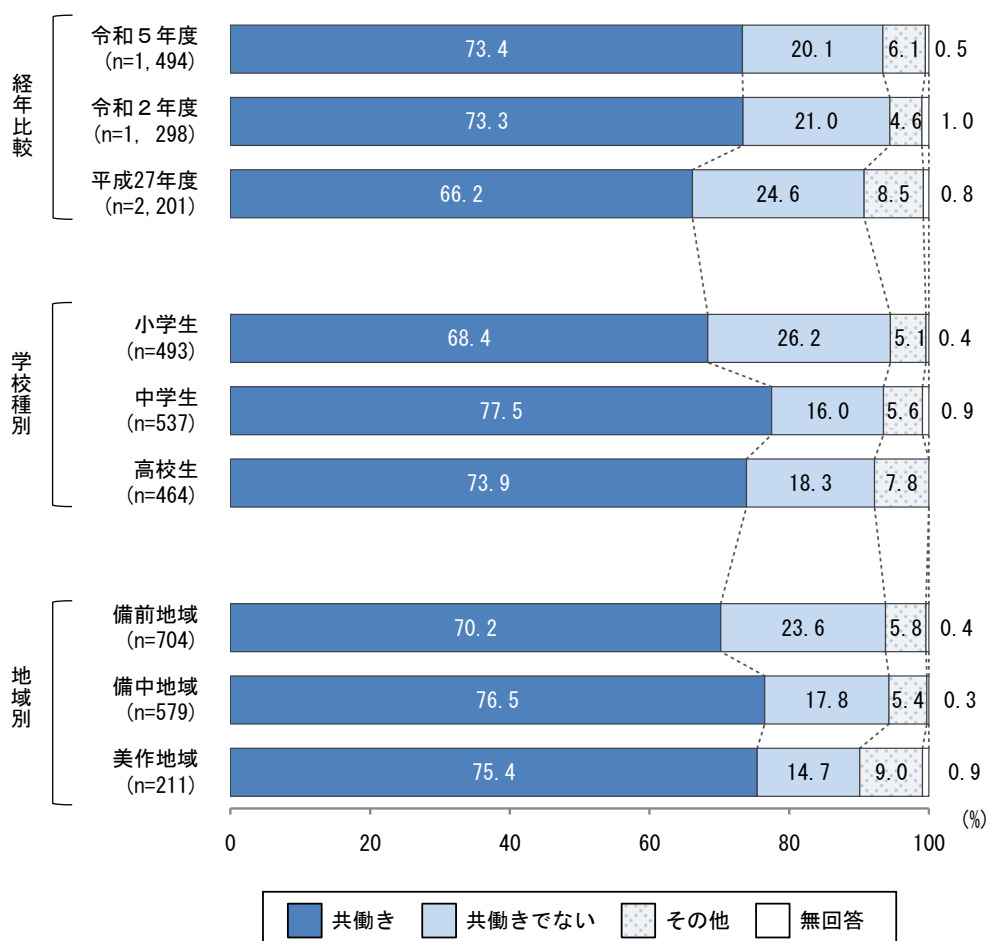
共働きの状況について、「共働き」の家庭は7割台半ばとなっている。

経年比較すると、「共働き」との回答は平成27年度調査から令和5年度調査にかけて増加傾向にある。

学校種別にみると、「共働き」との回答は中学生で約8割と高くなっている。

地域別にみると、「共働き」との回答は備中地域、美作地域で7割台半ばと高くなっている。

【図表 共働きの状況（経年比較・学校種別・地域別）】



2 平日の家庭での生活について

問5 あなたは、朝食を食べていますか。《○は1つ》

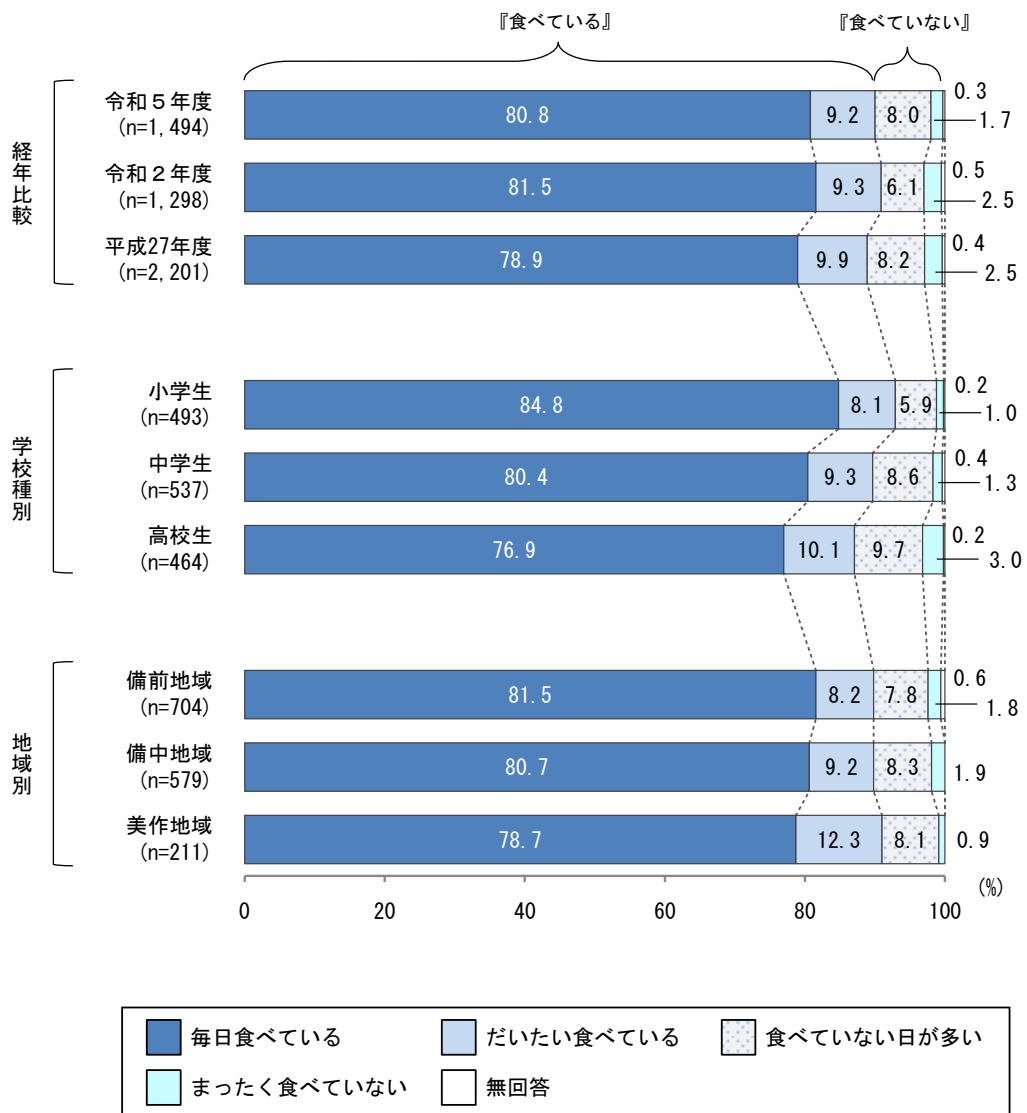
朝食の摂取状況について、約9割が『食べている』（「毎日食べている」と「だいたい食べている」を合わせた割合）と回答している。

経年比較すると、大きな差はみられない。

学校種別にみると、小学生が9割超と高く、小学生、中学生、高校生と上がるにつれて低くなっている。

地域別にみると、大きな差はみられない。

【図表 朝食の摂取状況（経年比較・学校種別・地域別）】



問6 あなたは、食事をお子さんと一緒に食べていますか。《○は①と②それぞれ1つずつ》

① 朝食

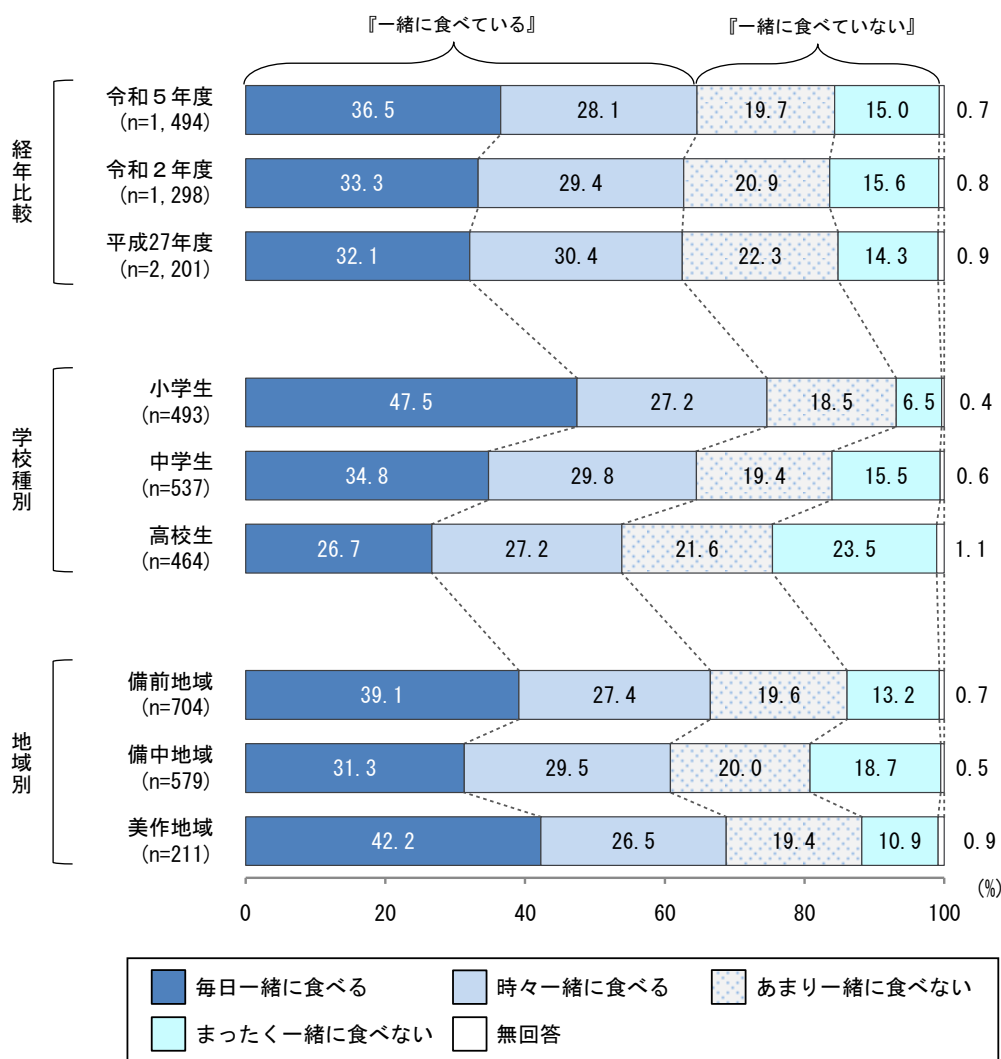
子どもと一緒に食事をするかどうかについて、朝食では、「毎日一緒に食べる」との回答が36.5%と最も高く、次いで「時々一緒に食べる」(28.1%)、「あまり一緒に食べない」(19.7%)、「まったく一緒に食べない」(15.0%)の順となっている。

経年比較すると、大きな差はみられない。

学校種別でみると、「毎日一緒に食べる」との回答は小学生で約5割と高く、小学生、中学生、高校生と上がるにつれて低くなっている。

地域別にみると、「毎日一緒に食べる」との回答は美作地域で4割超と他の地域に比べ高くなっている。

【図表 子どもと一緒に食べる朝食の摂取状況（経年比較・学校種別・地域別）】



② 夕食

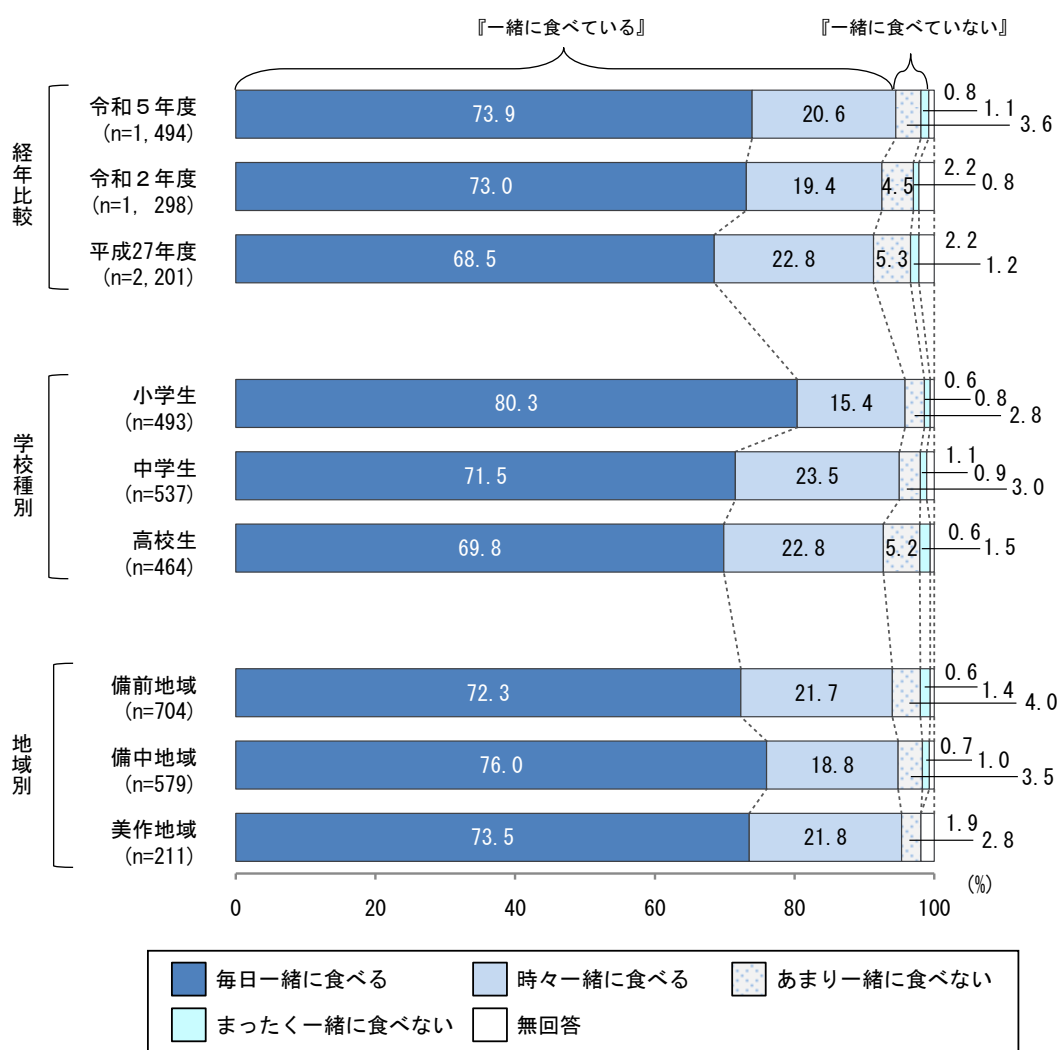
子どもと一緒に食事をするかどうかについて、夕食では、「毎日一緒に食べる」との回答が73.9%と最も高く、次いで「時々一緒に食べる」(20.6%)、「あまり一緒に食べない」(3.6%)、「まったく一緒に食べない」(1.1%)の順となっている。

経年比較すると、「毎日一緒に食べる」との回答は平成27年度調査から令和5年度調査にかけて増加傾向にある。

学校種別にみると、「毎日一緒に食べる」との回答は小学生で約8割と高く、小学生、中学生、高校生と上がるにつれて低くなっている。

地域別にみると、大きな差はみられない。

【図表 子どもと一緒に食べる夕食の摂取状況（経年比較・学校種別・地域別）】



3 子どもと一緒に過ごす時間について

問7 あなたが、平日にお子さんと一緒に過ごす時間は、平均どのくらいですか。《○は1つ》

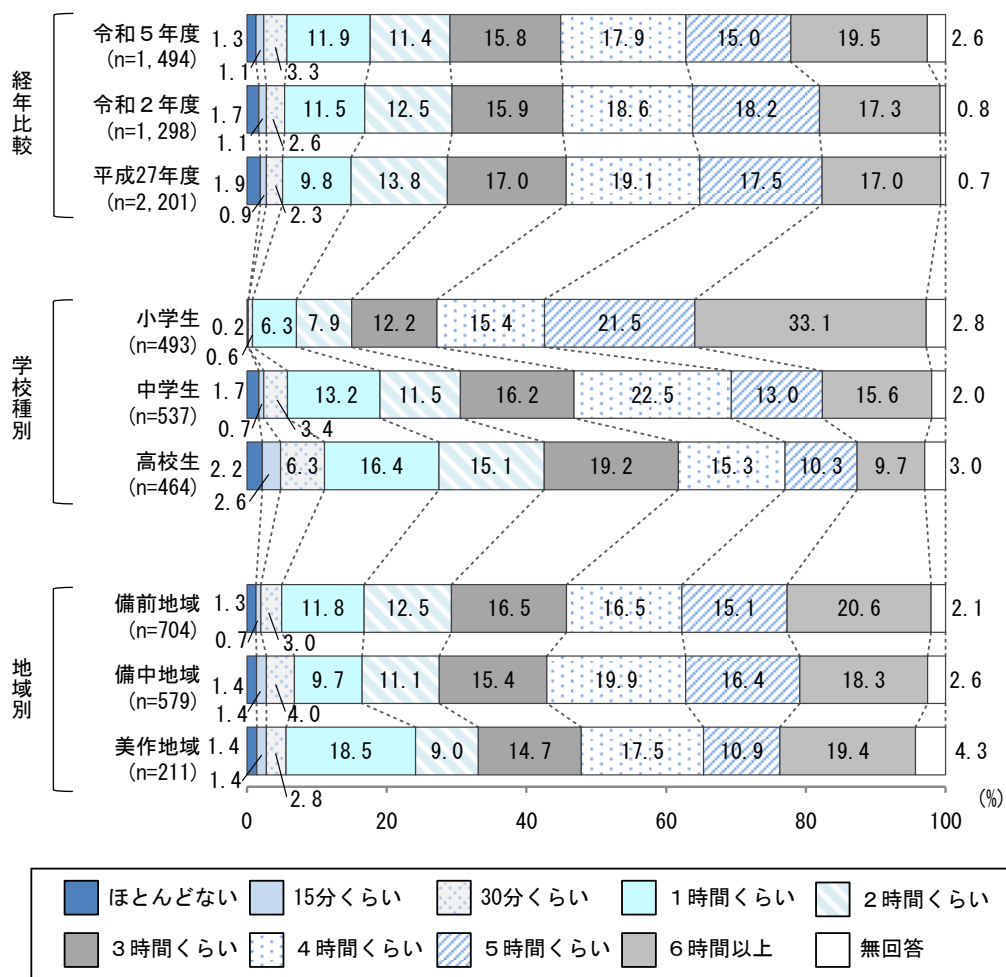
平日に子どもと一緒に過ごす時間について、「6時間以上」との回答が19.5%と最も高く、次いで「4時間くらい」（17.9%）、「3時間くらい」（15.8%）、「5時間くらい」（15.0%）などの順となっている。

経年比較すると、大きな差はみられない。

学校種別にみると、『4時間以上』（「4時間くらい」と「5時間くらい」と「6時間以上」を合わせた割合）との回答は小学生で約7割と高く、小学生、中学生、高校生と上がるにつれて一緒に過ごす時間が短くなっている。

地域別にみると、『4時間以上』との回答は備中地域で5割台半ばと他の地域に比べ高くなっている。

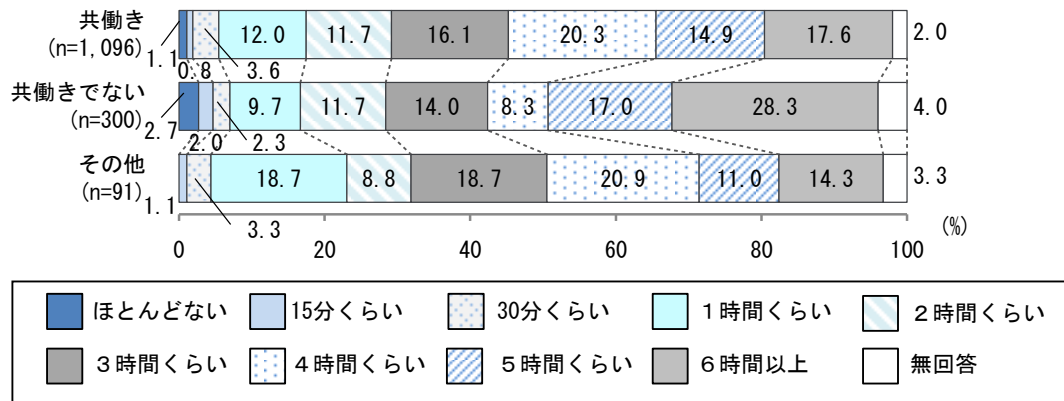
【図表 平日に子どもと一緒に過ごす時間（経年比較・学校種別・地域別）】



<問4 共働き状況との関係>

平日に子どもと一緒に過ごす時間について、共働き状況別にみると、共働きの家庭では「4時間くらい」との回答が約2割、共働きでない家庭では「6時間以上」との回答が約3割と高くなっている。

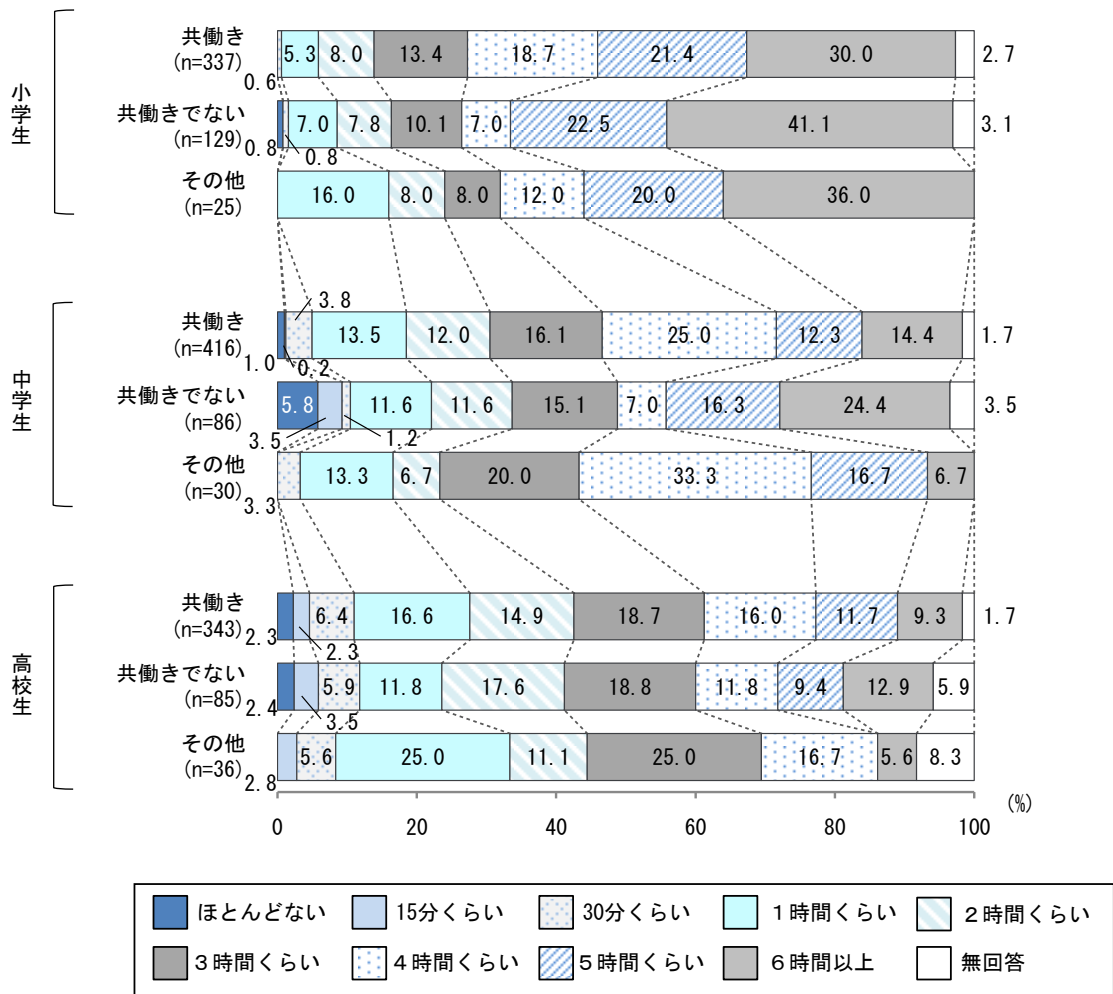
【図表 平日に子どもと一緒に過ごす時間（共働き状況別）】



<問4 共働き状況との関係：学校種別>

平日に子どもと一緒に過ごす時間について、共働き状況別に学校種別でみると、小学生では「6時間以上」との回答が、共働きの家庭で3割、共働きでない家庭で4割超と高くなっている。中学生では共働きの家庭で「4時間くらい」との回答が2割台半ば、共働きでない家庭で「6時間以上」との回答が2割台半ばと高くなっている。高校生では「3時間くらい」との回答が、共働きの家庭と共働きでない家庭で、いずれも約2割と高くなっている。

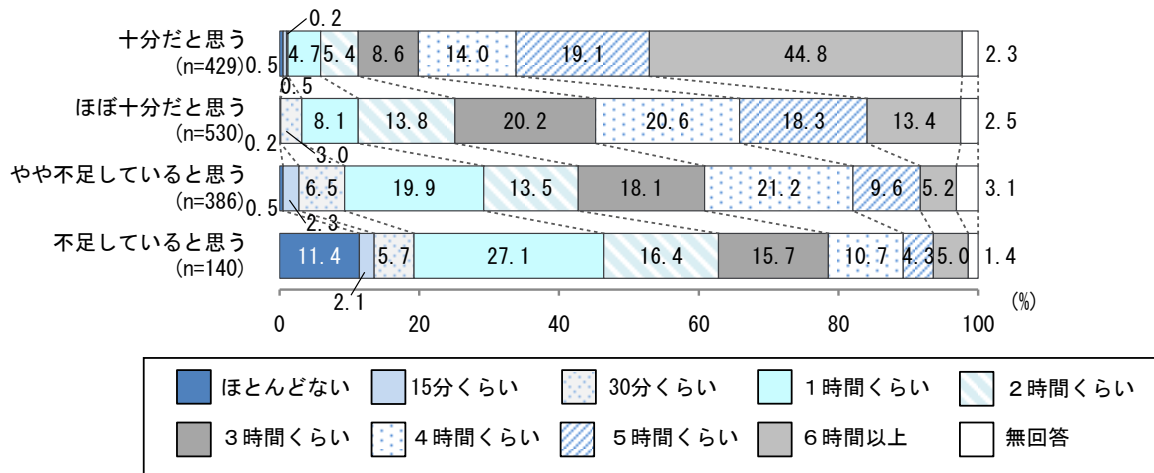
【図表 平日に子どもと一緒に過ごす時間（共働き状況別×学校種別）】



<問8 平日にお子さんと一緒に過ごす時間が十分かどうかとの関係>

平日に子どもと一緒に過ごす時間について、平日に子どもと一緒に過ごす時間が十分かどうか別にみると、一緒に過ごす時間が十分だと思う人は「6時間以上」との回答が4割台半ばと高くなっている。一方、一緒に過ごす時間が不足していると思う人は「1時間くらい」との回答が約3割と高くなっている。

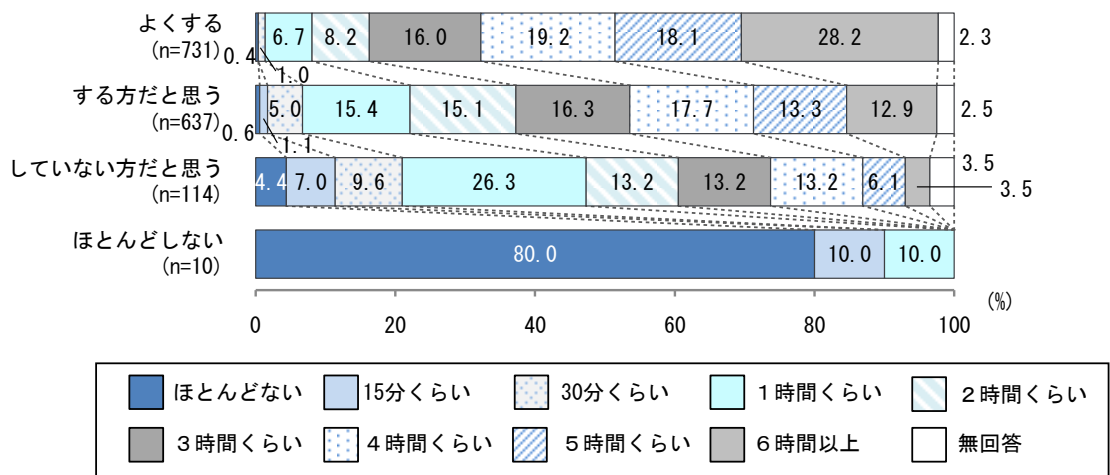
【図表 平日に子どもと一緒に過ごす時間
(平日に子どもと一緒に過ごす時間が十分かどうか別)】



<問9 お子さんとの会話との関係>

平日に子どもと一緒に過ごす時間について、子どもとの会話状況別にみると、会話をよくする人は子どもと一緒に過ごしている時間が「6時間以上」との回答が約3割と高くなっている。一方、会話をしていない方だと思う人は子どもと一緒に過ごしている時間が「1時間くらい」との回答が2割台半ばと高くなっている。

【図表 平日に子どもと一緒に過ごす時間 (子どもとの会話状況別)】



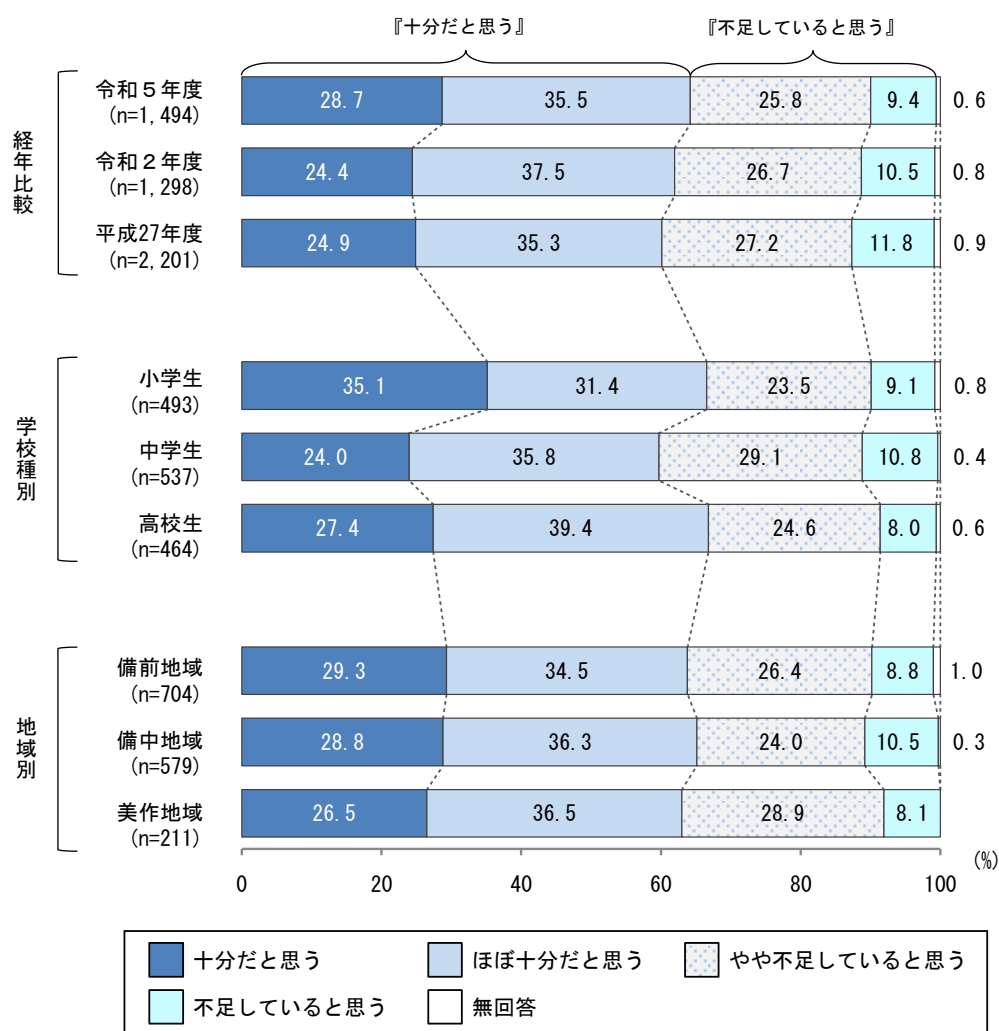
問8 あなたは、問7で○をつけた時間で、十分だと思いますか。《○は1つ》

平日に子どもと一緒に過ごす時間が十分だと思うかどうかについて、『十分だと思う』（「十分だと思う」と「ほぼ十分だと思う」を合わせた割合）との回答が64.2%、『不足していると思う』（「不足していると思う」と「やや不足していると思う」を合わせた割合）との回答が35.2%となっている。

経年比較すると、『十分だと思う』との回答は平成27年度調査から令和5年度調査にかけて増加傾向にあり、『不足していると思う』との回答は減少傾向にある。

学校種別にみると、『十分だと思う』との回答は小学生、高校生で6割台半ばと高くなっている。地域別にみると、大きな差はみられない。

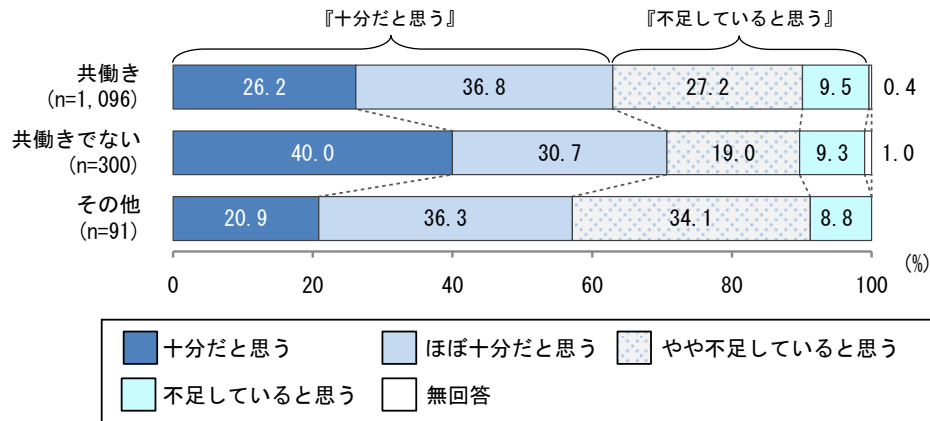
【図表 平日に子どもと一緒に過ごす時間が十分かどうか（経年比較・学校種別・地域別）】



<問4 共働き状況との関係>

平日に子どもと一緒に過ごす時間が十分だと思うかどうかについて、共働き状況別にみると、『十分だと思う』との回答は共働きの家庭（63.0%）が共働きでない家庭（70.7%）を7.7ポイント下回っている。

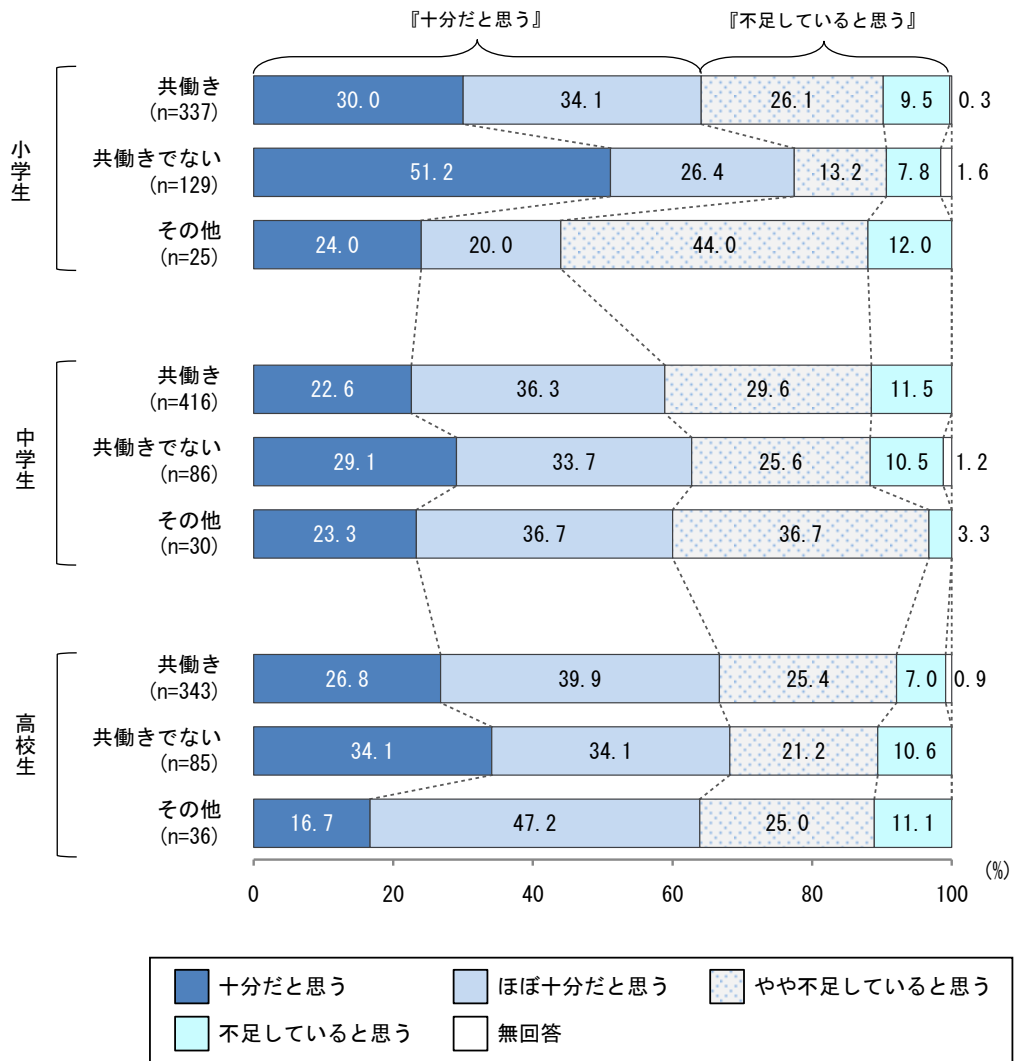
【図表 平日に子どもと一緒に過ごす時間が十分かどうか（共働き状況別）】



<問4 共働き状況との関係：学校種別>

平日に子どもと一緒に過ごす時間が十分だと思うかどうかについて、学校種別の共働き状況別で見ると、『十分だと思う』との回答は小学生で13.5ポイント、中学生で3.9ポイント、高校生で1.5ポイント共働きの家庭が共働きでない家庭を下回っている。

【図表 平日に子どもと一緒に過ごす時間が十分かどうか（共働き状況別×学校種別）】



4 子どもとの会話について

問9 あなたは、お子さんと会話をしていますか。《○は1つ》

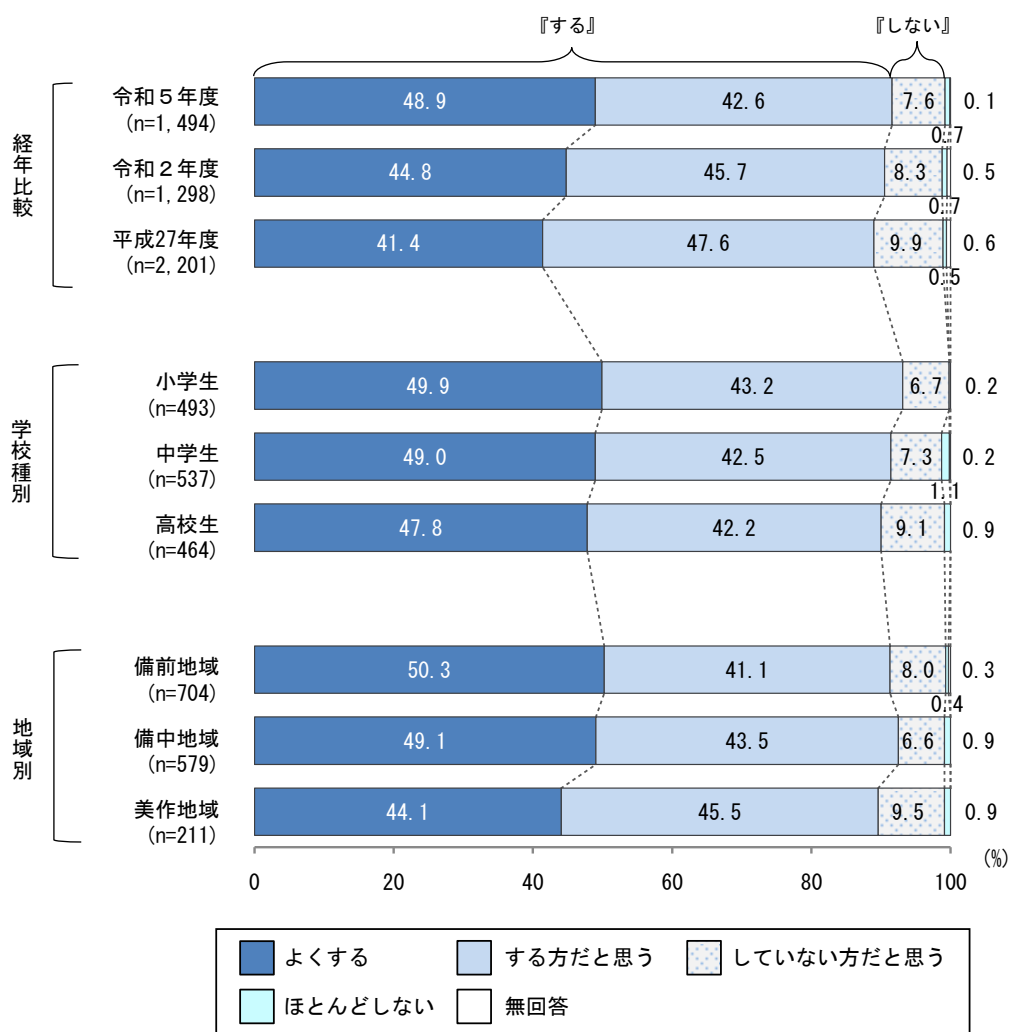
子どもとの会話について、約9割が会話を『する』（「よくする」と「する方だと思う」を合わせた割合）と回答している。

経年比較すると、大きな差はみられない。

学校種別にみると、『しない』（「ほとんどしない」と「していない方だと思う」を合わせた割合）との回答は高校生で1割と高くなっている。

地域別にみると、大きな差はみられない。

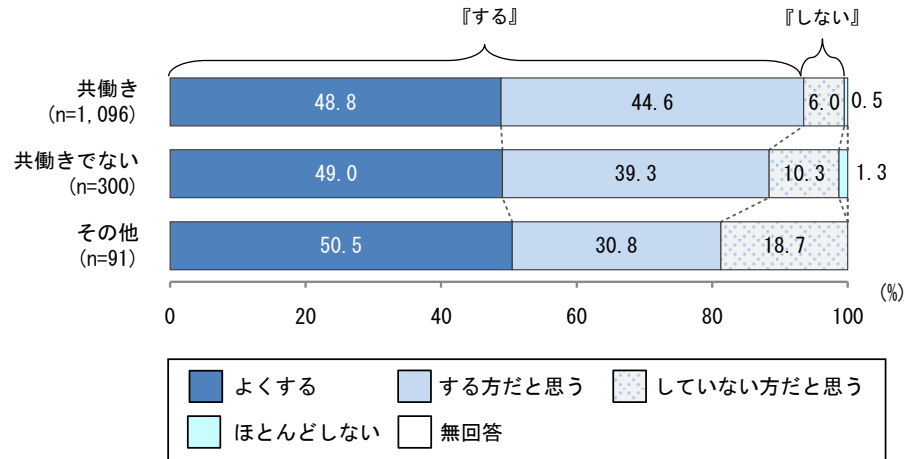
【図表 子どもとの会話（経年比較・学校種別・地域別）】



<問4 共働き状況との関係>

子どもとの会話について、共働き状況別にみると、会話を『する』（「よくする」と「する方だと思ふ」を合わせた回答）と回答した割合は、共働きでない家庭が共働きの家庭を5.1ポイント下回っている。

【図表 子どもとの会話（共働き状況別）】



（問9で「3. していない方だと思う」または「4. ほとんどしない」に○がついた人だけ
お答えください。）

問9-1 あなたが、お子さんと会話をしないのはなぜですか。《○はいくつでも》

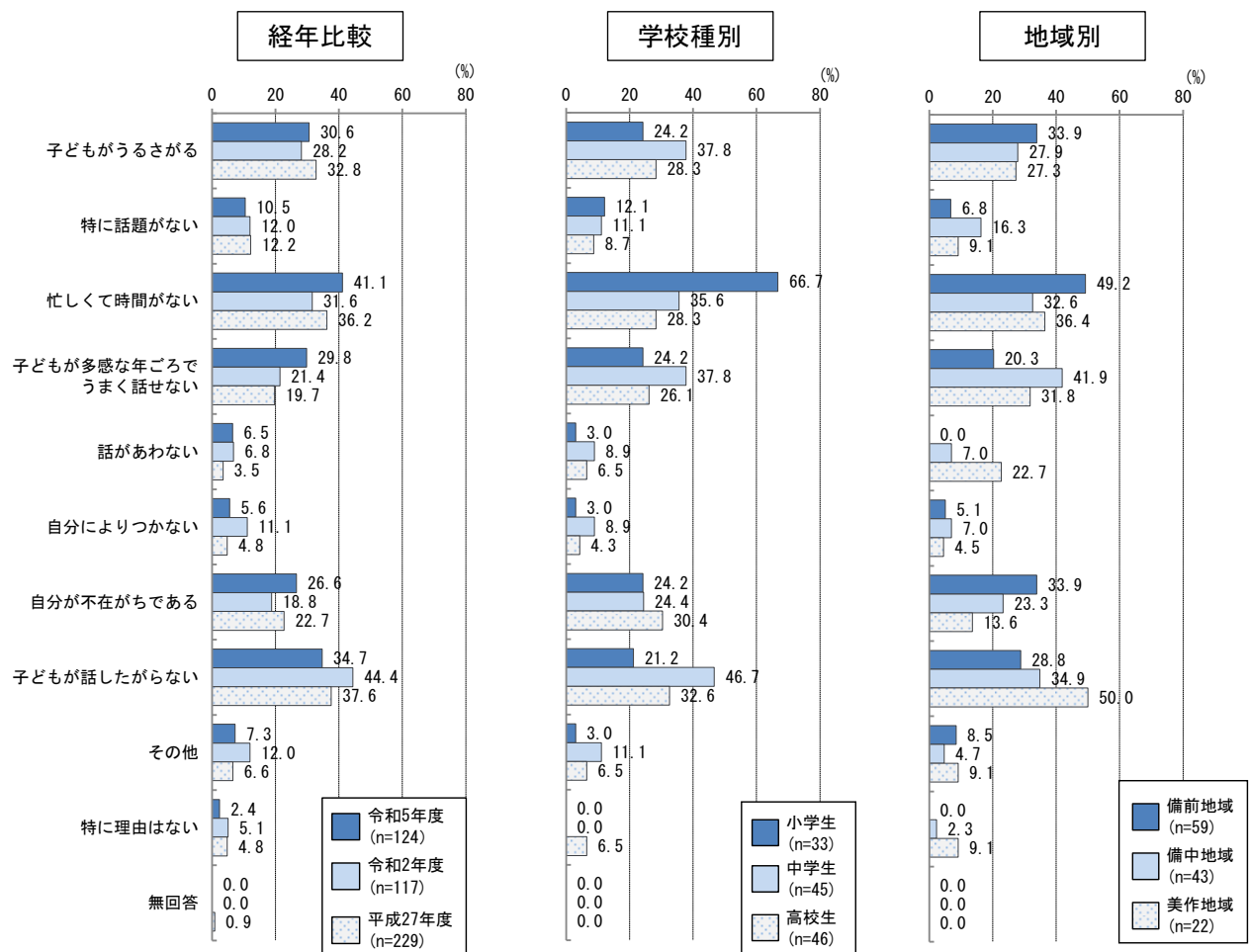
子どもとの会話をしない理由について、「忙しくて時間がない」との回答が41.1%と最も高く、次いで「子どもが話したがらない」(34.7%)、「子どもがうるさがる」(30.6%)などの順となっている。

経年比較すると、「子どもが多感な年ごろでうまく話せない」との回答は平成27年度調査から令和5年度調査にかけて増加傾向にある。

学校種別にみると、「忙しくて時間がない」との回答は小学生で6割台半ばと高くなっている。また、「子どもが話したがらない」、「子どもがうるさがる」、「子どもが多感な年ごろでうまく話せない」は中学生で高くなっている。

地域別にみると、「子どもが話したがらない」との回答が美作地域で5割、「忙しくて時間がない」との回答は備前地域で約5割と他の地域に比べ高くなっている。

【図表 子どもとの会話をしない理由（経年比較・学校種別・地域別）】



問10 あなたは、お子さんとどのようなことを話していますか。《〇はいくつでも》

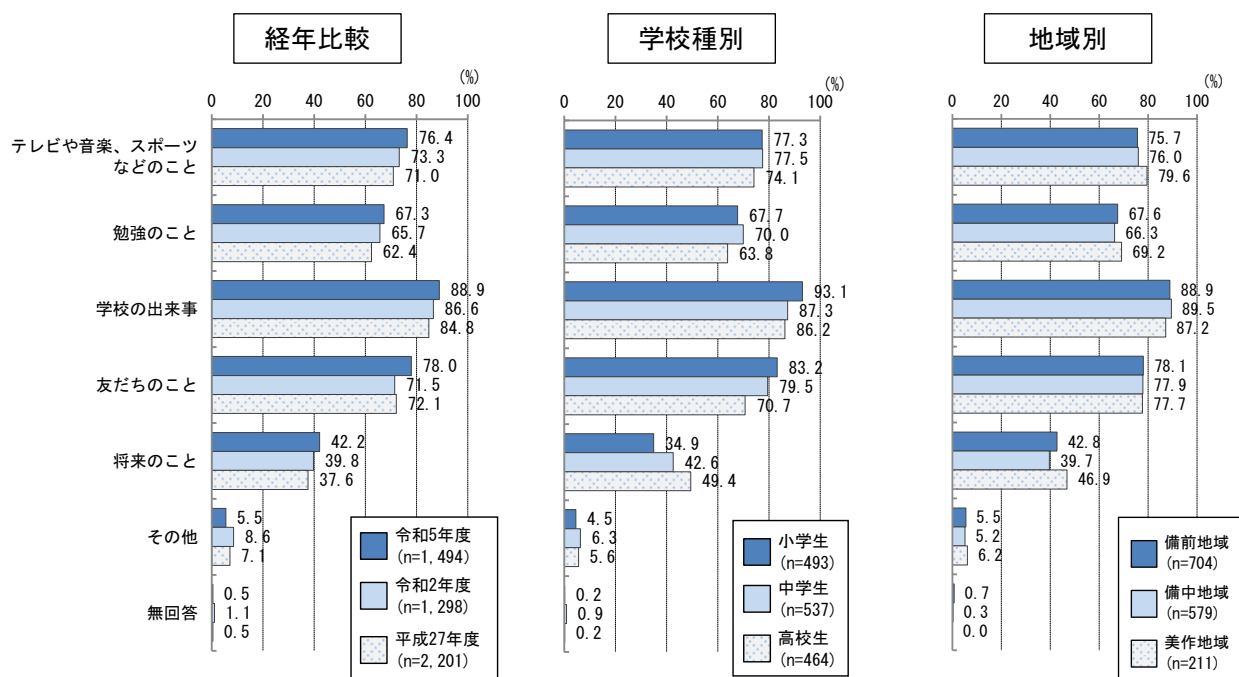
子どもとの会話の内容について、「学校の出来事」との回答が88.9%と最も高く、次いで「友だちのこと」(78.0%)、「テレビや音楽、スポーツなどのこと」(76.4%)、「勉強のこと」(67.3%)などの順となっている。

経年比較すると、すべての選択肢で増加傾向にある。

学校種別にみると、「学校の出来事」、「友だちのこと」との回答は小学生で高く、小学生、中学生、高校生と上がるにつれて低くなっている。一方、「将来のこと」との回答は高校生で高く、小学生、中学生、高校生と上がるにつれて高くなっている。

地域別にみると、「将来のこと」との回答は美作地域で4割台半ばと他の地域に比べ高くなっている。

【図表 子どもとの会話の内容（経年比較・学校種別・地域別）】



5 子どもへのしつけについて

問11 あなたは、お子さんへのしつけについてどう思いますか。《○は1つ》

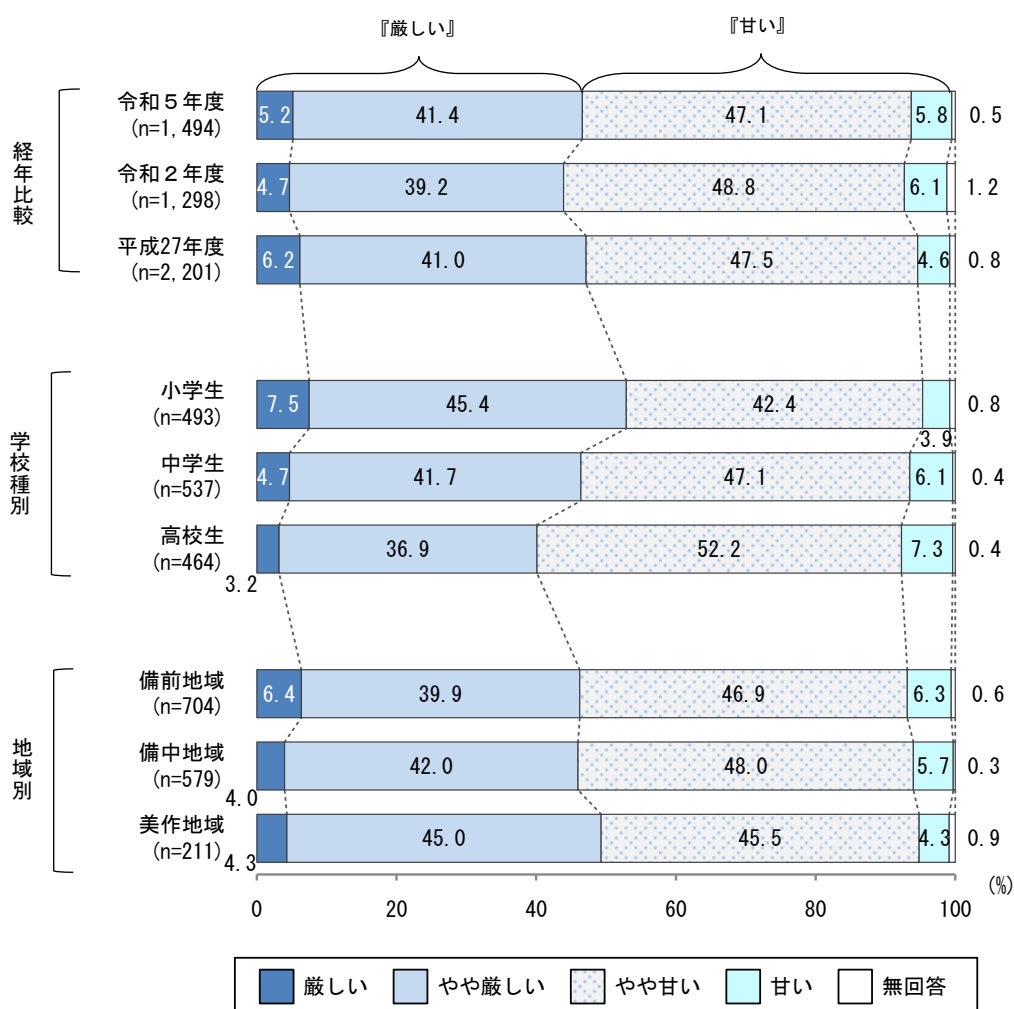
子どもへのしつけについて、『厳しい』（「厳しい」と「やや厳しい」を合わせた割合）との回答が46.6%、『甘い』（「甘い」と「やや甘い」を合わせた割合）との回答が52.9%となっている。

経年比較すると、大きな差はみられない。

学校種別にみると、『厳しい』との回答が小学生で5割超と高くなっており、小学生、中学生、高校生と上がるにつれて低くなっている。

地域別にみると、大きな差はみられない。

【図表 子どもへのしつけ（経年比較・学校種別・地域別）】



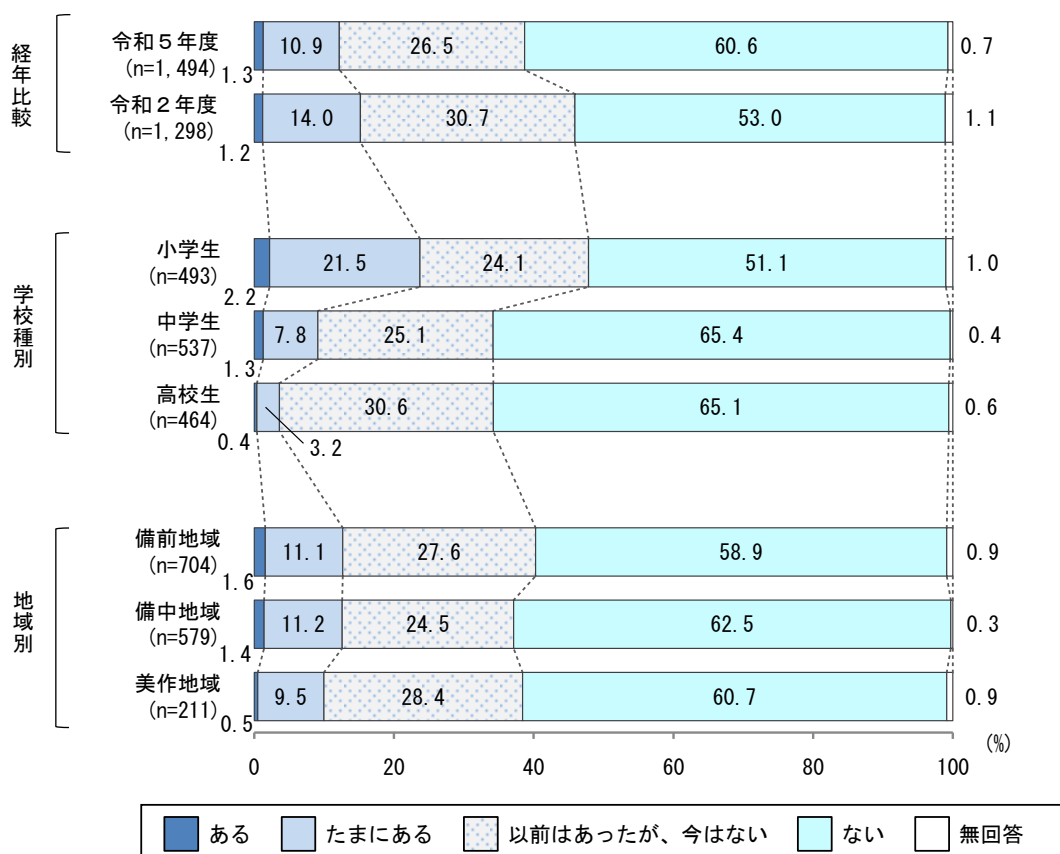
問 1 2 お子さんを叩くことがありますか。《○は1つ》

子どもを叩くことがあるかどうかについて、「ない」との回答が 60.6%と最も高く、次いで「以前はあったが、今はない」(26.5%)、「たまにある」(10.9%)の順となっている。

学校種別にみると、「たまにある」との回答は小学生で2割超と高く、小学生、中学生、高校生と上がるにつれて低くなっている。

地域別にみると、大きな差はみられない。

【図表 子どもを叩くことがあるか（経年比較・学校種別・地域別）】



問13 あなたが、子育てやしつけなどについて、悩みや不安を感じていることは何ですか。

《〇はいくつでも》

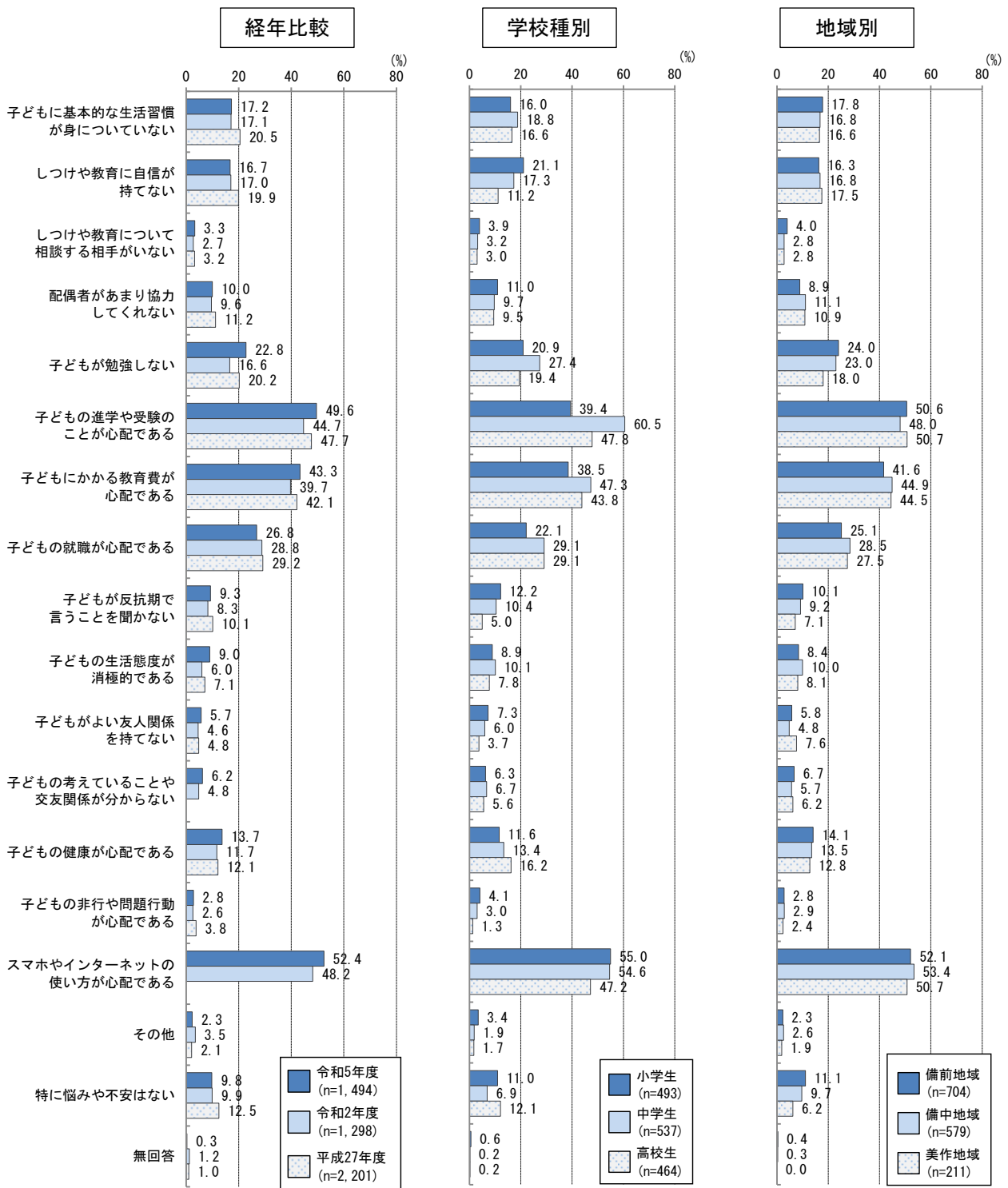
子育てやしつけで悩みや不安を感じていることについて、「スマホやインターネットの使い方が心配である」との回答が52.4%と最も高く、次いで「子どもの進学や受験のことが心配である」(49.6%)、「子どもにかかる教育費が心配である」(43.3%)などの順となっている。

経年比較すると、大きな差はみられない。

学校種別にみると、「子どもの進学や受験のことが心配である」との回答は中学生で約6割と高くなっている。

地域別にみると、大きな差はみられない。

【図表 子育てやしつけで悩みや不安を感じていること（経年比較・学校種別・地域別）】



<問8 平日にお子さんと一緒に過ごす時間が十分かどうかとの関係>

子育てやしつけで悩みや不安を感じていることについて、平日に子どもと一緒に過ごす時間が十分かどうか別でみると、「子どもの進学や受験のことが心配である」「子どもにかかる教育費が心配である」以外の項目で、子どもと一緒に過ごす時間が不足していると思う人は、悩みや不安を感じている人が多くなる傾向がみられる。

【図表 子育てやしつけで悩みや不安を感じていること
(平日に子どもと一緒に過ごす時間が十分かどうか別)】

(%)

		全体	子どもの進学や受験のことが心配である	スマホやインターネットの使い方が心配である	子どもにかかる教育費が心配である	子どもの就職が心配である	子どもが勉強しない	子どもに基本的な生活習慣が身につけていない	子どもの健康が心配である	しつけや教育に自信が持てない	配偶者があまり協力してくれない
分 か ど う か	令和5年度	464	47.8	47.2	43.8	29.1	19.4	16.6	16.2	11.2	9.5
	平日にお子さんと一緒に過ごす時間が十分だと思う	127	46.5	44.1	37.8	24.4	16.5	14.2	13.4	4.7	8.7
	ほぼ十分だと思う	183	44.3	43.7	47.0	31.1	14.2	14.2	17.5	12.0	7.1
	やや不足していると思う	114	56.1	53.5	44.7	29.8	25.4	18.4	13.2	15.8	13.2
	不足していると思う	37	45.9	54.1	43.2	32.4	32.4	27.0	29.7	16.2	13.5
		全体	子どもの生活態度が消極的である	子どもの考えや交友関係が分からない	子どもが反抗期で言うことを聞かない	子どもがよい友人関係を持っていない	しつけや教育について相談する相手がいない	子どもの非行や問題行動が心配である	その他	特に悩みや不安はない	無回答
分 か ど う か	令和5年度	464	7.8	5.6	5.0	3.7	3.0	1.3	1.7	12.1	0.2
	平日にお子さんと一緒に過ごす時間が十分だと思う	127	5.5	4.7	6.3	3.9	2.4	0.8	-	18.9	-
	ほぼ十分だと思う	183	7.1	4.4	3.8	5.5	2.2	1.1	1.1	9.3	-
	やや不足していると思う	114	8.8	6.1	2.6	1.8	5.3	1.8	3.5	8.8	0.9
	不足していると思う	37	16.2	13.5	10.8	-	2.7	2.7	5.4	13.5	-

問14 お子さんの手本となるよう、あなたが普段から心がけていることは何ですか。

《〇はいくつでも》

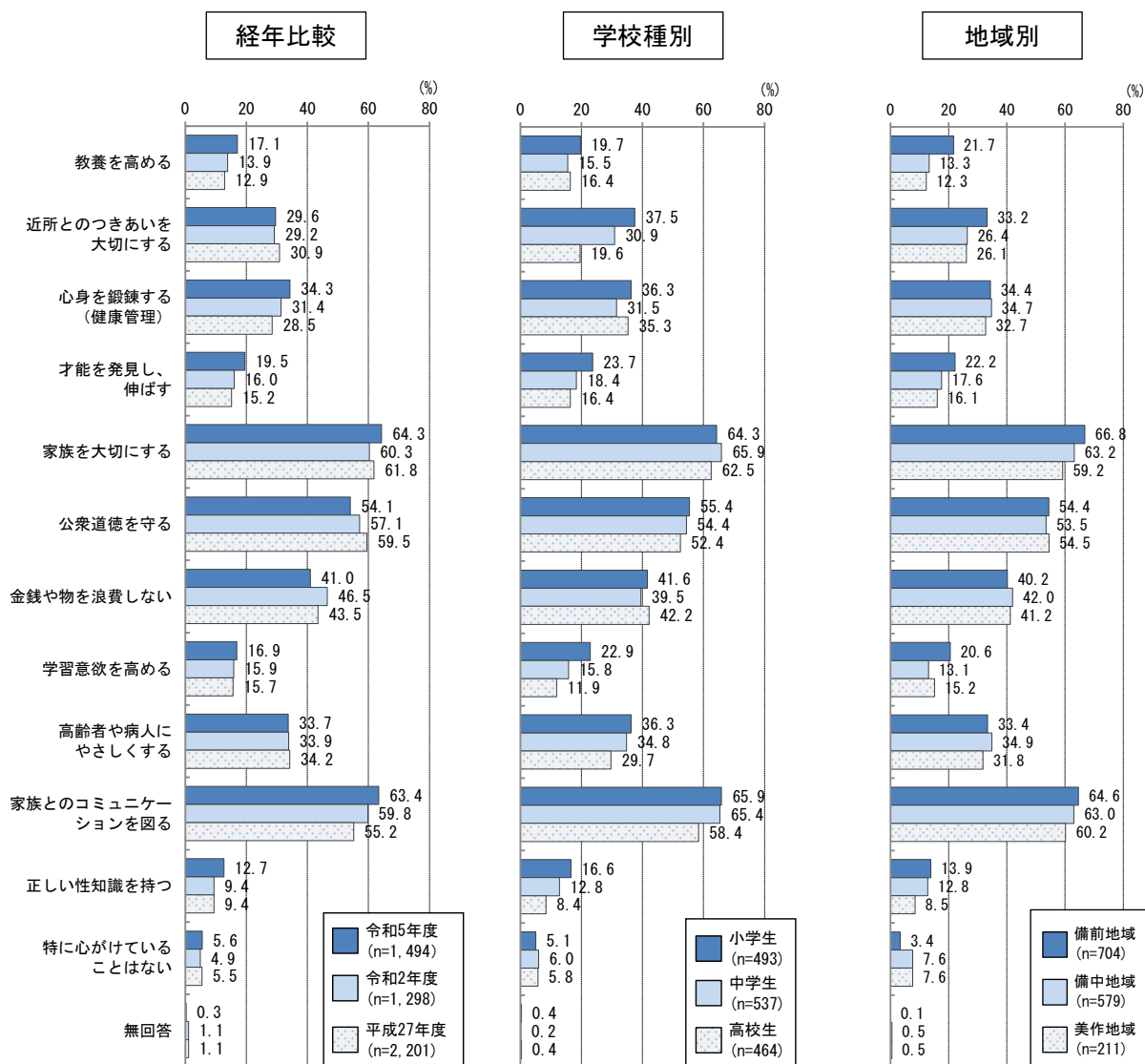
子どもの手本となるよう心がけていることについて、「家族を大切にする」との回答が64.3%と最も高く、次いで「家族とのコミュニケーションを図る」(63.4%)、「公衆道徳を守る」(54.1%)、「金銭や物を浪費しない」(41.0%)などの順となっている。

経年比較すると、「家族とのコミュニケーションを図る」との回答は平成27年度調査から令和5年度調査にかけて増加傾向にある。

学校種別にみると、ほぼすべての選択肢で小学生が高くなっている。

地域別にみると、「教養を高める」との回答は備前地域で2割超と他の地域に比べ高くなっている。

【図表 子どもの手本となるよう心がけていること（経年比較・学校種別・地域別）】



問15 あなたの家庭では、子育てやしつけを主に誰がしていますか。《○は1つ》

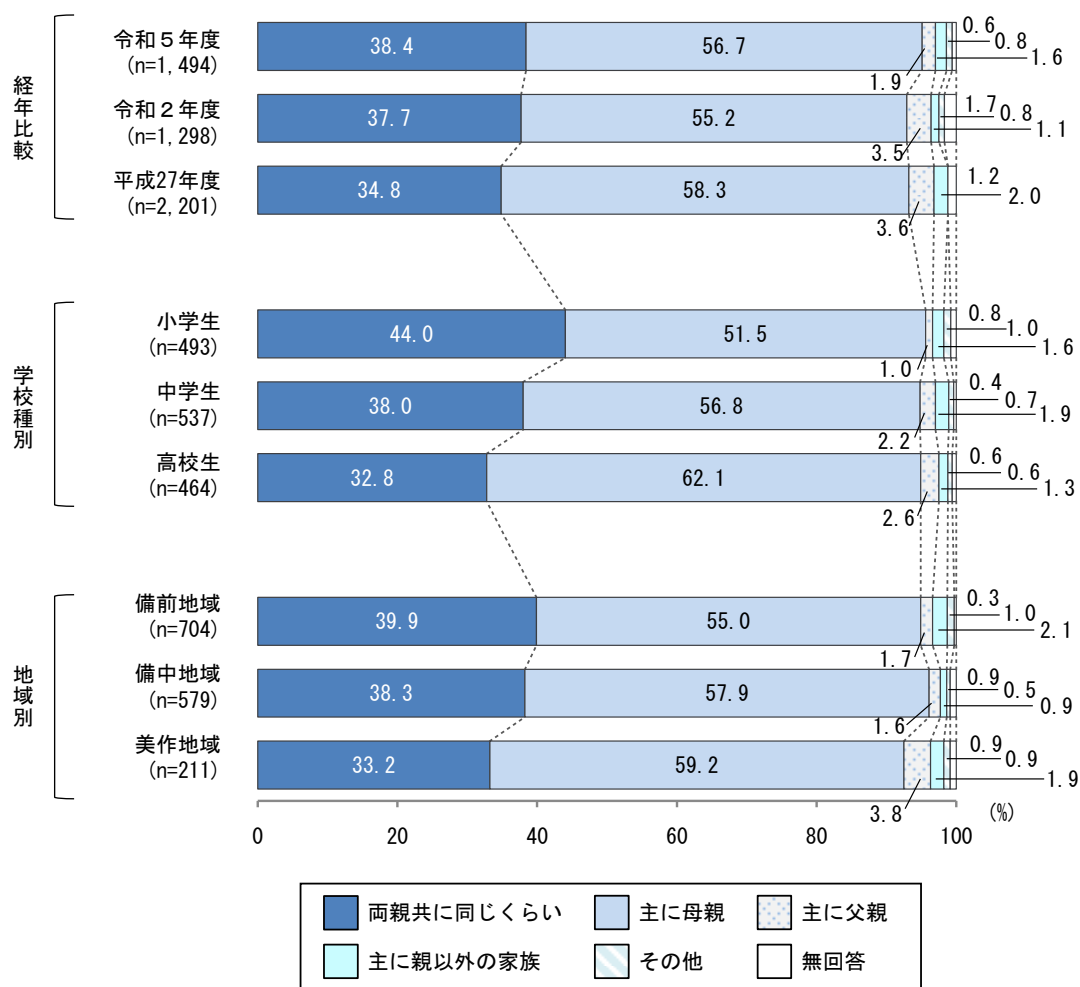
家庭における子育てやしつけをする人について、「主に母親」との回答が56.7%と最も高く、次いで「両親共に同じくらい」(38.4%)などの順となっている。

経年比較すると、大きな差はみられない。

学校種別にみると、「両親共に同じくらい」との回答は小学生で4割台半ばと高く、小学生、中学生、高校生と上がるにつれて低くなっている。

地域別にみると、「主に母親」との回答は美作地域で約6割と他の地域に比べ高くなっている。

【図表 家庭における子育てやしつけをする人（経年比較・学校種別・地域別）】



6 学校に希望することについて

問16 あなたは、お子さんの通っている学校に対して、希望することがありますか。

《○は3つまで》

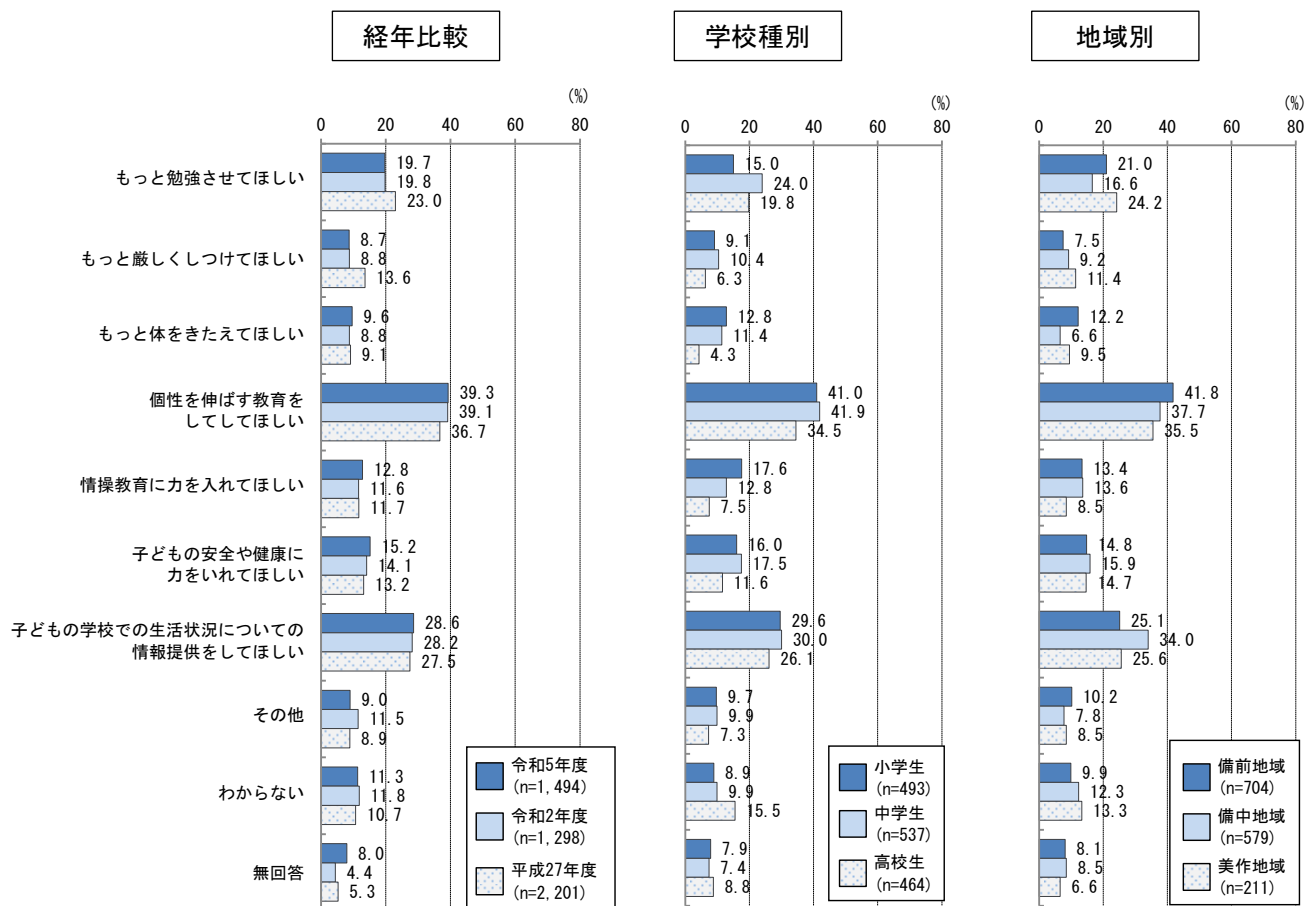
通っている学校に対して希望することについて、「個性を伸ばす教育をしてほしい」との回答が39.3%と最も高く、次いで「子どもの学校での生活状況についての情報提供をしてほしい」(28.6%)、「もっと勉強させてほしい」(19.7%)などの順となっている。

経年比較すると、「もっと勉強させてほしい」との回答は平成27年度調査から令和5年度調査にかけて減少傾向にある。

学校種別にみると、大きな差はみられない。

地域別にみると、「子どもの学校での生活状況についての情報提供をしてほしい」との回答が、備中地域で3割台半ばと他の地域に比べ高くなっている。

【図表 通っている学校に対して希望すること（経年比較・学校種別・地域別）】



7 通学状況について

問17 お子さんが、学校に行きたくないと言うことがありますか。《○は1つ》

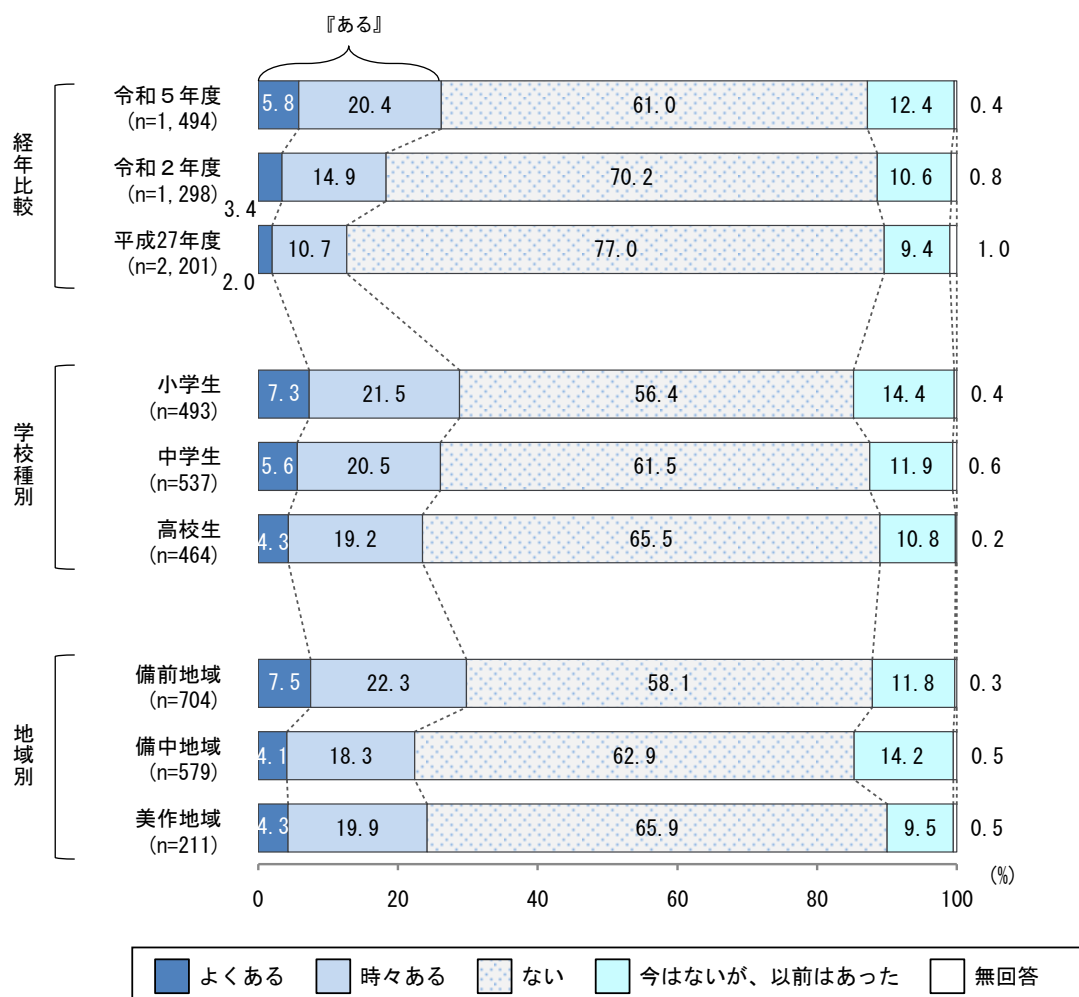
子どもが学校に行きたくないと言うことがあるかどうかについて、『ある』（「よくある」と「時々ある」を合わせた割合）との回答が26.2%、「ない」との回答が61.0%、「今はないが、以前はあった」との回答が12.4%となっている。

経年比較すると、『ある』との回答は今回調査が前回調査を7.9ポイント上回っており、平成27年度調査から令和5年度調査にかけて増加傾向にある。

学校種別にみると、『ある』との回答は小学生で約3割と高く、小学生、中学生、高校生と上がるにつれて低くなっている。

地域別にみると、『ある』との回答は備前地域で約3割と高くなっている。

【図表 学校に行きたくないと言うことがあるかどうか（経年比較・学校種別・地域別）】



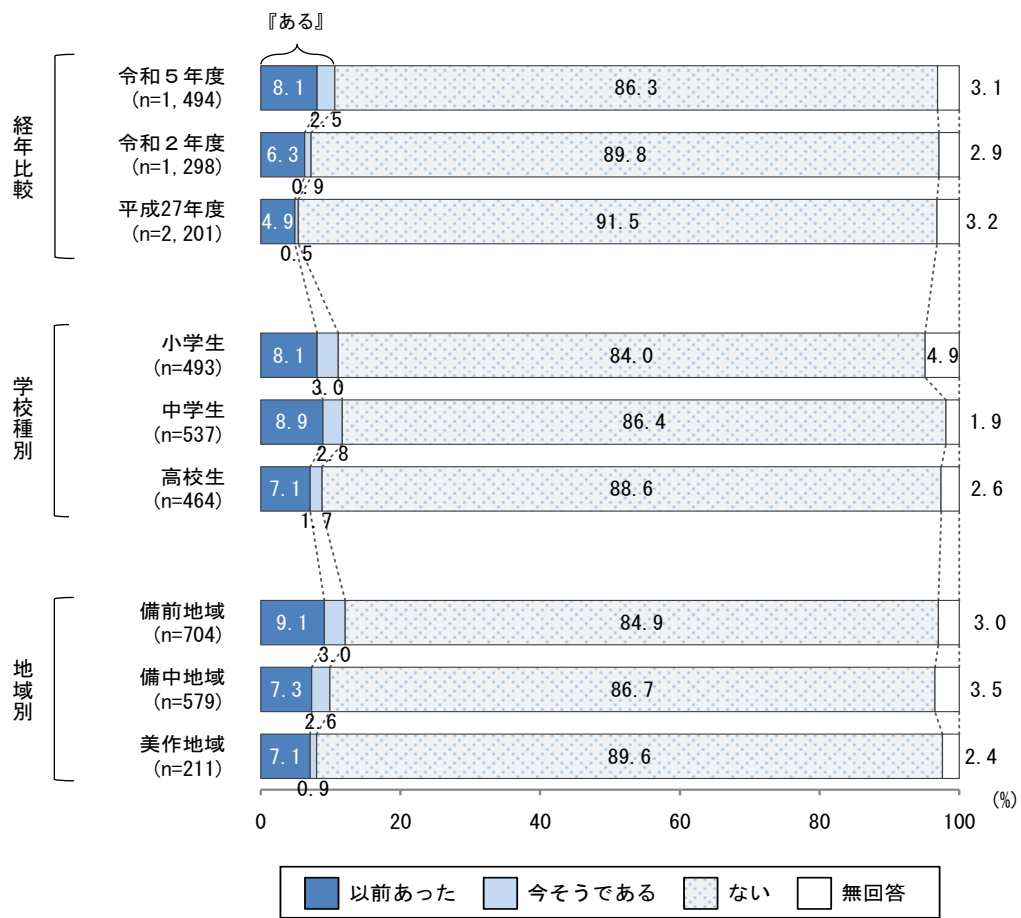
問18 お子さんが、病気などやむを得ない事情がなく、何日も続けて学校に行かない（不登校の状態になった）ことがありますか。《○は1つ》

子どもが不登校の状態になった経験について、「以前あった」との回答が8.1%、「今そうである」との回答が2.5%、「ない」との回答が86.3%となっている。

経年比較すると、『ある』（「以前あった」と「今そうである」を合わせた割合）との回答は平成27年度調査から令和5年度調査にかけて増加傾向にある。

学校種別、地域別にみると、いずれも大きな差はみられない。

【図表 不登校の状態になった経験（経年比較・学校種別・地域別）】



(問18で「1.以前あった」に○がついた人だけお答えください。)

問18-1 お子さんが、学校へ復帰するうえで、有効だったものはどれですか。

《○はいくつでも》

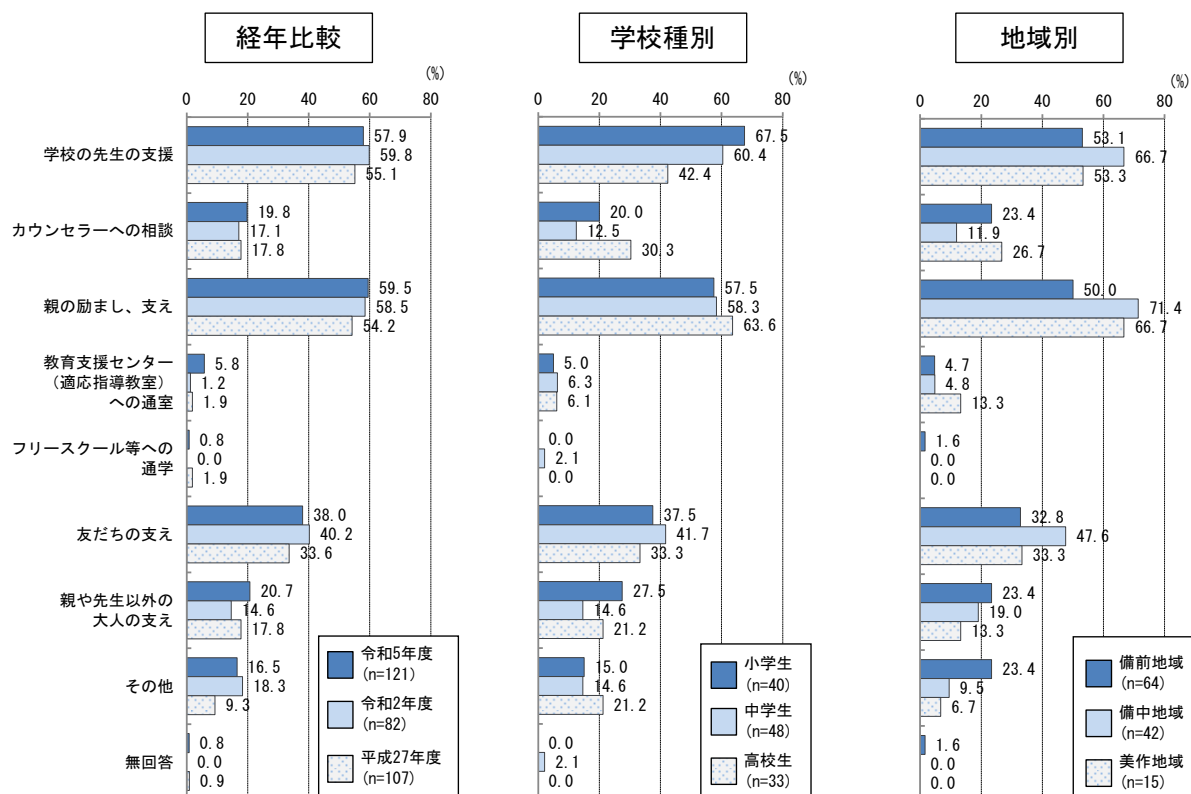
学校へ復帰するうえで有効だったと思うことについて、「親の励まし、支え」との回答が59.5%と最も高く、次いで「学校の先生の支援」(57.9%)、「友だちの支え」(38.0%)などの順となっている。

経年比較すると、「親の励まし、支え」との回答は平成27年度調査から令和5年度調査にかけて増加傾向にある。

学校種別にみると、小学生では「学校の先生の支援」、中学生では「友だちの支え」、高校生では「親の励まし、支え」との回答が他の学校種別に比べ高くなっている。

地域別にみると、「学校の先生の支援」、「親の励まし、支え」、「友だちの支え」との回答は備中地域で他の地域に比べ高くなっている。

【図表 学校へ復帰するうえで有効だったと思うこと (経年比較・学校種別・地域別)】



8 近所との関わりについて

問19 あなたの家では、近所の方とのつきあいがどの程度ありますか。《○は1つ》

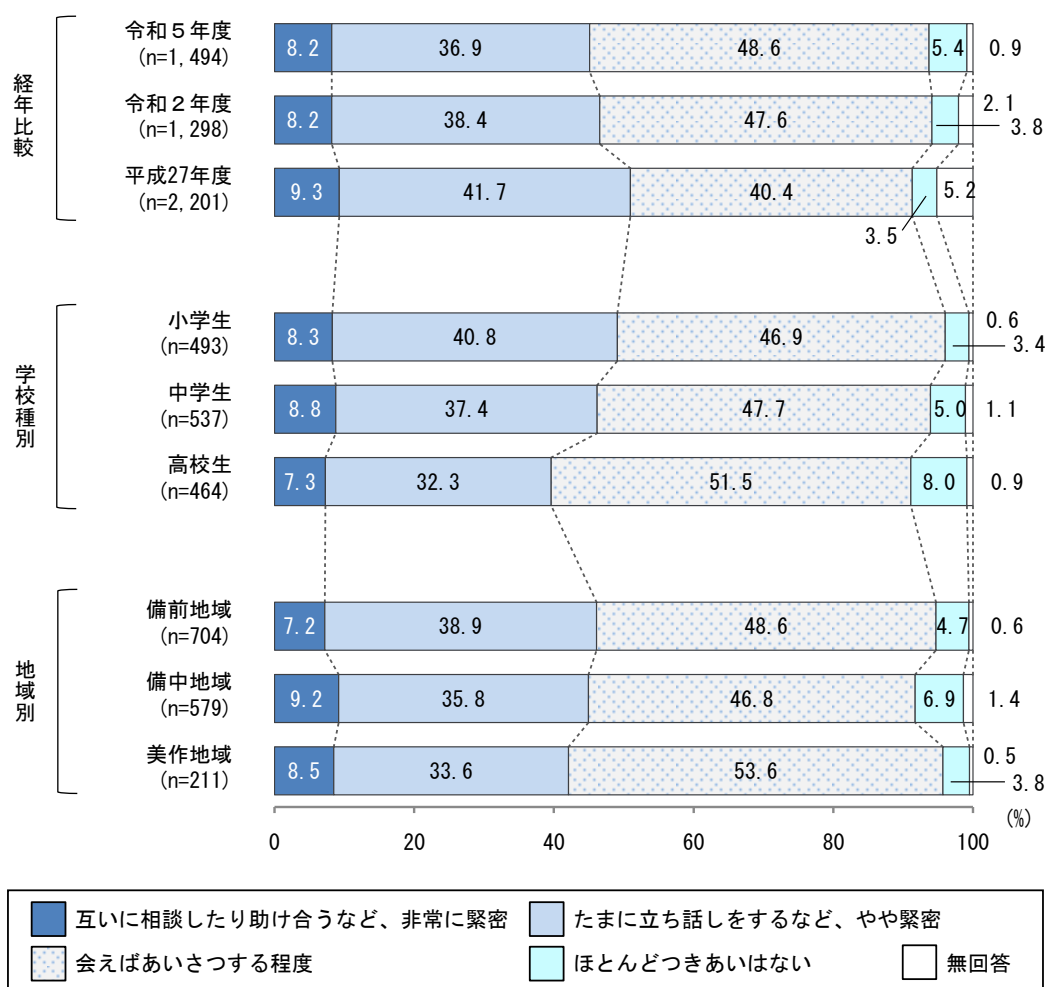
近所付き合いの程度について、「会えばあいさつする程度」との回答が48.6%と最も高く、次いで「たまに立ち話しをするなど、やや緊密」(36.9%)、「互いに相談したり助け合うなど、非常に緊密」(8.2%)などの順となっている。

経年比較すると、「互いに相談したり助け合うなど、非常に緊密」、「たまに立ち話しをするなど、やや緊密」との回答はともに平成27年度調査から令和5年度調査にかけて減少傾向にある。

学校種別にみると、「たまに立ち話しをするなど、やや緊密」との回答は高校生で3割超と低くなっている。

地域別にみると、大きな差はみられない。

【図表 近所付き合いの程度（経年比較・学校種別・地域別）】



9 地域活動について

問20 あなたは、最近1年間で次のような地域の活動に参加したことがありますか。

《○はいくつでも》

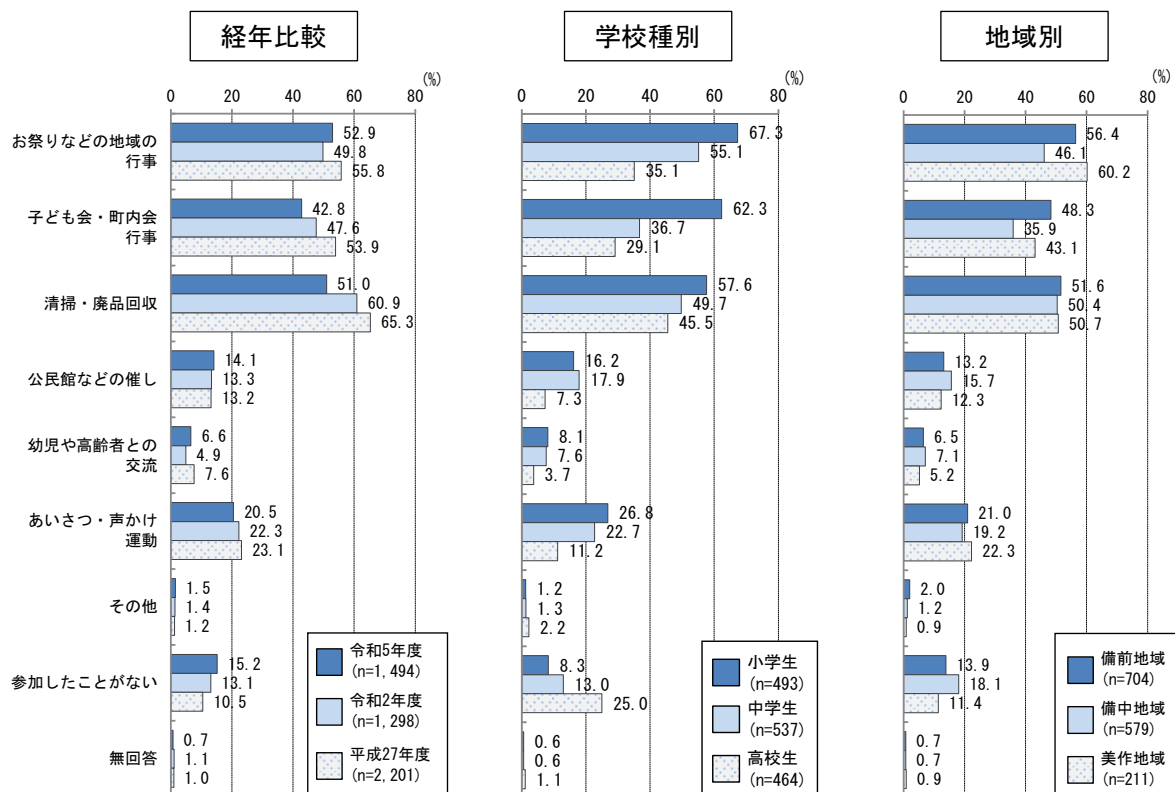
参加した地域活動について、「お祭りなどの地域の行事」との回答が52.9%と最も高く、次いで「清掃・廃品回収」(51.0%)、「子ども会・町内会行事」(42.8%)などの順となっている。

経年比較すると「子ども会・町内会行事」との回答は4.8ポイント、「清掃・廃品回収」との回答は今回調査が前回調査を9.9ポイント下回っている。

学校種別にみると、ほぼすべての選択肢において小学生で高く、小学生、中学生、高校生と上がるにつれて減少傾向にある。

地域別にみると、「お祭りなどの地域の行事」、「子ども会・町内会行事」との回答は備中地域で他の地域に比べ低くなっている。

【図表 参加した地域活動（経年比較・学校種別・地域別）】



問21 あなたは、ボランティア活動をしていますか。《○は1つ》

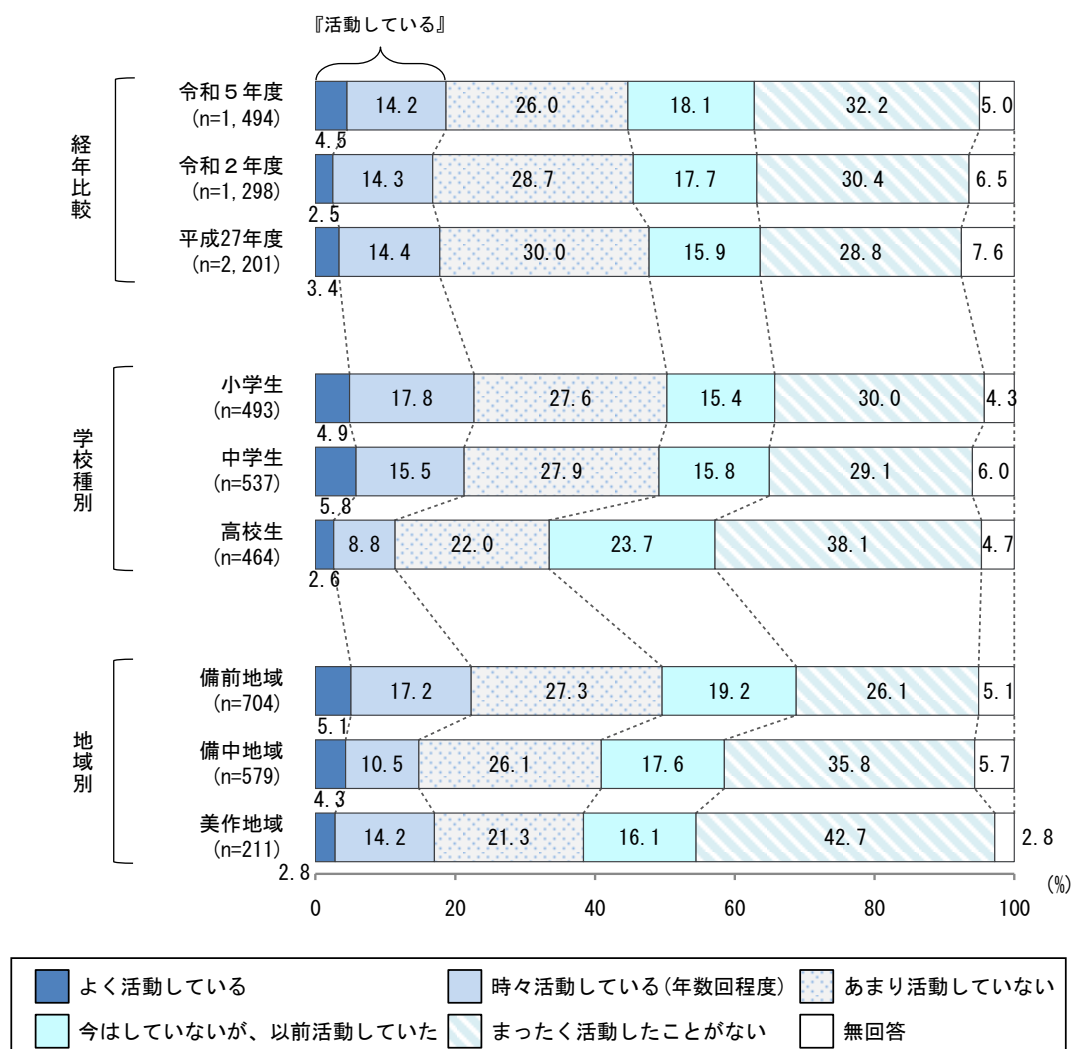
ボランティア活動の状況について、「まったく活動したことがない」との回答が32.2%と最も高く、次いで「あまり活動していない」(26.0%)、「今はしていないが、以前活動していた」(18.1%)などの順となっている。

経年比較すると、大きな差はみられない。

学校種別にみると、『活動している』(「よく活動している」と「時々活動している」を合わせた割合)との回答は小学生、中学生で2割超となっている。

地域別にみると、「まったく活動したことがない」との回答は美作地域で4割超と他の地域に比べ高くなっている。

【図表 ボランティア活動の状況（経年比較・学校種別・地域別）】



(問20で「8. 参加したことがない」または問21で「5. まったく活動したことがない」に〇がついた人だけお答えください。)

問22 あなたが、地域活動やボランティア活動に参加しないのは、なぜですか。

《〇は3つまで》

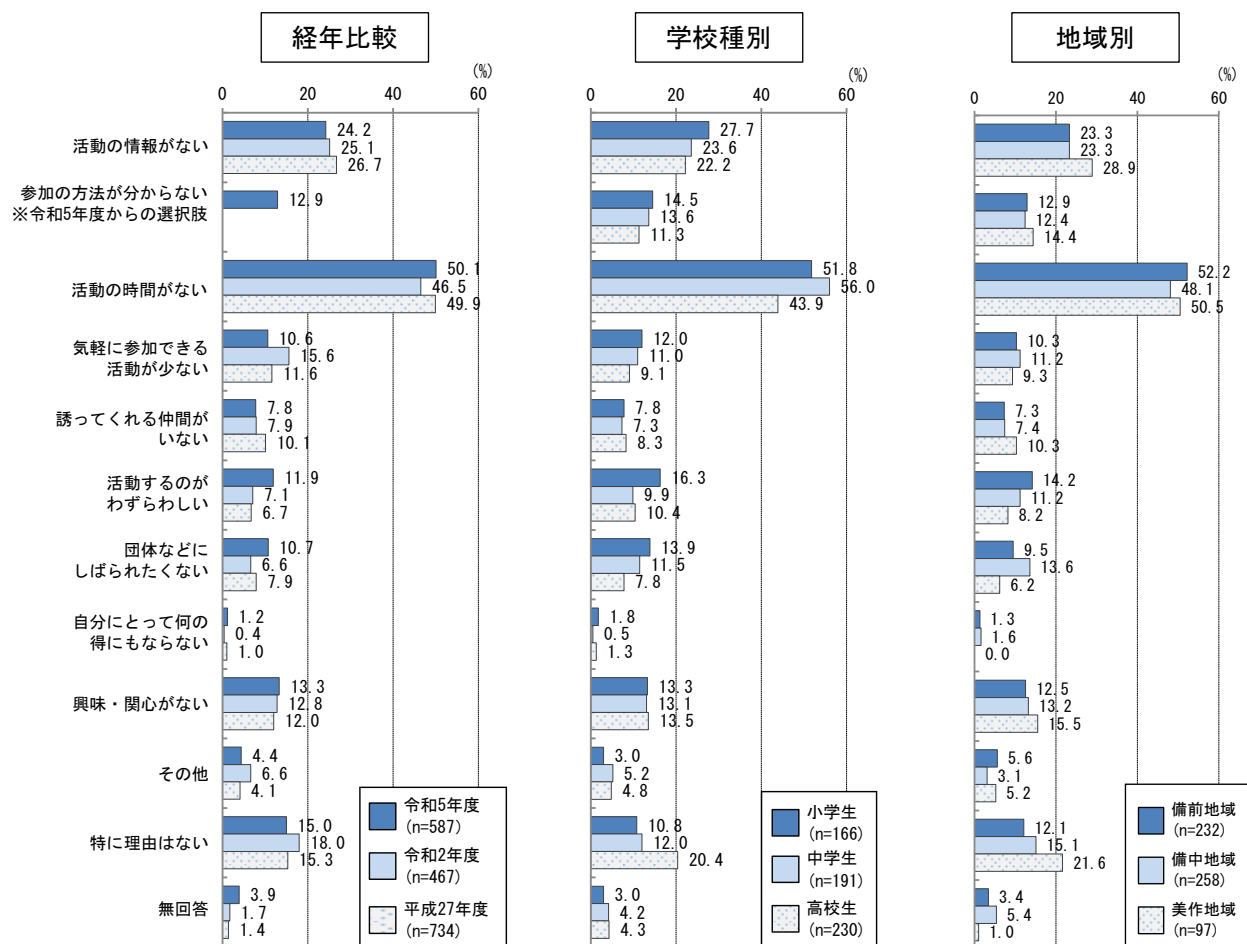
地域活動やボランティア活動に参加しない理由について、「活動の時間がない」との回答が50.1%と最も高く、次いで「活動の情報がない」(24.2%)、「興味・関心がない」(13.3%)などの順となっている。

経年比較すると、大きな差はみられない。

学校種別にみると、「活動するのがわずらわしい」との回答は小学生が中学生、高校生を5.9ポイント上回っている。

地域別にみると、「活動の情報がない」との回答は美作地域で約3割と他の地域に比べ高くなっている。

【図表 地域活動やボランティア活動に参加しない理由（経年比較・学校種別・地域別）】



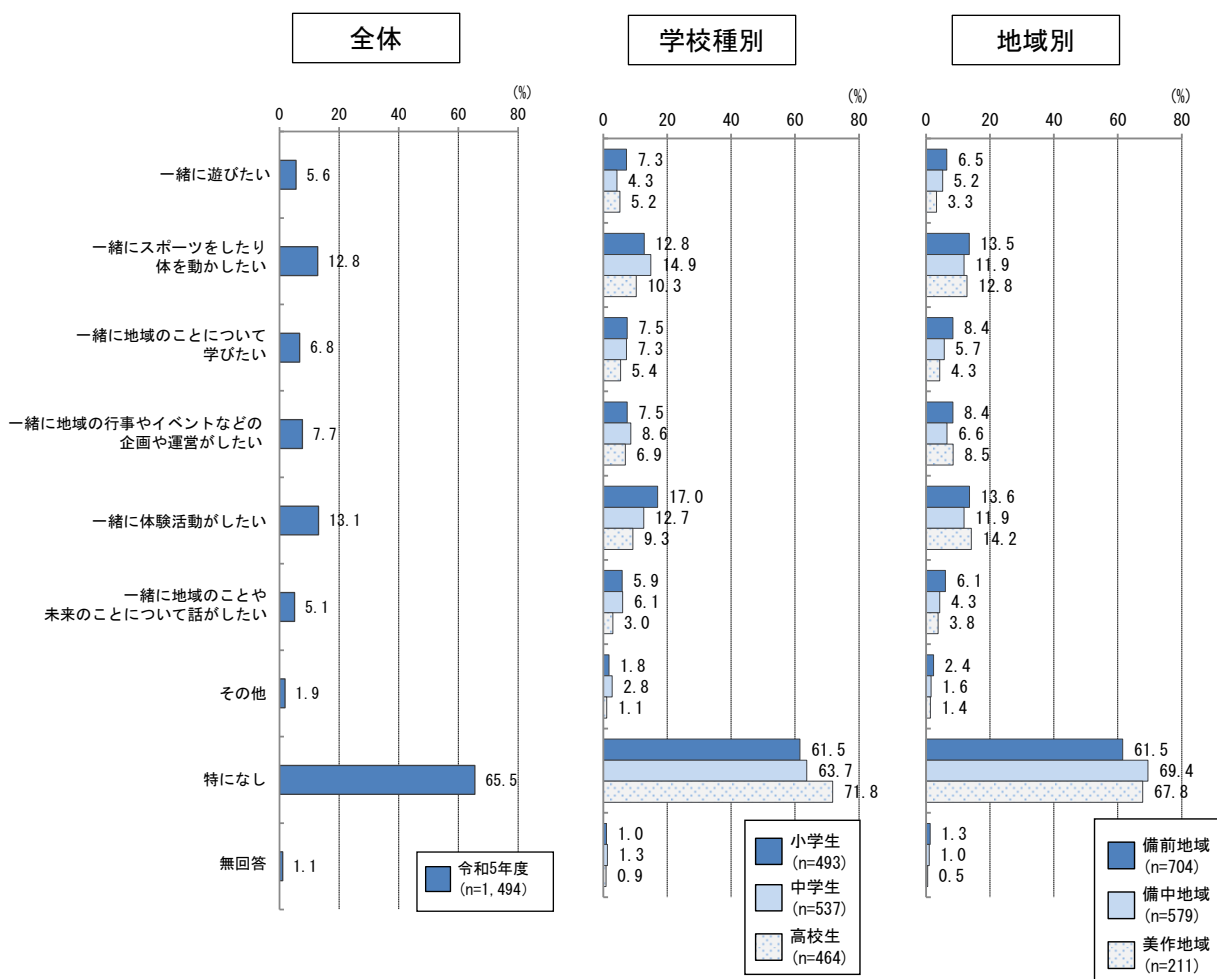
問23 近所の人や身近な地域の人と一緒にしたいことはありますか。《○はいくつでも》

地域の人と一緒にしたいことについて、「一緒に体験活動がしたい」との回答が13.1%と最も高く、次いで「一緒にスポーツをしたり体を動かしたい」(12.8%)、「一緒に地域の行事やイベントなどの企画や運営がしたい」(7.7%)などの順となっている。

学校種別にみると、「一緒に体験活動がしたい」との回答は、小学生、中学生、高校生と上がるにつれて低くなっている。

地域別にみると、大きな差はみられない。

【図表 地域の人と一緒にしたいこと（全体・学校種別・地域別）】



10 相談相手について

問24 あなたの、心配事や悩みの相談相手は誰ですか。《○は3つまで》

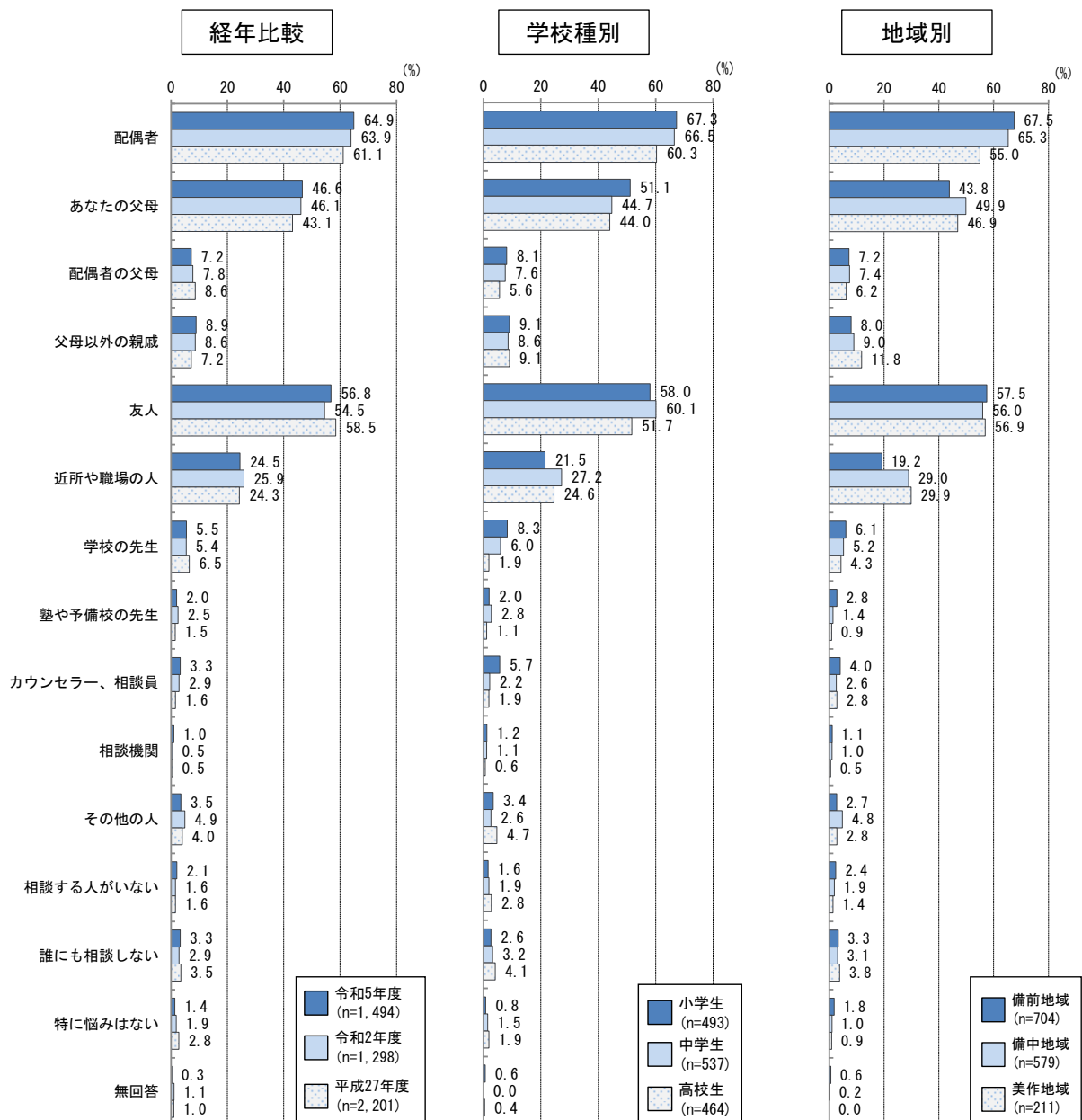
心配事や悩みの相談相手について、「配偶者」との回答が64.9%と最も高く、次いで「友人」(56.8%)、「あなたの父母」(46.6%)などの順となっている。

経年比較すると、大きな差はみられない。

学校種別にみると、「あなたの父母」との回答は小学生で5割超と高くなっている。

地域別にみると、大きな差はみられない。

【図表 心配事や悩みの相談相手（経年比較・学校種別・地域別）】



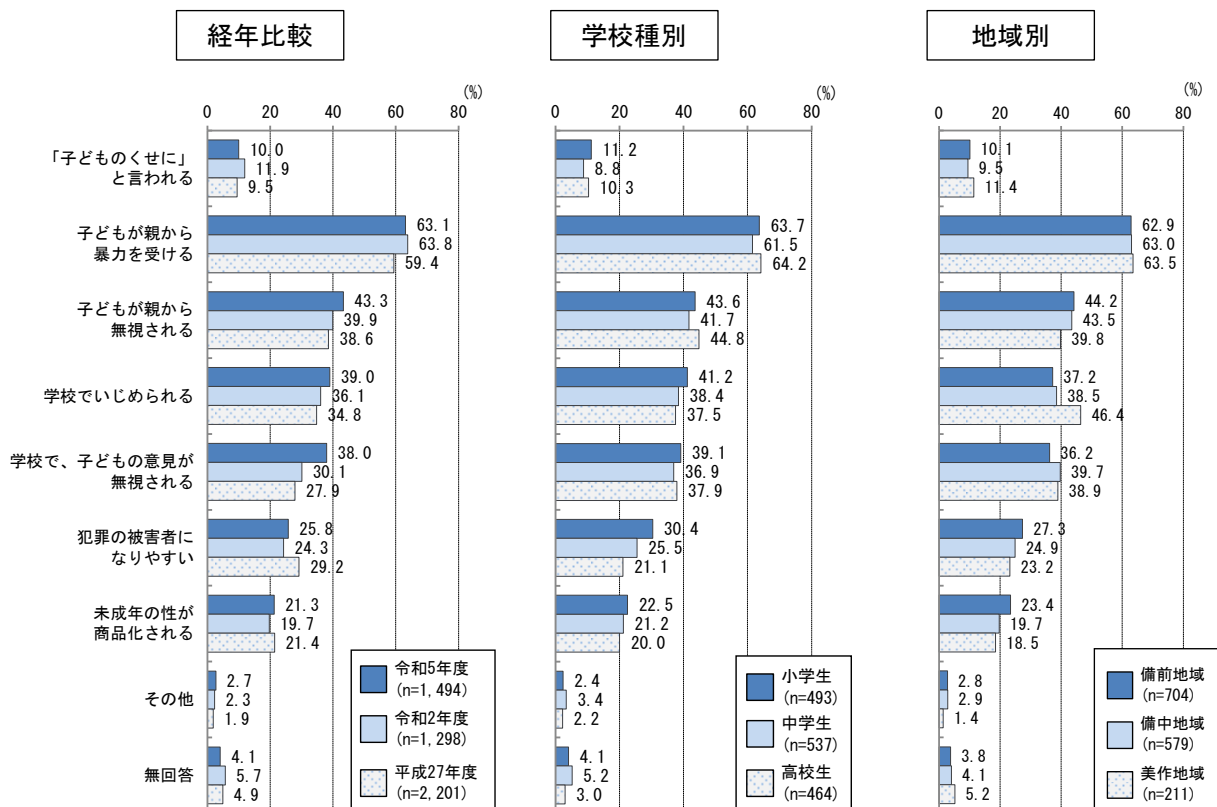
11 子どもの人権が守られていないと思うときについて

問25 あなたが、「子どもの人権（人が生まれながらにして持っている権利）」が守られていないと思うときは、どんなときですか。《○は3つまで》

子どもの人権が守られていないと思うときについて、「子どもが親から暴力を受ける」との回答が63.1%と最も高く、次いで「子どもが親から無視される」(43.3%)、「学校でいじめられる」(39.0%)、「学校で、子どもの意見が無視される」(38.0%)などの順となっている。

経年比較、学校種別、地域別にみると、大きな差はみられない。

【図表 子どもの人権が守られていないと思うとき（経年比較・学校種別・地域別）】



12 子どもについてほしい職業（職場）について

問26 あなたは、将来お子さんにどのような職業（職場）についてほしいと望んでいますか。
《○は2つまで》

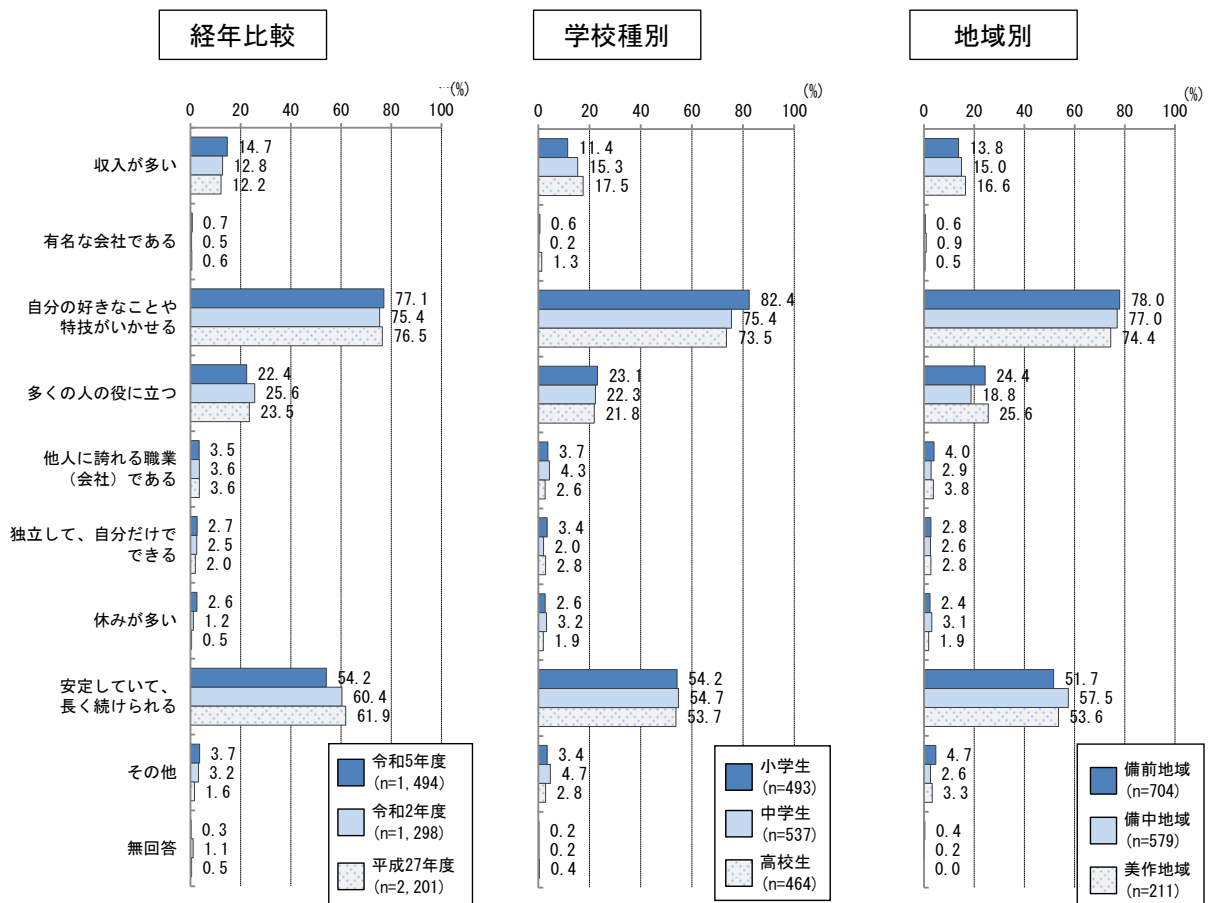
将来子どもについてほしい職業について、「自分の好きなことや特技がいかせる」との回答が77.1%と最も高く、次いで「安定していて、長く続けられる」(54.2%)、「多くの人の役に立つ」(22.4%)などの順となっている。

経年比較すると、大きな差はみられない。

学校種別にみると、「自分の好きなことや特技がいかせる」との回答は小学生で8割超、「収入が多い」との回答は高校生で約2割と他の学校種別に比べ高くなっている。

地域別にみると、大きな差はみられない。

【図表 将来子どもについてほしい職業（経年比較・学校種別・地域別）】



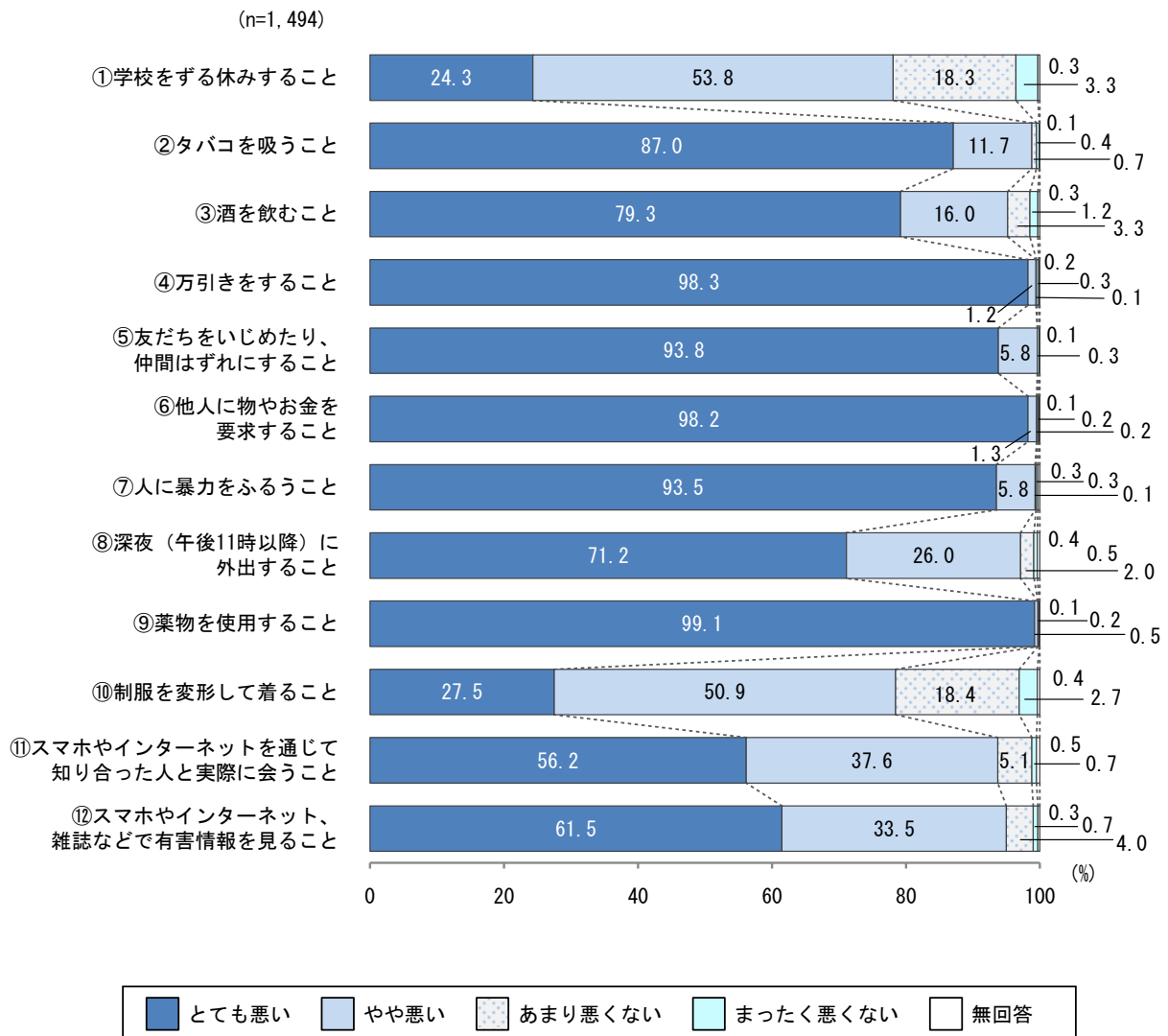
13 不良行為等について

問27 あなたは、次にあげたことを、お子さんが行うことについて、どう思いますか。

《○は①～⑫それぞれ1つずつ》

子どもの行動について、「とても悪い」との回答は「万引きをすること」、「他人に物やお金を要求すること」、「薬物を使用すること」で約10割と高く、「学校をずる休みすること」、「制服を変形して着ること」で2割台半ばと低くなっている。

【図表 子どもの行動について】



① 学校をずる休みすること

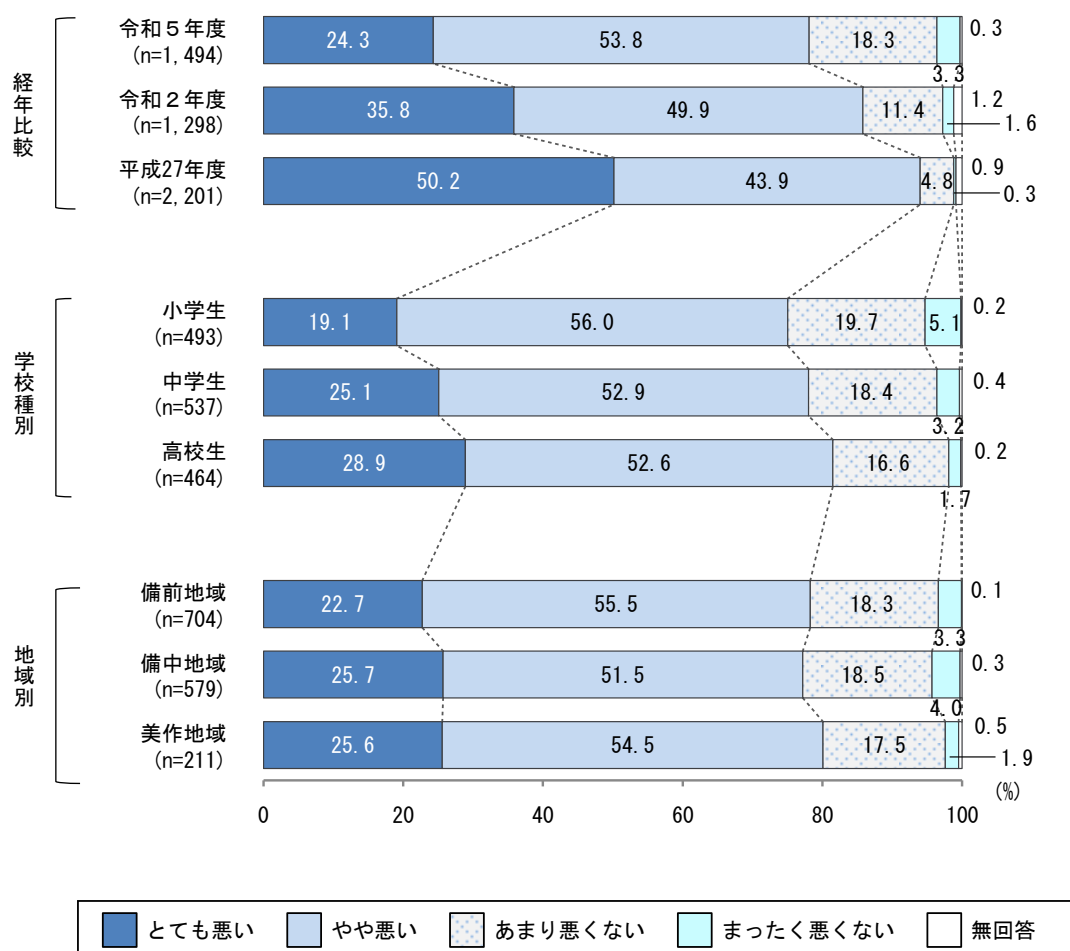
学校をずる休みすることについて、「やや悪い」との回答が 53.8%と最も高く、次いで「とても悪い」(24.3%)、「あまり悪くない」(18.3%)、「まったく悪くない」(3.3%) の順となっている。

経年比較すると、「とても悪い」との回答は今回調査が前回調査を 11.5 ポイント下回っており、平成 27 年度調査から令和 5 年度調査にかけて減少傾向にある。

学校種別にみると、「とても悪い」との回答は高校生で約 3 割と高く、小学生、中学生、高校生と上がるにつれて高くなっている。

地域別にみると、大きな差はみられない。

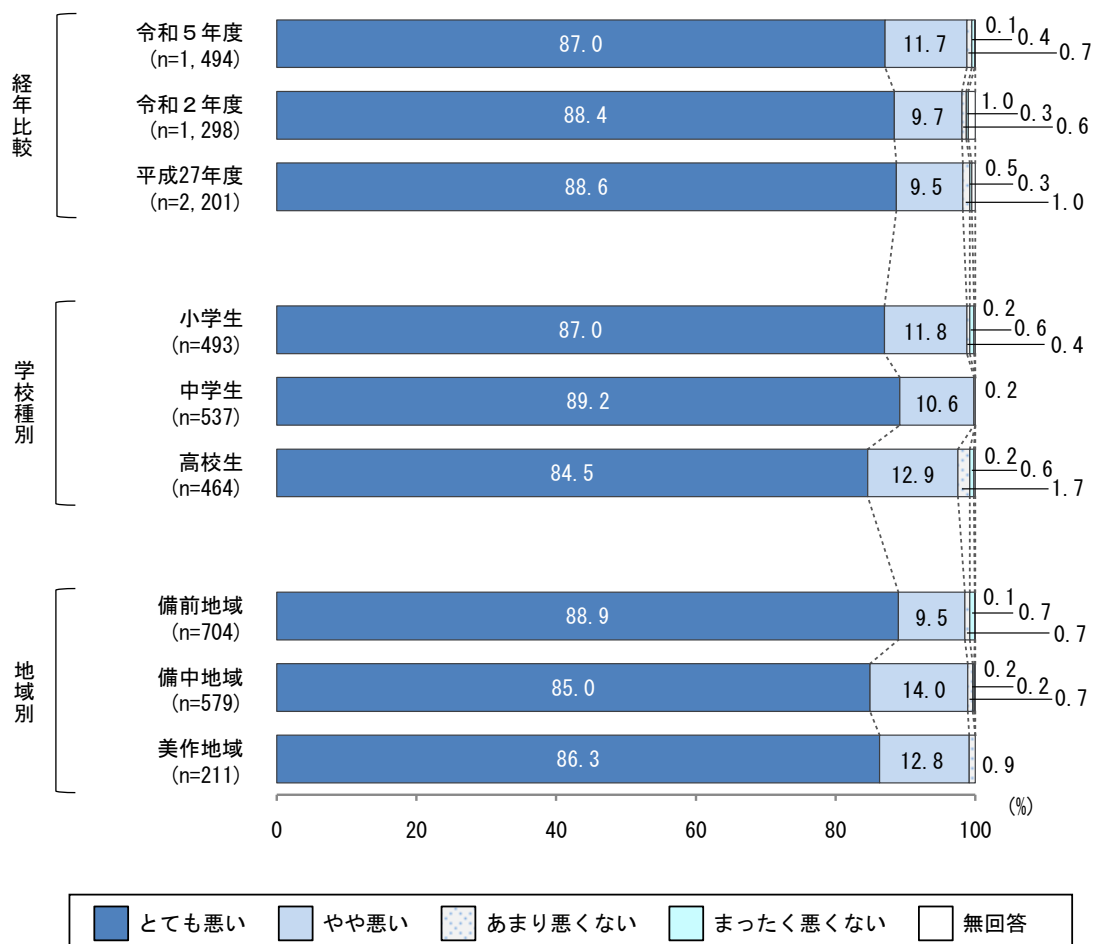
【図表 学校をずる休みすること（経年比較・学校種別・地域別）】



② タバコを吸うこと

タバコを吸うことについて、「とても悪い」との回答が87.0%と最も高くなっている。
 経年比較、学校種別、地域別にみると、いずれも大きな差はみられない。

【図表 タバコを吸うこと（経年比較・学校種別・地域別）】



③ 酒を飲むこと

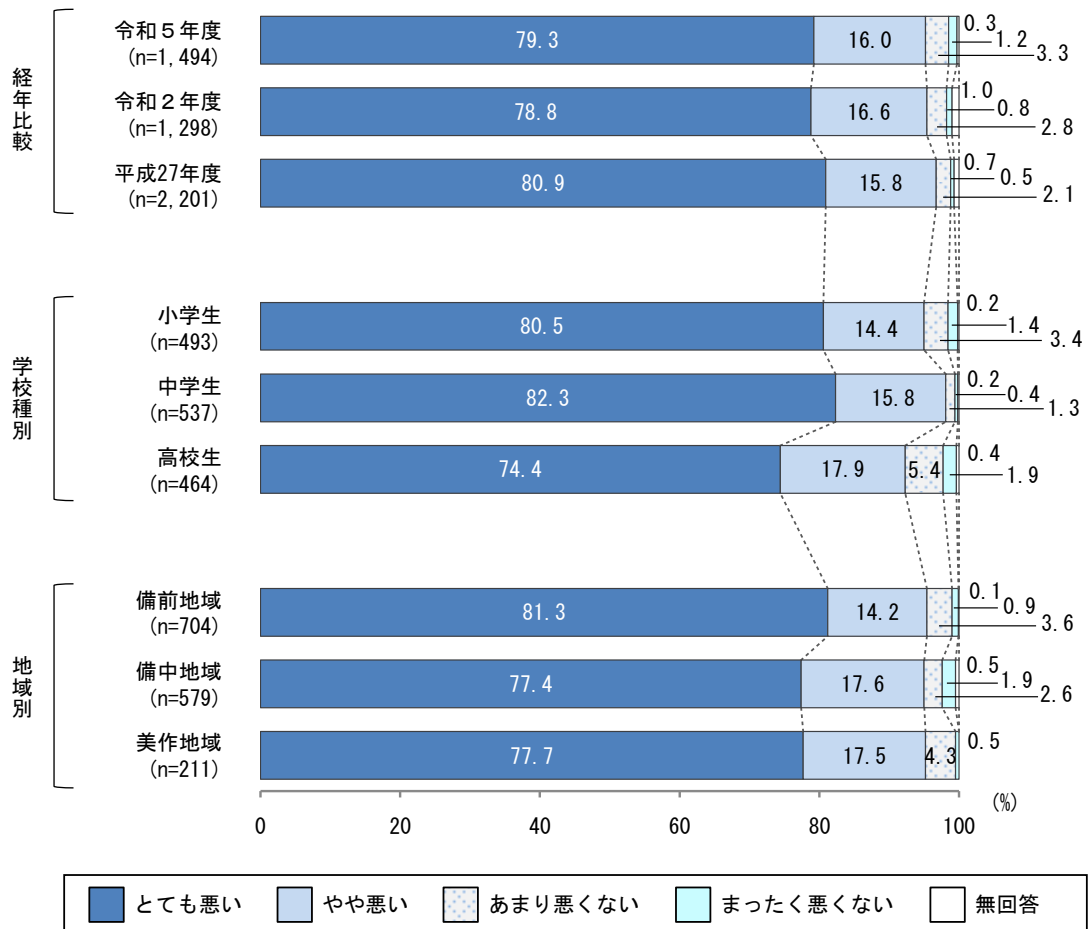
酒を飲むことについて、「とても悪い」との回答が 79.3%、「やや悪い」との回答が 16.0%と高くなっている。

経年比較すると、大きな差はみられない。

学校種別でみると、「とても悪い」との回答は小学生、中学生でともに8割超と高くなっている。

地域別にみると、「とても悪い」との回答は備前地域で8割超と他の地域に比べ高くなっている。

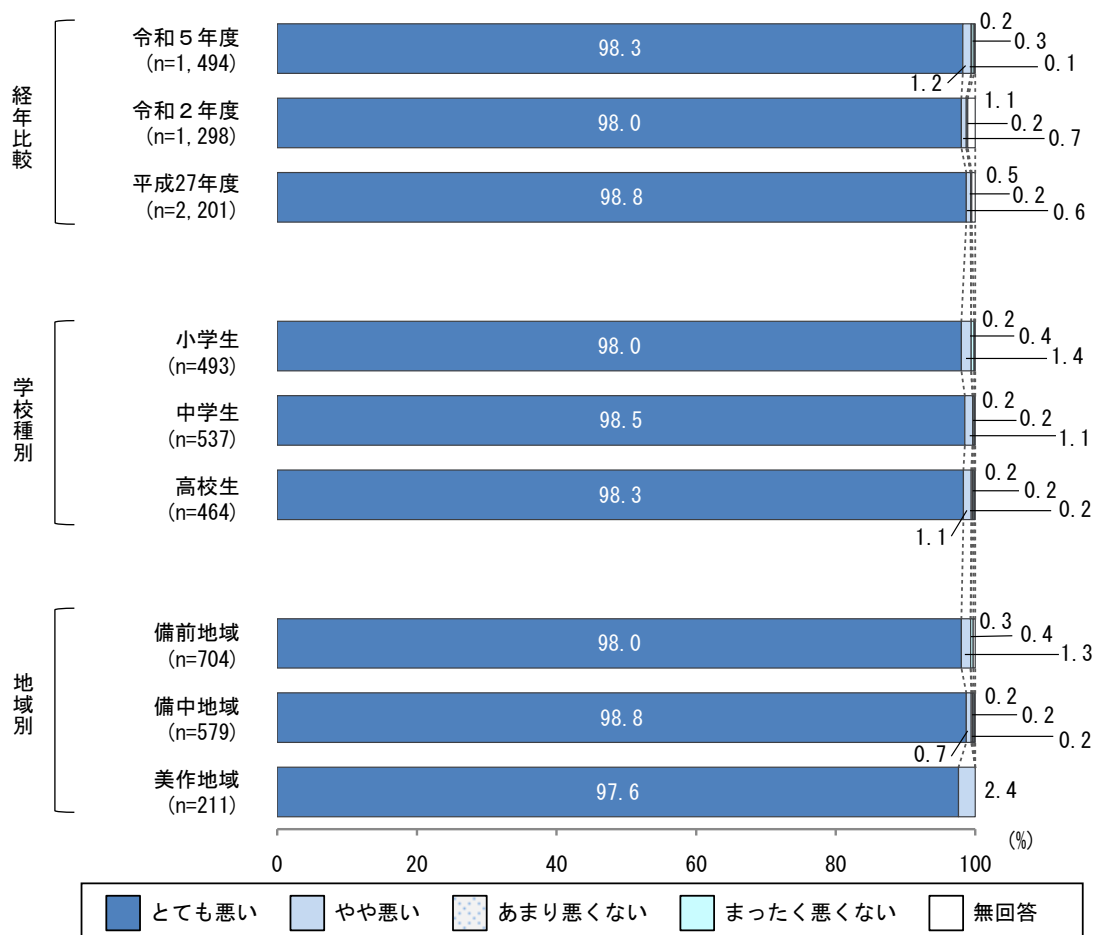
【図表 酒を飲むこと（経年比較・学校種別・地域別）】



④ 万引きをすること

万引きをすることについて、「とても悪い」との回答が98.3%と最も高くなっている。経年比較、学校種別、地域別にみると、いずれも大きな差はみられない。

【図表 万引きをすること（経年比較・学校種別・地域別）】

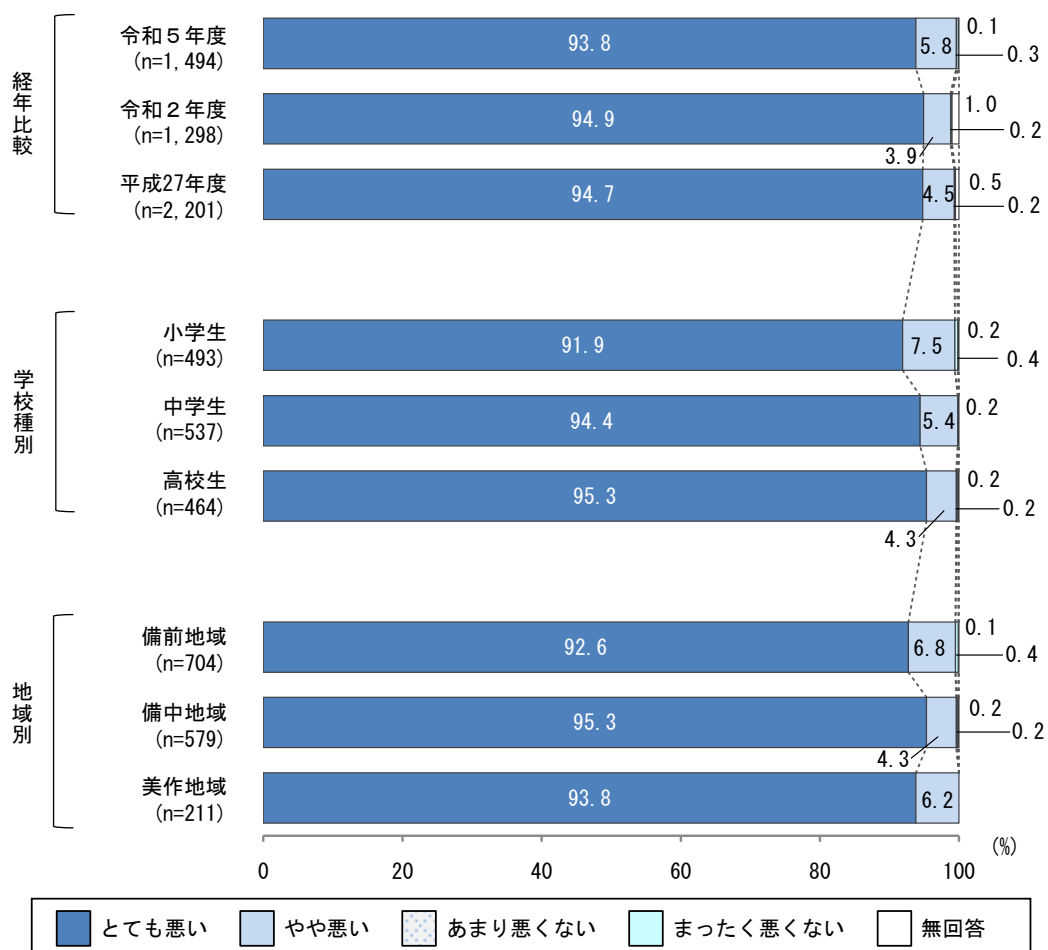


⑤ 友だちをいじめたり、仲間はずれにすること

友だちをいじめたり、仲間はずれにすることについて、「とても悪い」との回答が93.8%と最も高くなっている。

経年比較、学校種別、地域別にみると、いずれも大きな差はみられない。

【図表 友だちをいじめたり、仲間はずれにすること（経年比較・学校種別・地域別）】

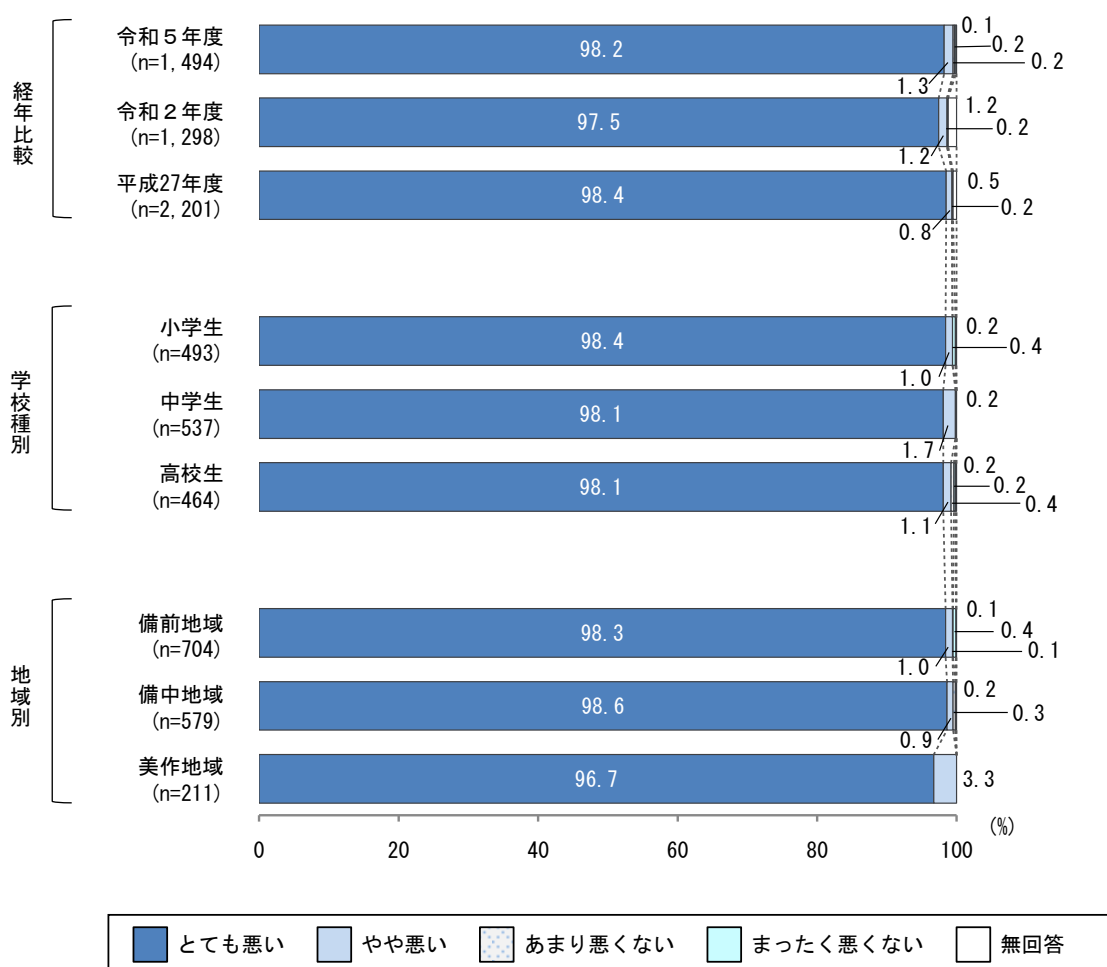


⑥ 他人に物やお金を要求すること

他人に物やお金を要求することについて、「とても悪い」との回答が98.2%と最も高くなっている。

経年比較、学校種別、地域別にみると、いずれも大きな差はみられない。

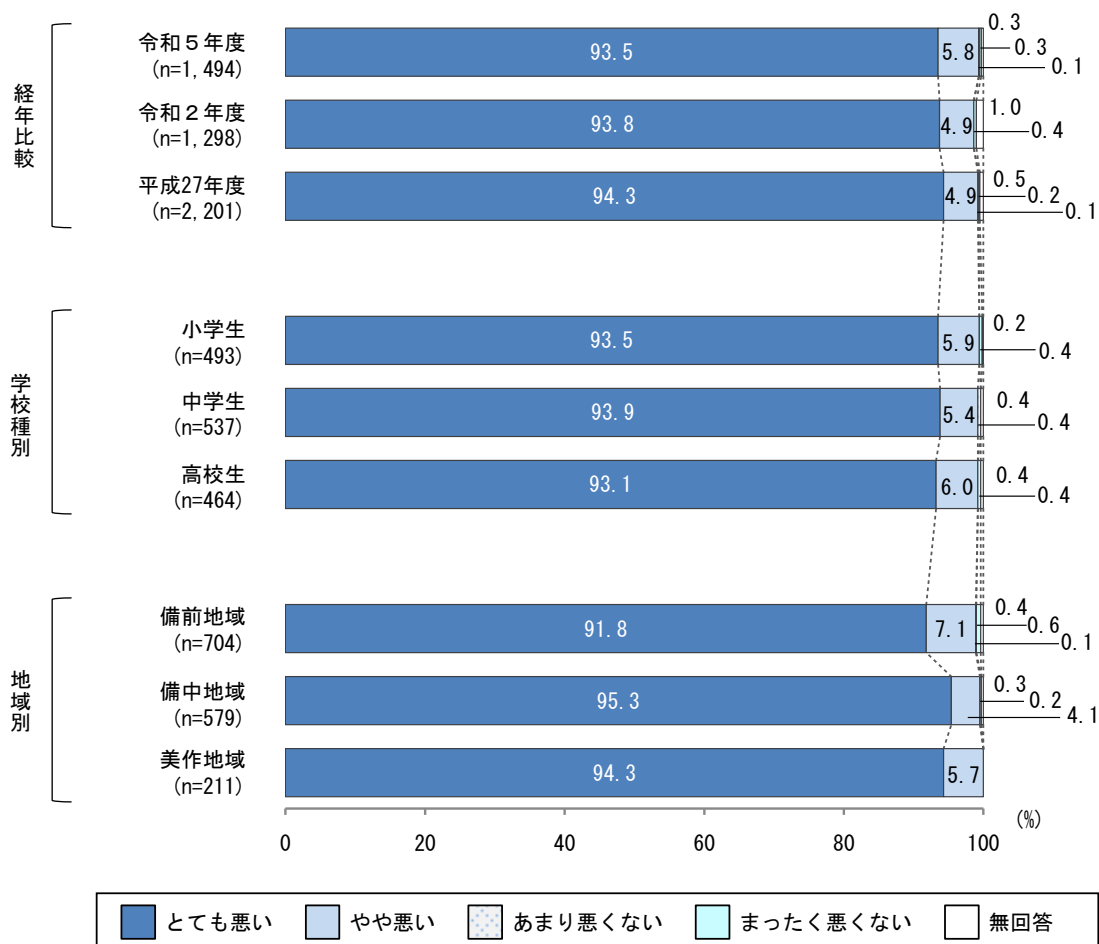
【図表 他人に物やお金を要求すること（経年比較・学校種別・地域別）】



⑦ 人に暴力をふるうこと

人に暴力をふるうことについて、「とても悪い」との回答が93.5%と最も高くなっている。経年比較、学校種別、地域別にみると、いずれも大きな差はみられない。

【図表 人に暴力をふるうこと（経年比較・学校種別・地域別）】



⑧ 深夜（午後 11 時以降）に外出すること

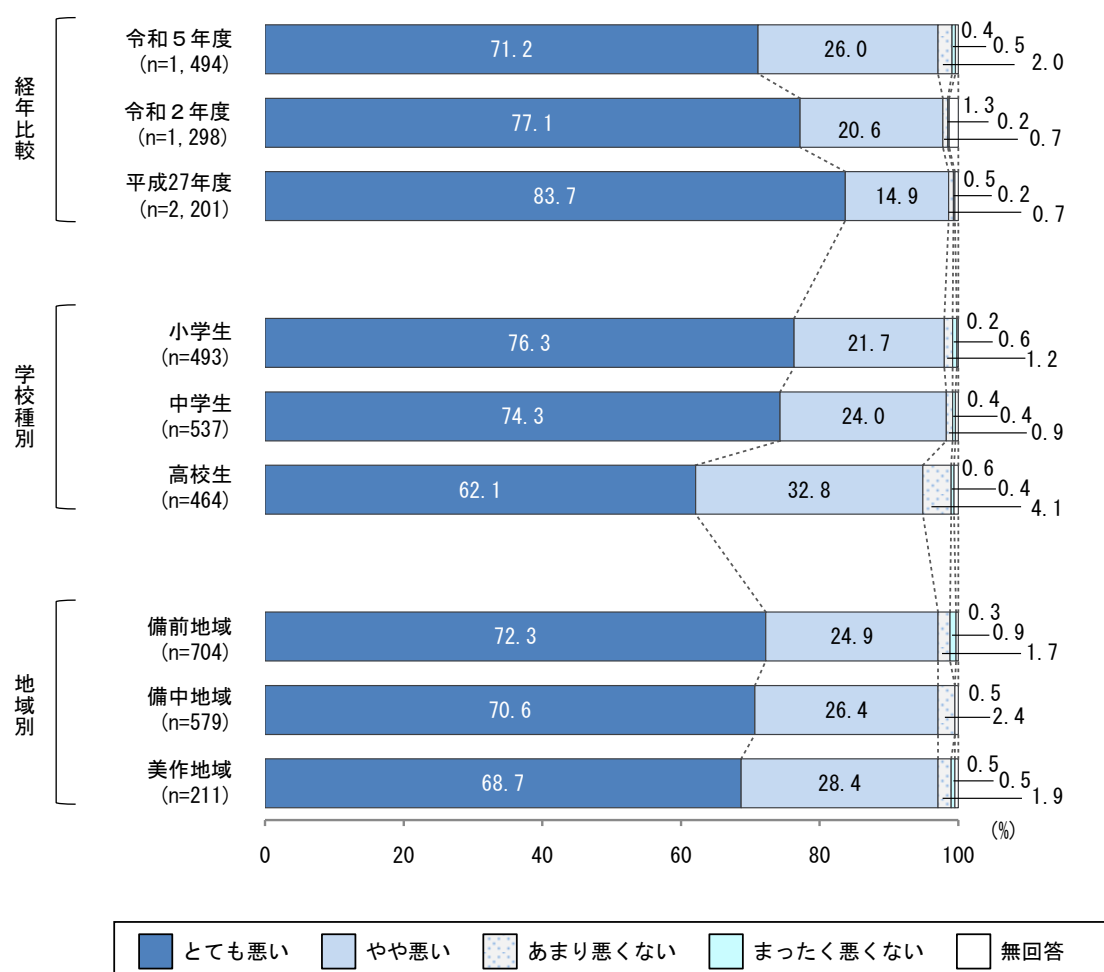
深夜（午後 11 時以降）に外出することについて、「とても悪い」との回答が 71.2%、「やや悪い」との回答が 26.0%と高くなっている。

経年比較すると、「とても悪い」との回答は今回調査が前回調査を 5.9 ポイント下回っており、平成 27 年度調査から令和 5 年度調査にかけて減少傾向にある。

学校種別にみると、「とても悪い」との回答は高校生で 6 割超と低く、小学生、中学生、高校生と上がるにつれて低くなっている。

地域別にみると、大きな差はみられない。

【図表 深夜（午後 11 時以降）に外出すること（経年比較・学校種別・地域別）】

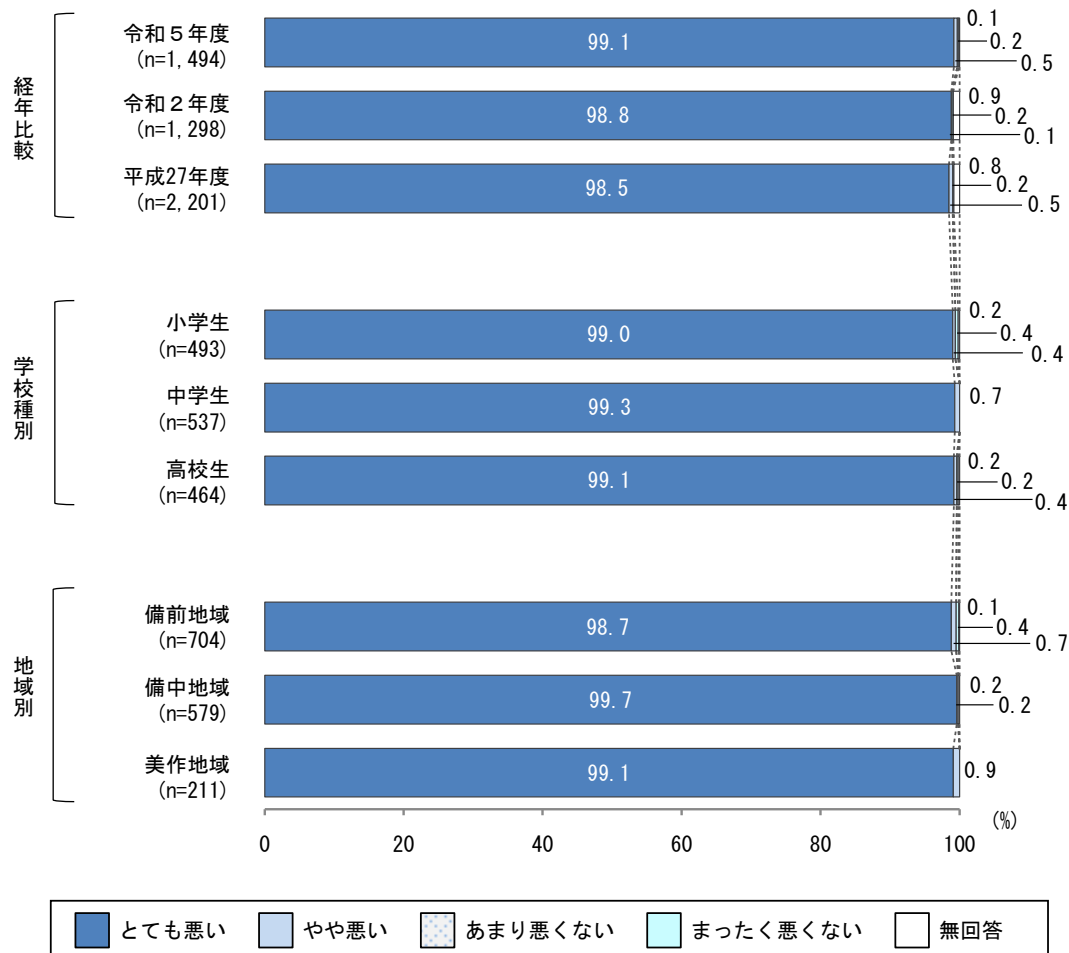


⑨ 薬物（シンナー、危険ドラッグ等）を使用すること

薬物（シンナー、危険ドラッグ等）を使用することについて、「とても悪い」との回答が99.1%と最も高くなっている。

経年比較、学校種別、地域別にみると、いずれも大きな差はみられない。

【図表 薬物（シンナー、危険ドラッグ等）を使用すること（経年比較・学校種別・地域別）】



⑩ 制服を变形して着ること

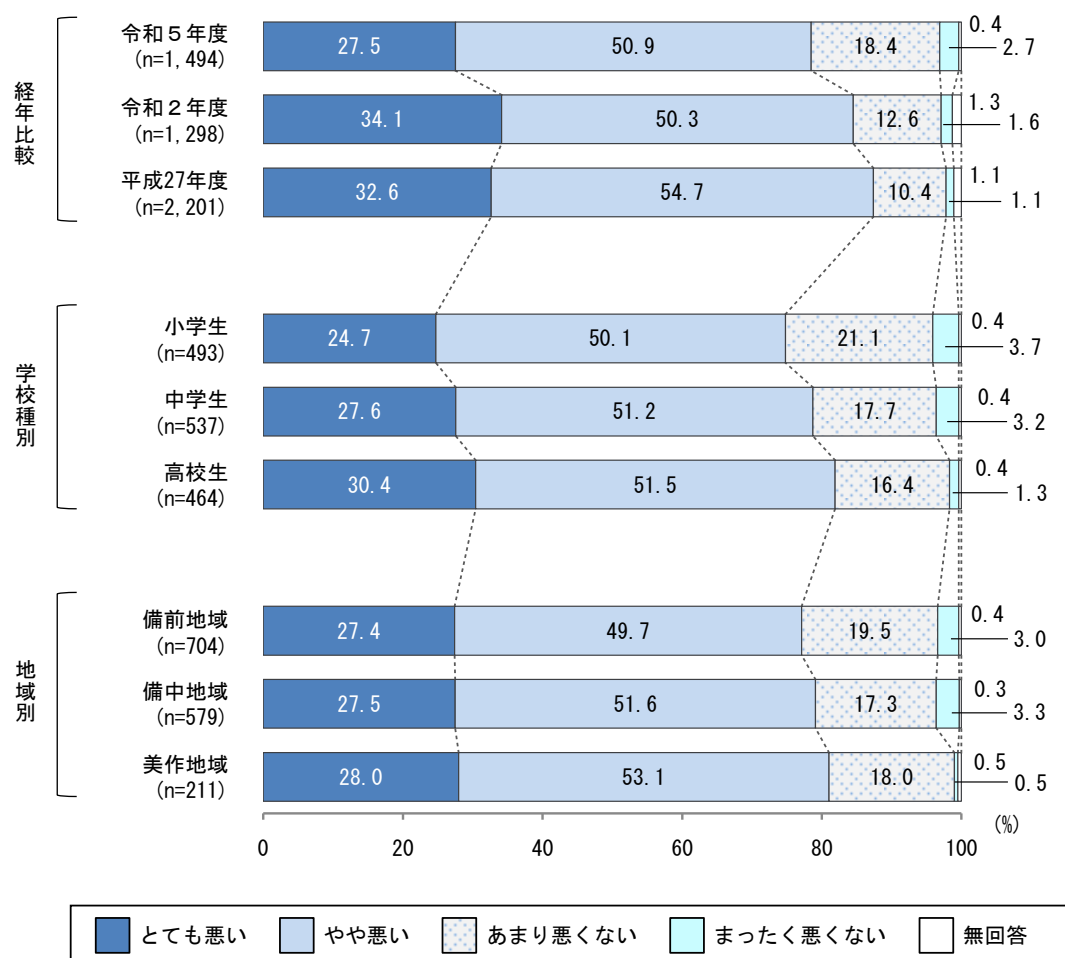
制服を变形して着ることについて、「やや悪い」との回答が50.9%と最も高く、次いで「とても悪い」(27.5%)、「あまり悪くない」(18.4%)などの順となっている。

経年比較すると、「とても悪い」との回答は今回調査が前回調査を6.6ポイント下回っている。

学校種別にみると、「とても悪い」との回答は高校生で約3割と高く、小学生、中学生、高校生と上がるにつれて高くなっている。

地域別にみると、大きな差はみられない。

【図表 制服を变形して着ること（経年比較・学校種別・地域別）】



⑪ スマホやインターネットを通じて知り合った人と実際に会うこと

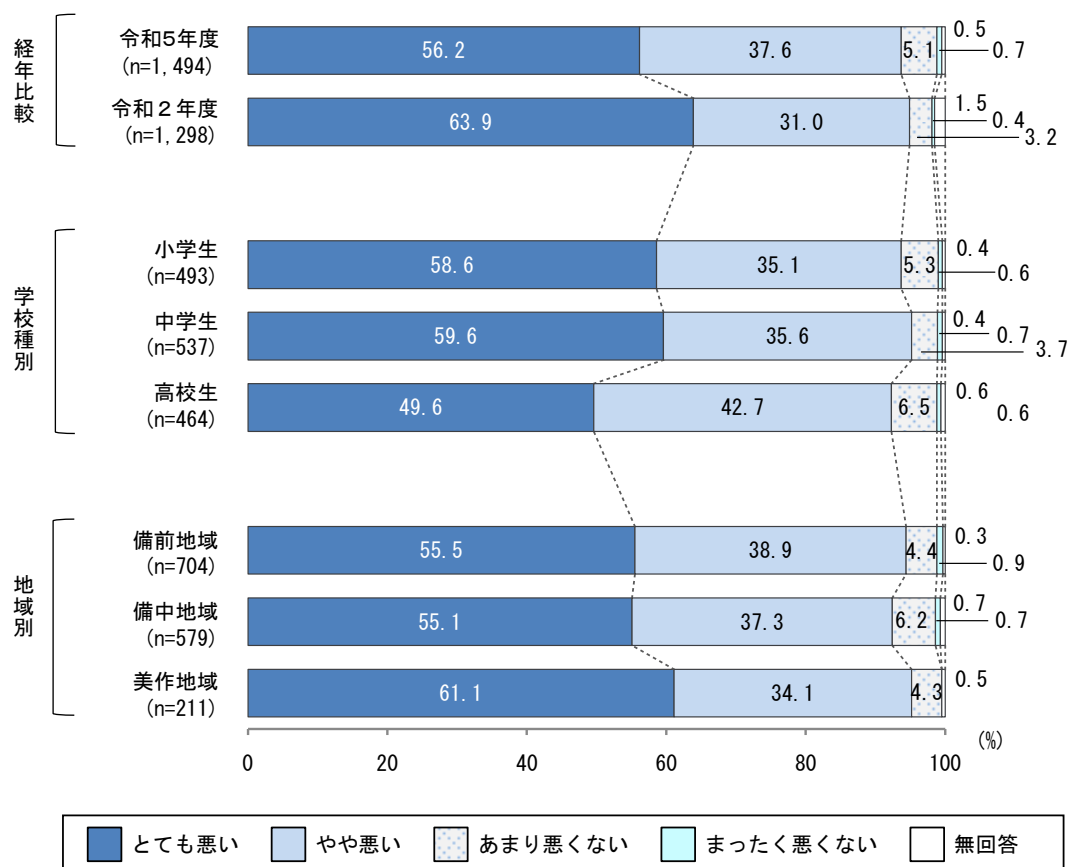
スマホやインターネットを通じて知り合った人と実際に会うことについて、「とても悪い」との回答が56.2%、「やや悪い」との回答が37.6%と高くなっている。

経年比較すると、「とても悪い」との回答は今回調査が前回調査を7.7ポイント下回っている。

学校種別にみると、「とても悪い」との回答は高校生で約5割と低くなっている。

地域別にみると、「とても悪い」との回答は美作地域で約6割と他の地域に比べ高くなっている。

【図表 スマホやインターネットを通じて知り合った人と実際に会うこと
(経年比較・学校種別・地域別)】



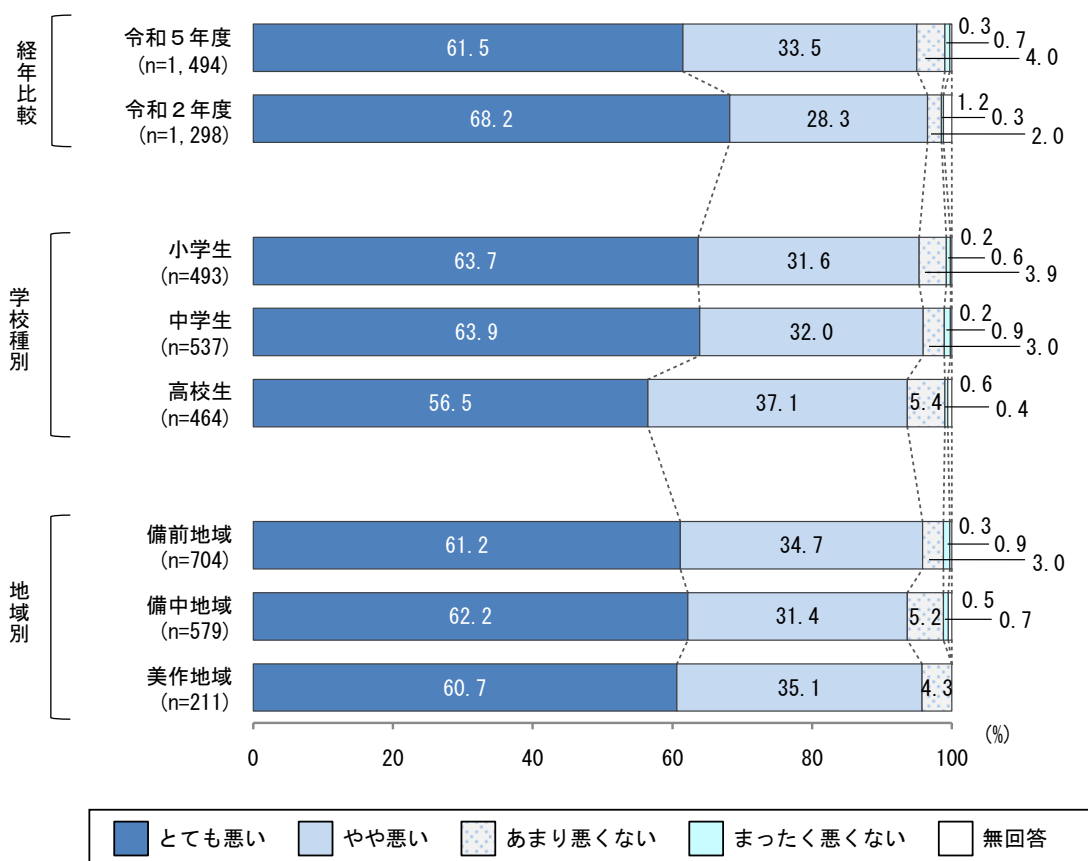
⑫ スマホやインターネット、雑誌などで有害情報を見ること

スマホやインターネット、雑誌などで有害情報を見ることについて、「とても悪い」との回答が61.5%、「やや悪い」との回答が33.5%と高くなっている。

学校種別にみると、「とても悪い」との回答は小学生、中学生で6割台半ばと高く、高校生が5割台半ばと低くなっている。

地域別にみると、大きな差はみられない。

【図表 スマホやインターネット、雑誌などで有害情報を見ること
(経年比較・学校種別・地域別)】



14 青少年の健全育成のために必要なことについて

問28 あなたは、青少年の健全育成のために、特にどのようなことが必要だと思いますか。
《〇は3つまで》

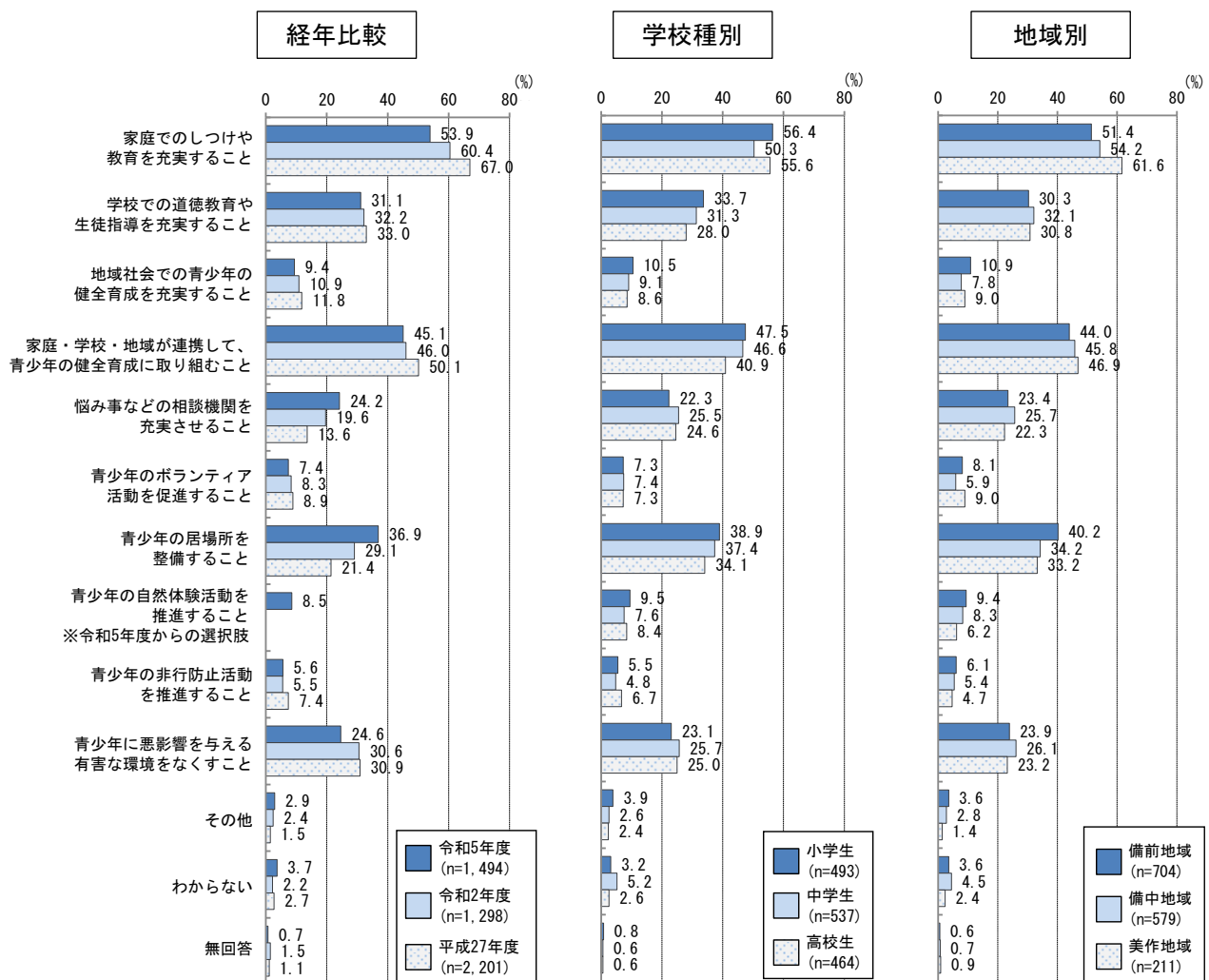
青少年の健全育成のために必要だと思うことについて、「家庭でのしつけや教育を充実すること」との回答が53.9%と最も高く、次いで「家庭・学校・地域が連携して、青少年の健全育成に取り組むこと」(45.1%)、「青少年の居場所を整備すること」(36.9%)などの順となっている。

経年比較すると、「家庭でのしつけや教育を充実すること」との回答は平成27年度調査から令和5年度調査にかけて減少傾向にある。一方、「悩み事などの相談機関を充実させること」、「青少年の居場所を整備すること」との回答は増加傾向にある。

学校種別にみると、「家庭・学校・地域が連携して、青少年の健全育成に取り組むこと」との回答は小学生、中学性で高校生に比べ高くなっている。

地域別にみると、「家庭でのしつけや教育を充実すること」との回答は美作地域で6割超と他の地域に比べ高くなっている。

【図表 青少年の健全育成のために必要だと思うこと（経年比較・学校種別・地域別）】



15 非行や問題行動を犯した少年が立ち直るために特に重要なことについて

問29 あなたは、非行や問題行動を犯した少年が立ち直るために特に重要なことは、何だと思いますか。《○は2つまで》

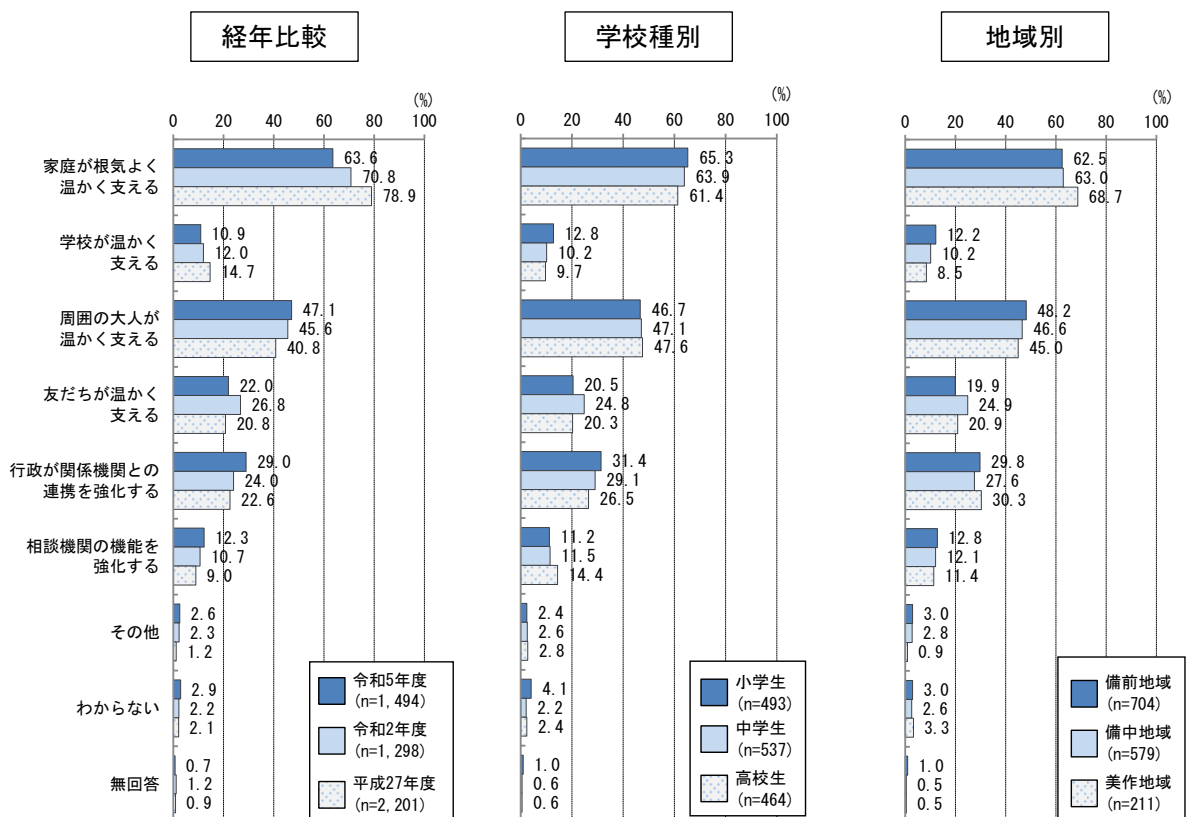
非行や問題行動を犯した少年が立ち直るために特に重要だと思うことについて、「家庭が根気よく温かく支える」との回答が63.6%と最も高く、次いで「周囲の大人が温かく支える」(47.1%)、「行政が関係機関との連携を強化する」(29.0%)、「友だちが温かく支える」(22.0%)などの順となっている。

経年比較すると、「家庭が根気よく温かく支える」との回答は平成27年度調査から令和5年度調査にかけて減少傾向にある。一方、「行政が関係機関との連携を強化する」との回答は増加傾向にある。

学校種別にみると、大きな差はみられない。

地域別にみると、「家庭が根気よく温かく支える」との回答は美作地域で約7割、「友だちが温かく支える」との回答は備中地域で2割台半ばと他の地域に比べ高くなっている。

【図表 非行や問題行動を犯した少年が立ち直るために特に重要だと思うこと
(経年比較・学校種別・地域別)】



16 薬物について

問30 シンナー、覚せい剤、大麻、危険ドラッグなどの薬物の害について、あなたが知っているものはどれですか。《○はいくつでも》

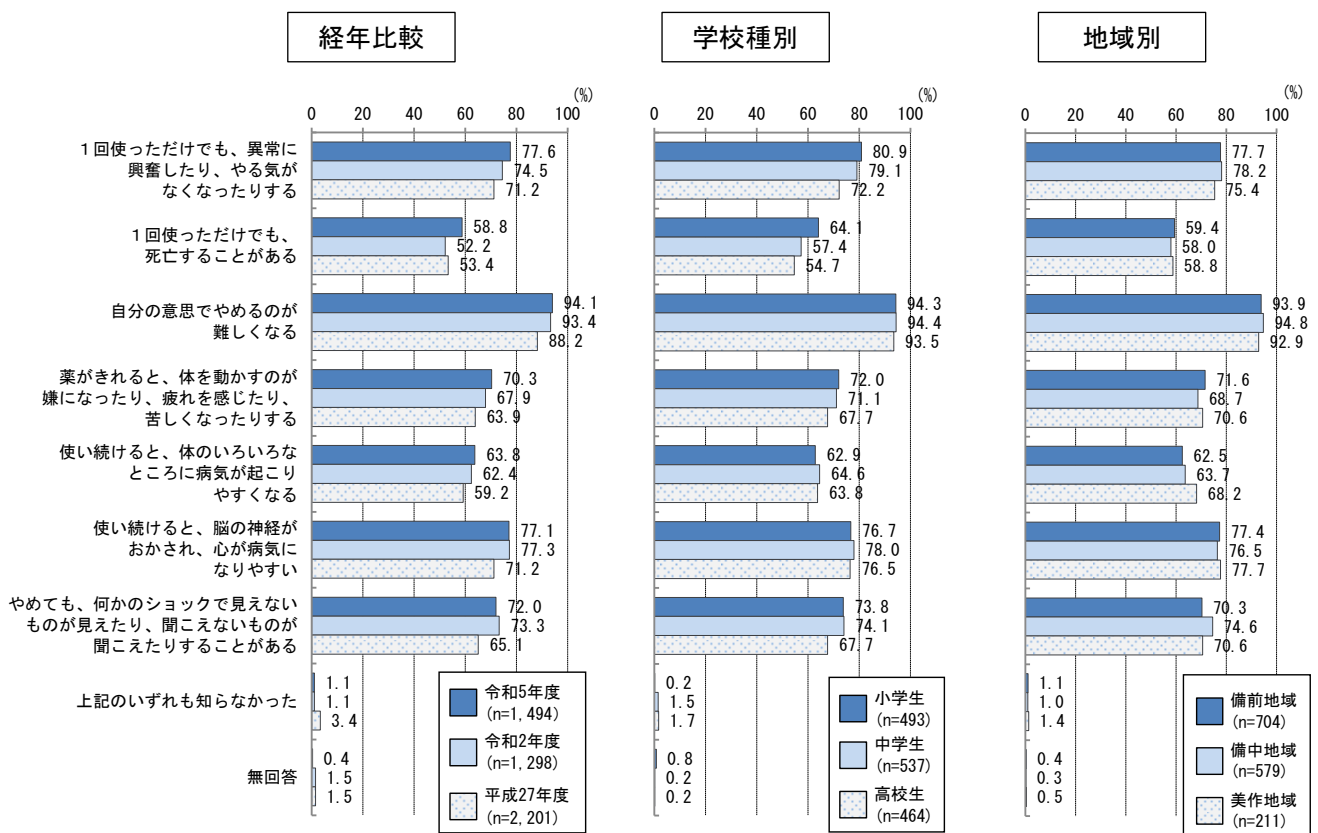
知っている薬物の害について、「自分の意思でやめるのが難しくなる」との回答が94.1%と最も高く、次いで「1回使っただけでも、異常に興奮したり、やる気がなくなったりする」(77.6%)、「使い続けると、脳の神経がおかされ、心が病気になりやすい」(77.1%)、「やめても、何かのショックで見えないものが見えたり、聞こえないものが聞こえたりすることがある」(72.0%)などの順となっている。

経年比較すると、「1回使っただけでも、死亡することがある」との回答は今回調査が前回調査を6.6ポイント上回っている。

学校種別にみると、「1回使っただけでも、異常に興奮したり、やる気がなくなったりする」、「薬がきれると、体を動かすのが嫌になったり、疲れを感じたり、苦しくなったりする」との回答は小学生で高く、小学生、中学生、高校生と上がるにつれて低くなっている。

地域別にみると、「使い続けると、体のいろいろなところに病気が起こりやすくなる」との回答は美作地域で約7割と他の地域に比べ高くなっている。

【図表 知っている薬物の害（経年比較・学校種別・地域別）】



17 スマートフォン、携帯電話、パソコン等の所持について

問31 お子さんは、スマートフォン、携帯電話やパソコン等を持っていますか。

《○はいくつでも》

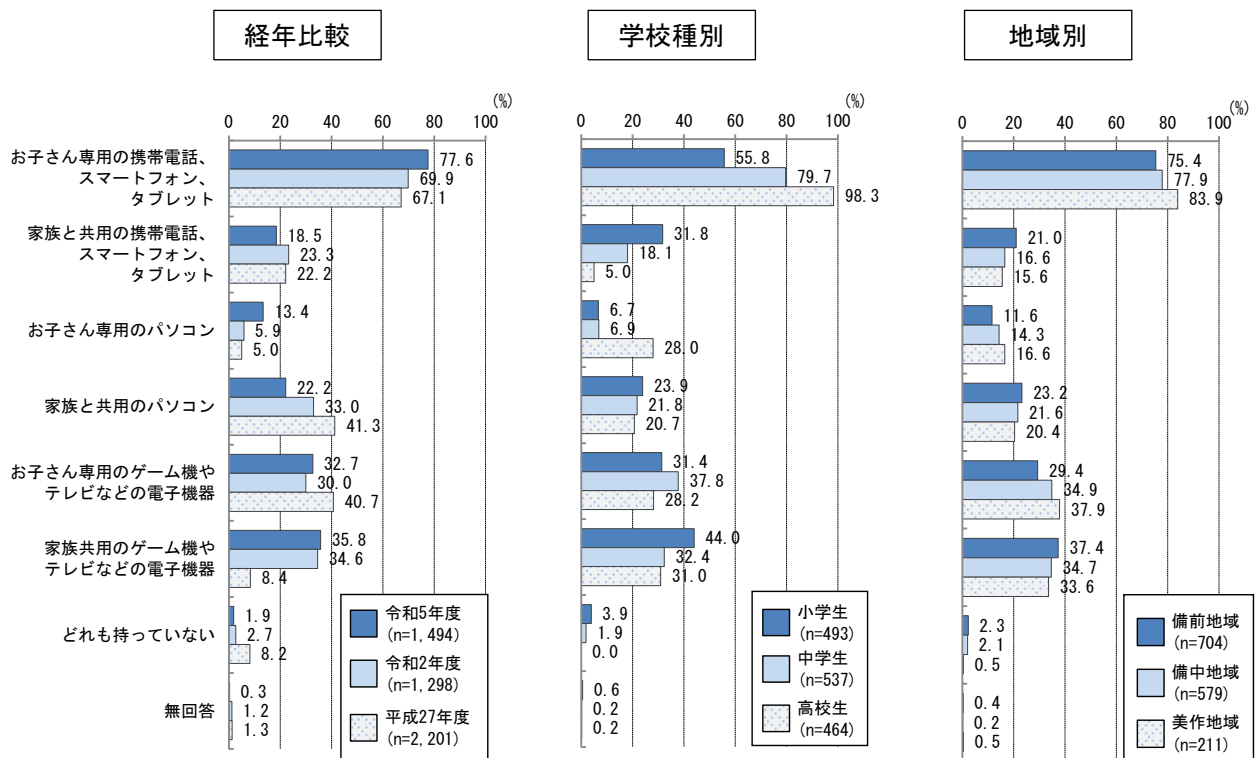
持っている通信機器について、「お子さん専用の携帯電話、スマートフォン、タブレット」との回答が77.6%と最も高く、次いで「家族共用のゲーム機やテレビなどの電子機器」(35.8%)、「お子さん専用のゲーム機やテレビなどの電子機器」(32.7%)などの順となっている。

経年比較すると、「お子さん専用の携帯電話、スマートフォン、タブレット」、「お子さん専用のパソコン」との回答は、今回調査が前回調査をともに7ポイント以上上回っている。一方、「家族と共用のパソコン」との回答は今回調査が前回調査を10.8ポイント下回っている。

学校種別にみると、「お子さん専用の携帯電話、スマートフォン、タブレット」との回答は高校生で約10割と高く、小学生、中学生、高校生と上がるにつれて高くなっている。

地域別にみると、「お子さん専用の携帯電話、スマートフォン、タブレット」との回答は美作地域で8割半ばと他の地域に比べ高くなっている。

【図表 持っている通信機器（経年比較・学校種別・地域別）】



※平成27年度では「携帯電話」は含まれていない

18 フィルタリングの利用について

(問31で「1～6」に○がついた人だけお答えください。)

問31-1 お子さんが使用しているスマートフォン等にフィルタリング(*2)を使っていますか。《○は①～③それぞれ1つつ》

(*2)「フィルタリング」とは、青少年がインターネットを利用する際に、危険なサイトに接触しないように制限することができるツールです。

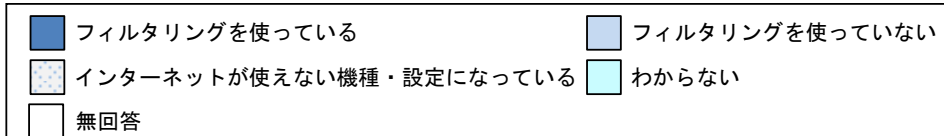
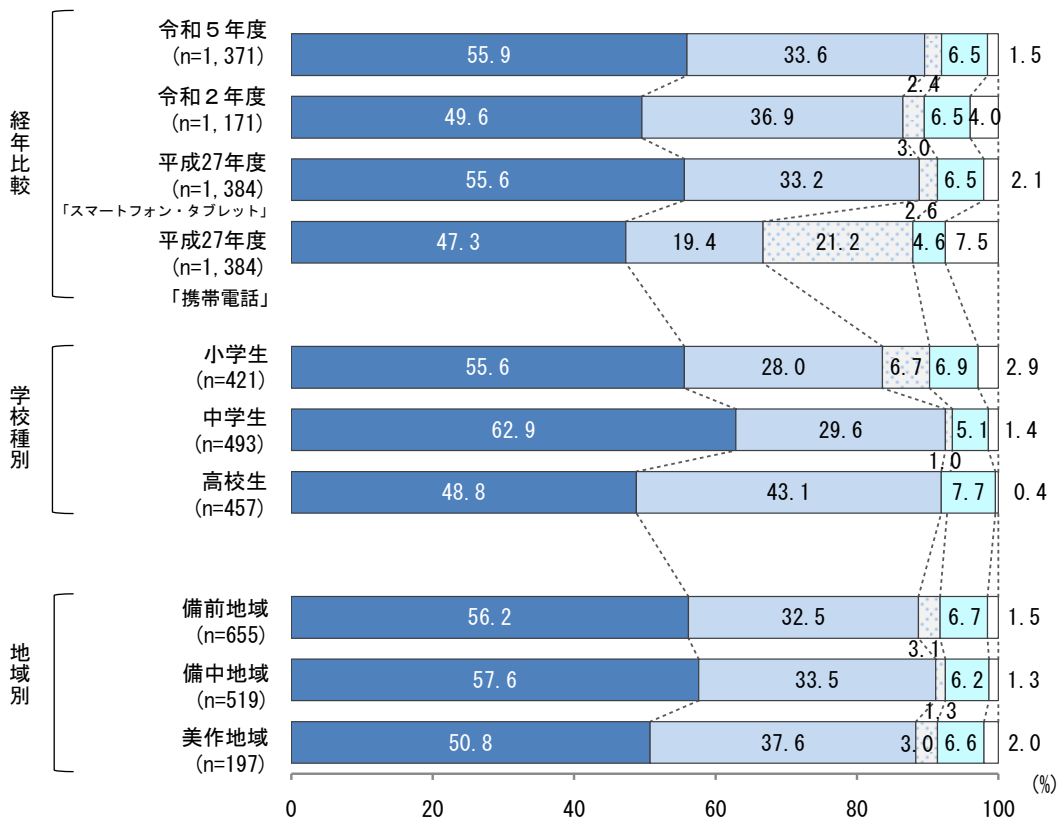
① 携帯電話、スマートフォン、タブレット

携帯電話、スマートフォン、タブレットを使用している人のフィルタリング状況について、「フィルタリングを使っている」との回答が55.9%、「フィルタリングを使っていない」との回答が33.6%となっている。

学校種別にみると、「フィルタリングを使っている」との回答は中学生で6割超、小学生で5割台半ば、高校生で約5割と高くなっている。

地域別にみると、「フィルタリングを使っている」との回答は美作地域で約5割と他の地域に比べ低くなっている。

【図表 携帯電話、スマートフォン、タブレットのフィルタリング状況
(経年比較・学校種別・地域別)】



② パソコン

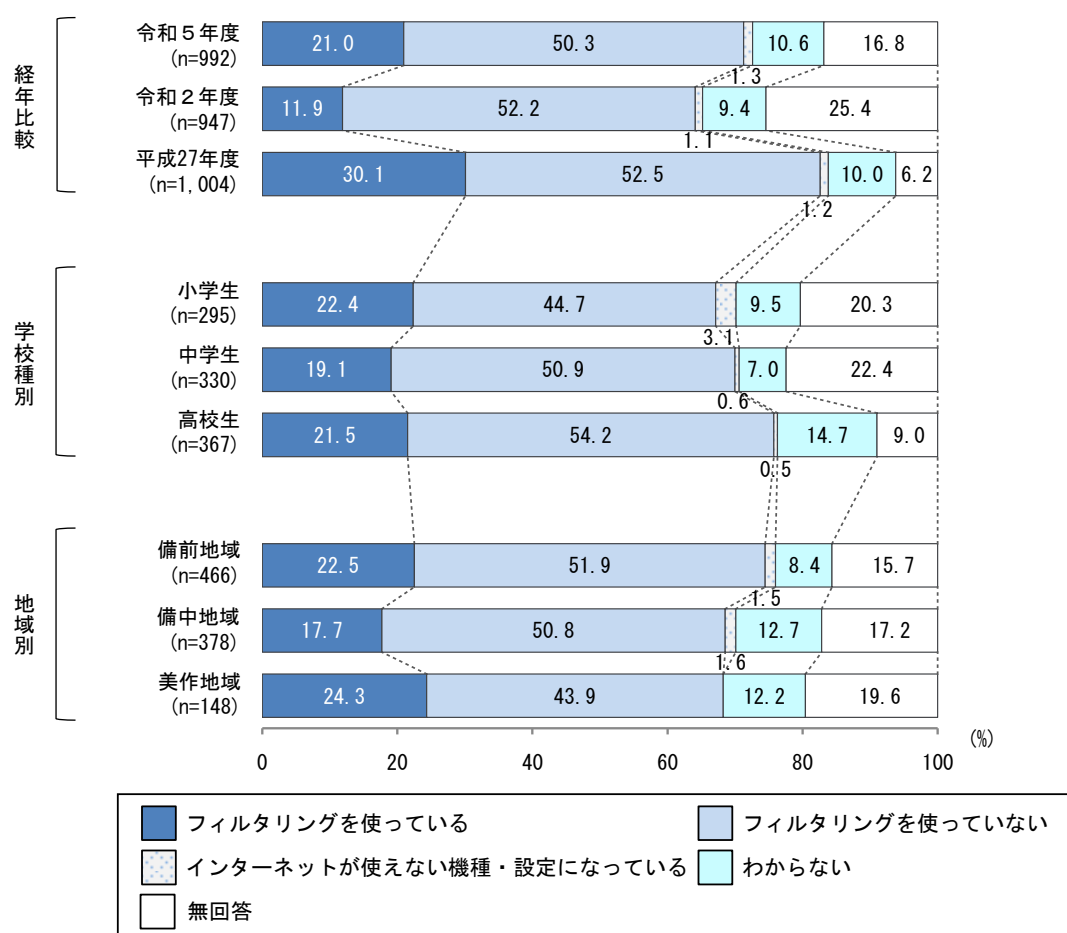
パソコンを使用している人のフィルタリング状況について、「フィルタリングを使っている」との回答が21.0%「フィルタリングを使っていない」との回答が50.3%となっている。

経年比較すると、「フィルタリングを使っている」との回答は今回調査が前回調査を9.1ポイント上回っている。一方「フィルタリングを使っていない」との回答は今回調査が前回調査を1.9ポイント下回っている。

学校種別にみると、「フィルタリングを使っていない」との回答は高校生で5割台半ばと高くなっている。

地域別にみると、「フィルタリングを使っている」との回答は備中地域で2割未満と他の地域に比べ低くなっている。

【図表 パソコンのフィルタリング状況（経年比較・学校種別・地域別）】



③ ゲーム機やテレビなどの電子機器

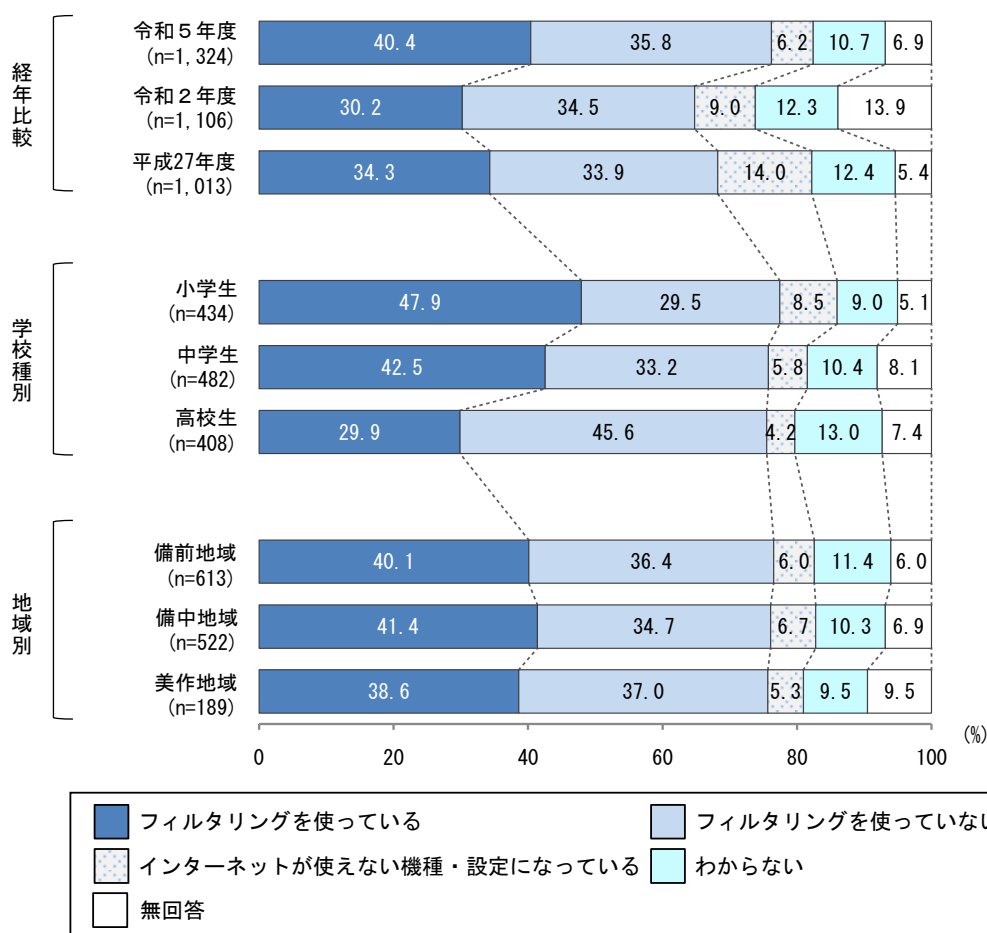
ゲーム機やテレビなどの電子機器を使用している人のフィルタリング状況について、「フィルタリングを使っている」との回答が40.4%、「フィルタリングを使っていない」との回答が35.8%となっている。

経年比較すると、「フィルタリングを使っている」との回答は今回調査が前回調査を10.2ポイント上回っている。

学校種別にみると、「フィルタリングを使っている」との回答は学年が上がるにつれて低くなっている。

地域別にみると、大きな差はみられない。

【図表 ゲーム機やテレビなどの電子機器のフィルタリング状況
(経年比較・学校種別・地域別)】



19 インターネットの利用について

問32 お子さんがインターネットを利用している端末は何ですか。《○はいくつでも》

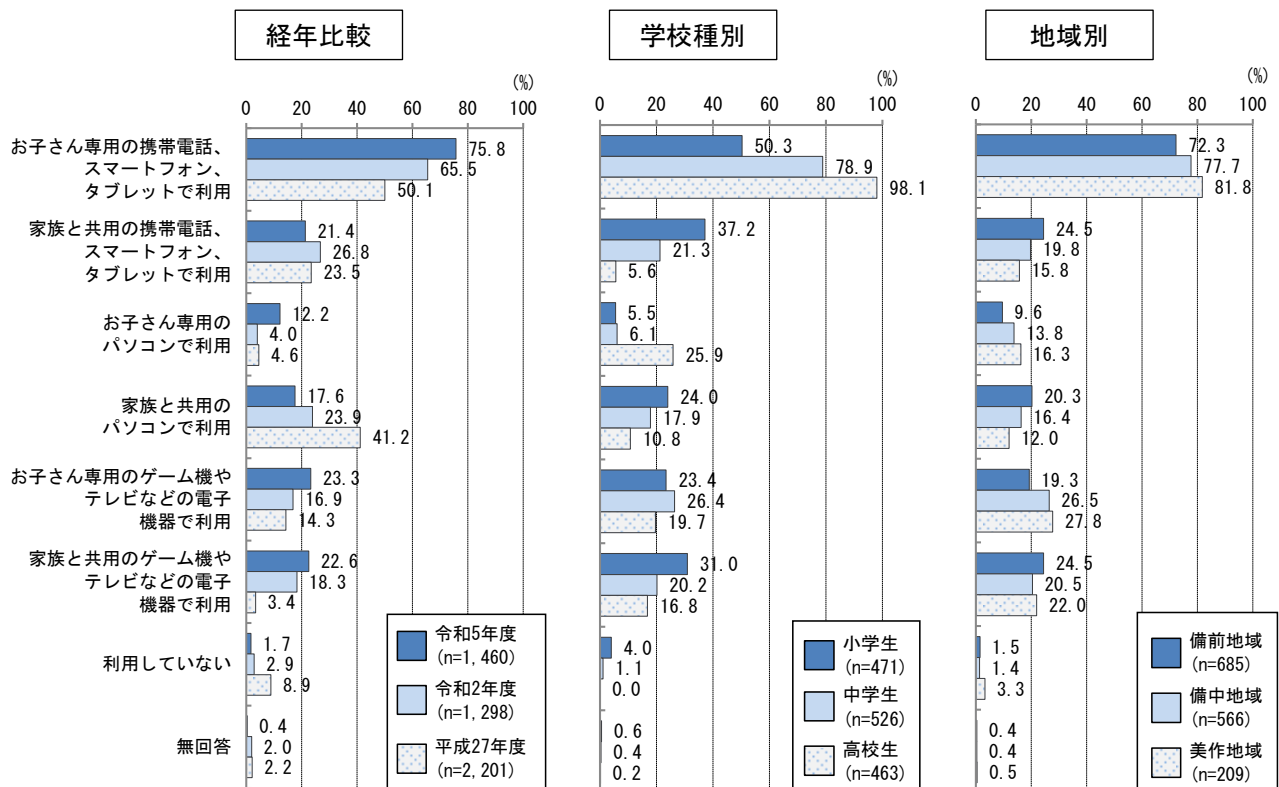
インターネットを利用している端末について、「お子さん専用の携帯電話、スマートフォン、タブレットで利用」との回答が75.8%と最も高く、次いで「お子さん専用のゲーム機やテレビなどの電子機器で利用」(23.3%)、「家族と共用のゲーム機やテレビなどの電子機器で利用」(22.6%)などの順となっている。

経年比較すると、「お子さん専用の携帯電話、スマートフォン、タブレットで利用」との回答は今回調査が前回調査を10.3ポイント上回っており、「家族と共用のパソコンで利用」との回答は6.3ポイント下回っている。

学校種別にみると、「お子さん専用の携帯電話、スマートフォン、タブレットで利用」との回答は高校生で約10割と高く、小学生、中学生、高校生と上がるにつれて高くなっている。一方「家族と共用の携帯電話、スマートフォン、タブレットで利用」との回答は小学生で約4割と高く、小学生、中学生、高校生と上がるにつれて低くなっている。

地域別にみると、「お子さん専用の携帯電話、スマートフォン、タブレットで利用」との回答は美作地域で8割超と他の地域に比べ高くなっている。

【図表 インターネットを利用している端末（経年比較・学校種別・地域別）】



問33 お子さんは、どこでインターネットを利用していますか。《〇はいくつでも》

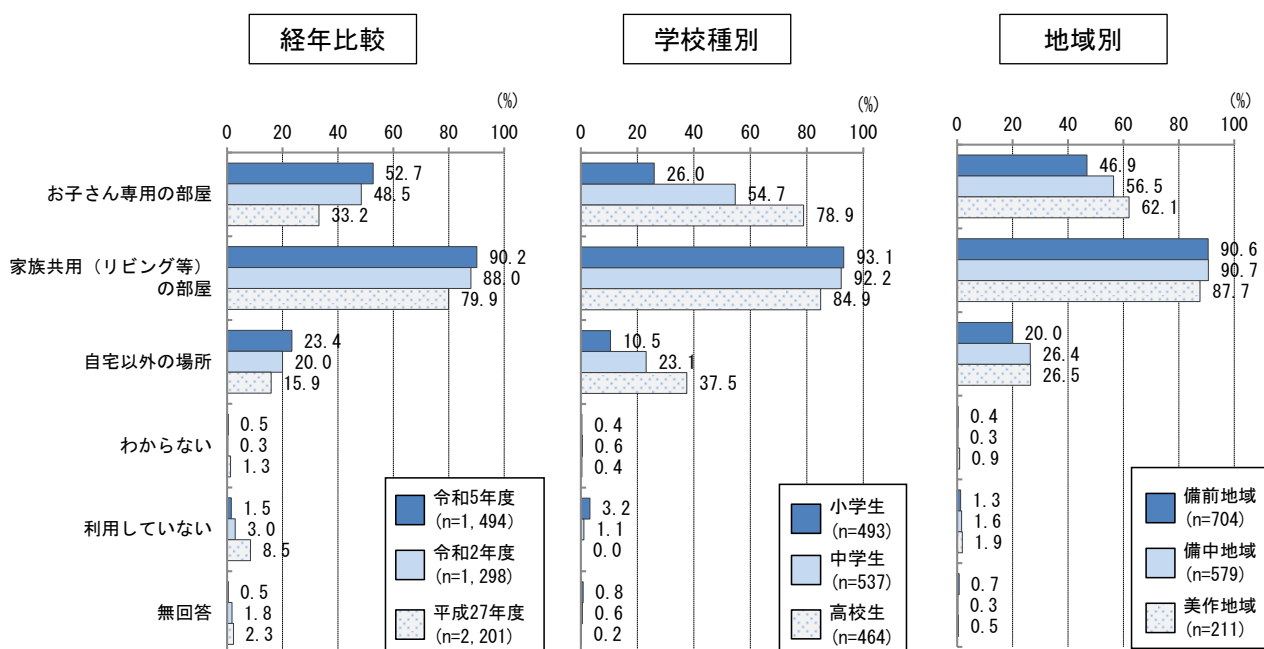
インターネットを利用している場所について、「家族共用(リビング等)の部屋」との回答が90.2%と最も高く、次いで「お子さん専用の部屋」(52.7%)、「自宅以外の場所」(23.4%)の順となっている。

経年比較すると、「お子さん専用の部屋」、「家族共用(リビング等)の部屋」との回答は平成27年度調査から令和5年度調査にかけて増加傾向にある。

学校種別にみると、「お子さん専用の部屋」、「自宅以外の場所」との回答は高校生で高く、小学生、中学生、高校生と上がるにつれて高くなっている。

地域別にみると、「お子さん専用の部屋」との回答は美作地域で6割超と他の地域に比べ高くなっている。

【図表 インターネットを利用している場所（経年比較・学校種別・地域別）】



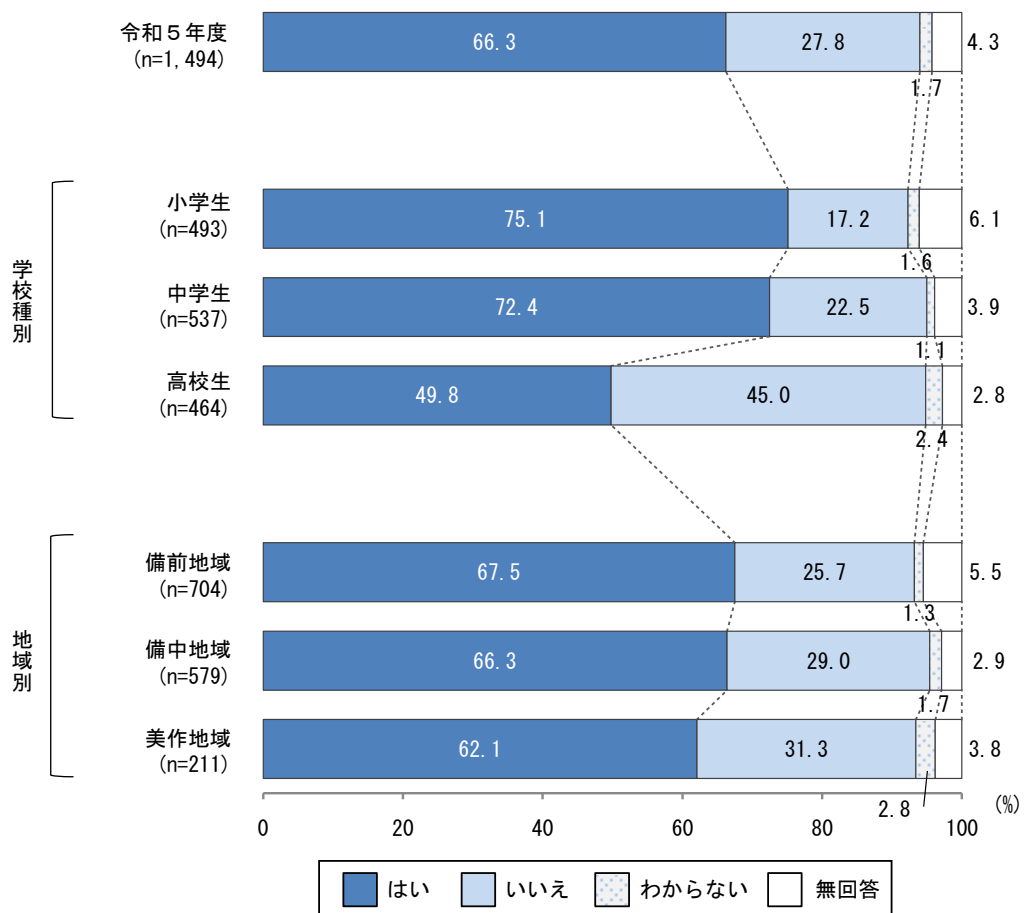
問34 あなたの家では、お子さんのインターネットの使い方について、何か家庭でルールを決めていますか。《○は1つ》

インターネットの使い方に関する家庭でのルールの有無について、「はい」との回答が66.3%、「いいえ」との回答が27.8%、「わからない」との回答が1.7%となっている。

学校種別にみると、「はい」との回答が小学生で7割台半ばと高く、小学生、中学生、高校生と上がるにつれて低くなっている。

地域別にみると、大きな差は見られない。

【図表 インターネットの使い方に関する家庭でのルールの有無（経年比較・学校種別・地域別）】



(問34で「1. はい」に○がついた人だけお答えください。)

問34-1 この中から、あなたの家庭で決めている「インターネットの使い方のルール」にあてはまるものを、すべて選んでください。《○はいくつでも》

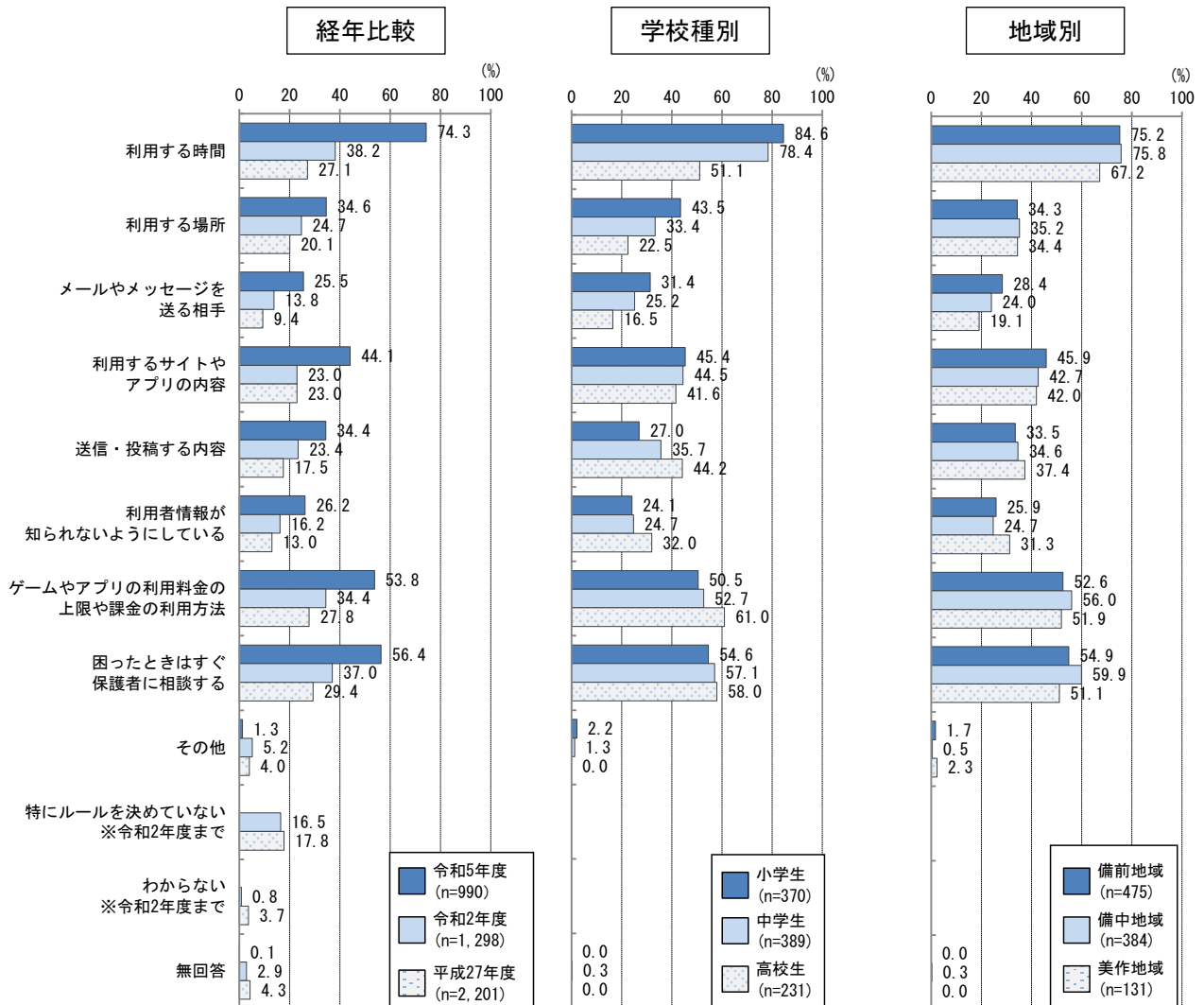
インターネットの使い方では決めているルールの内容について、「利用する時間」との回答が74.3%と最も高く、次いで「困ったときはすぐ保護者に相談する」(56.4%)、「ゲームやアプリの利用料金の上限や課金の利用方法」(53.8%)などの順となっている。

経年比較すると、「何らかのルールを決めている」とする選択肢はすべて今回調査が前回調査を上回っており、特に「利用する時間を決めている」との回答は今回調査が前回調査を36.1ポイントと大きく上回っている。

学校種別にみると、「利用する時間」との回答は小学生で8割台半ばと高く、小学生、中学生、高校生と上がるにつれて低くなっている。

地域別にみると、「メールやメッセージを送る相手」との回答は、美作地域で2割未満と他の地域に比べ低くなっている。

【図表 インターネットの使い方では決めているルールの内容（経年比較・学校種別・地域別）】



問35 お子さんのインターネット利用について、どのような取組が必要だと思いますか。

《〇はいくつでも》

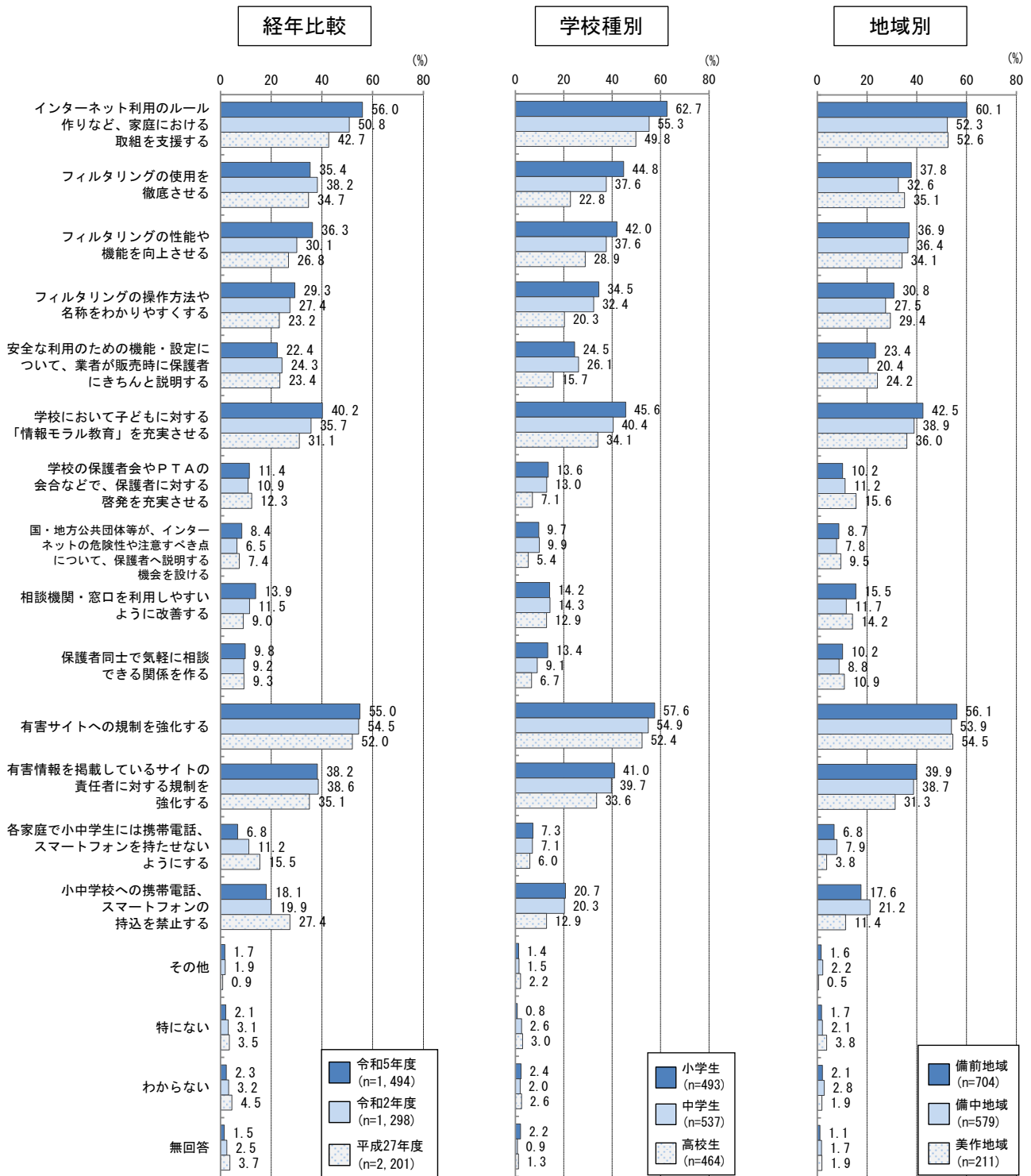
インターネット利用において必要だと思う取組について、「インターネット利用のルール作りなど、家庭における取組を支援する」との回答が56.0%と最も高く、次いで「有害サイトへの規制を強化する」(55.0%)、「学校において子どもに対する「情報モラル教育」を充実させる」(40.2%)「有害情報を掲載しているサイトの責任者に対する規制を強化する」(38.2%)などの順となっている。

経年比較すると、「フィルタリングの性能や機能を向上させる」との回答は今回調査が前回調査を6.2ポイント上回っており、平成27年度調査から令和5年度調査にかけて増加傾向にある。

学校種別にみると、半数以上の選択肢で高校生が低くなっている。

地域別にみると、大きな差はみられない。

【図表 インターネット利用において必要だと思う取組（経年比較・学校種別・地域別）】



20 望まない妊娠や性感染症の予防法について

問36 望まない妊娠や性感染症の予防法について、家庭で話すことはありますか。《○は1つ》

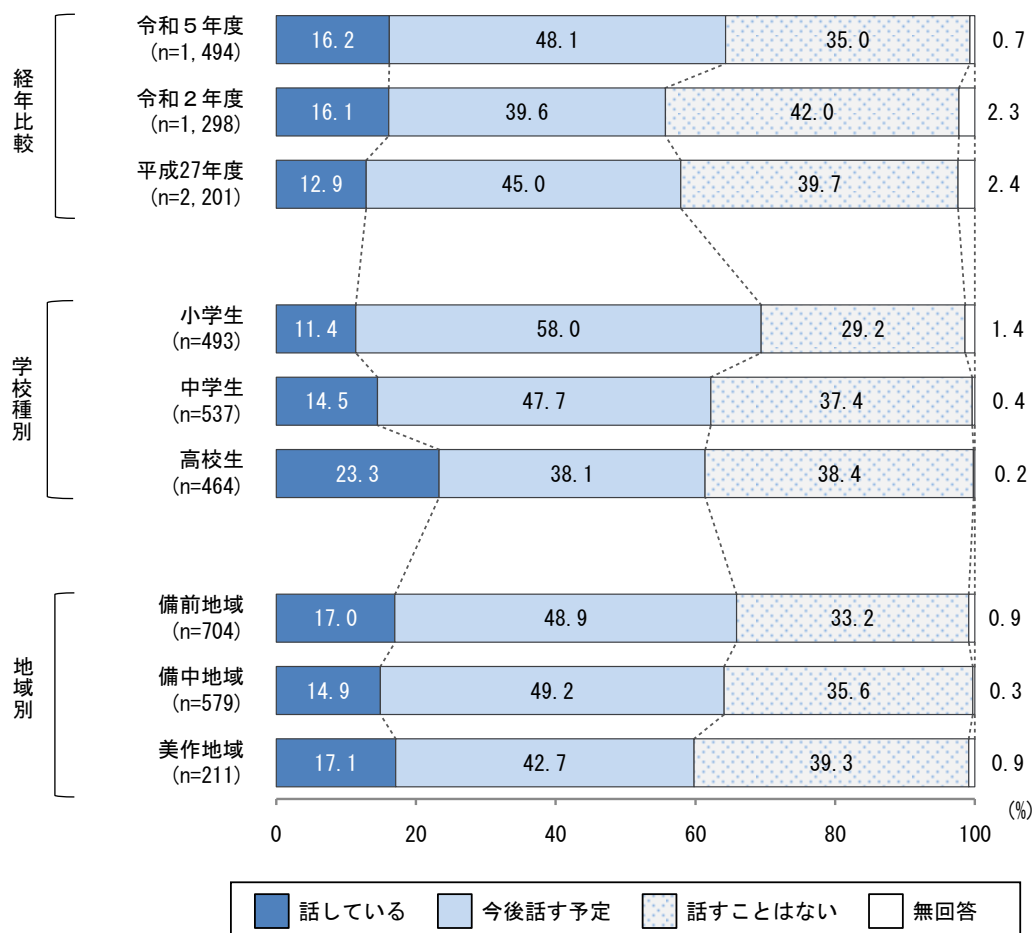
望まない妊娠や性感染症の予防法に関する話し合いについて、「今後話す予定」との回答が48.1%と最も高く、次いで「話している」(16.2%)、「話していない」(35.0%)の順となっている。

経年比較すると、「今後話す予定」との回答は今回調査が前回調査を8.5ポイント上回っている。

学校種別にみると、「話している」との回答は高校生で2割台半ばと高く、小学生、中学生、高校生と上がるにつれて高くなっている。

地域別にみると、大きな差はみられない。

【図表 望まない妊娠や性感染症の予防法に関する話し合い（経年比較・学校種別・地域別）】



21 不審者等の出没について

問37 あなたのお住まいの地域での不審者等の出没について、聞いたことがありますか。

《○は1つ》

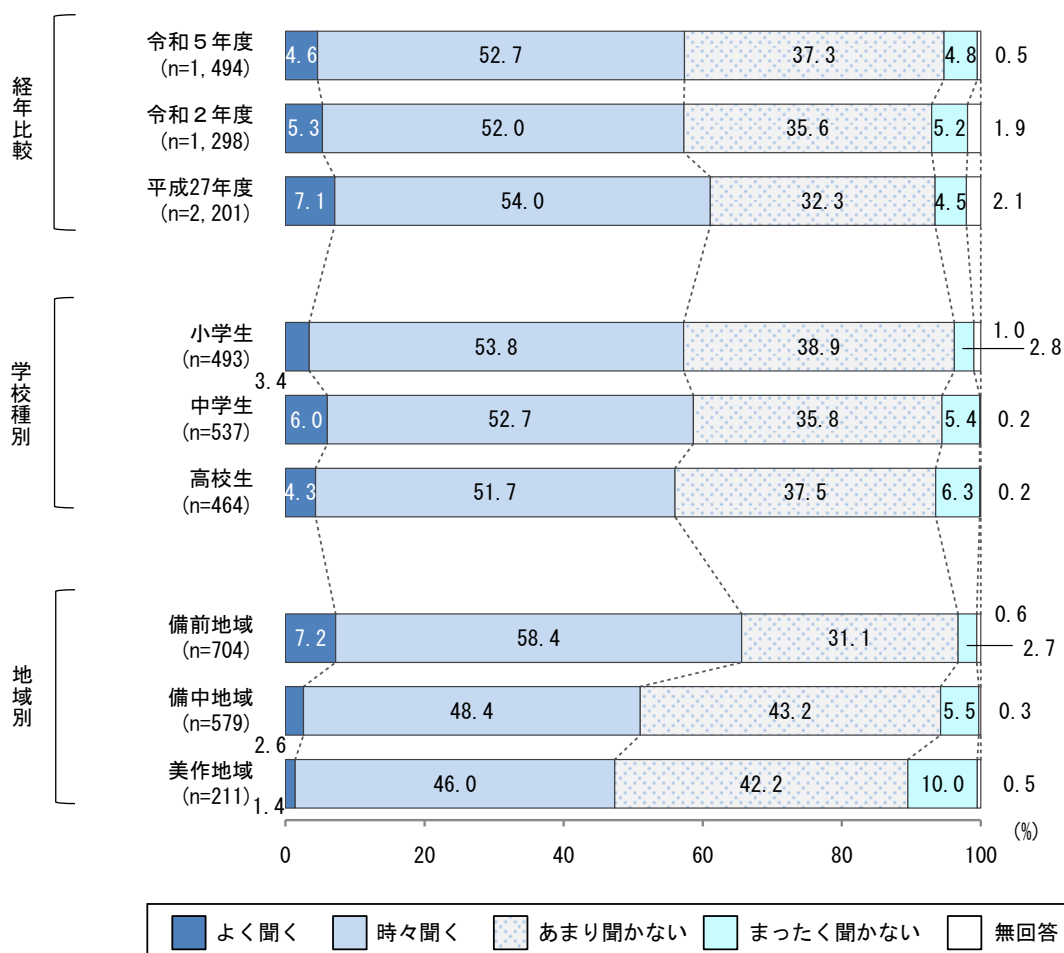
不審者情報に関して聞いた経験について、「時々聞く」との回答が52.7%と最も高く、次いで「あまり聞かない」(37.3%)、「まったく聞かない」(4.8%)、「よく聞く」(4.6%)の順となっている。

経年比較すると、「よく聞く」との回答は平成27年度調査から令和5年度調査にかけて減少傾向にある。

学校種別にみると、大きな差はみられない。

地域別にみると、「よく聞く」、「時々聞く」との回答は備前地域で合わせて6割台半ばと他の地域に比べ高くなっている。

【図表 不審者情報に関して聞いた経験（経年比較・学校種別・地域別）】



22 子どもの安全を守るために行っている活動について

問38 あなたは、お子さんの安全を守るために、どのような活動をしていますか。

《〇はいくつでも》

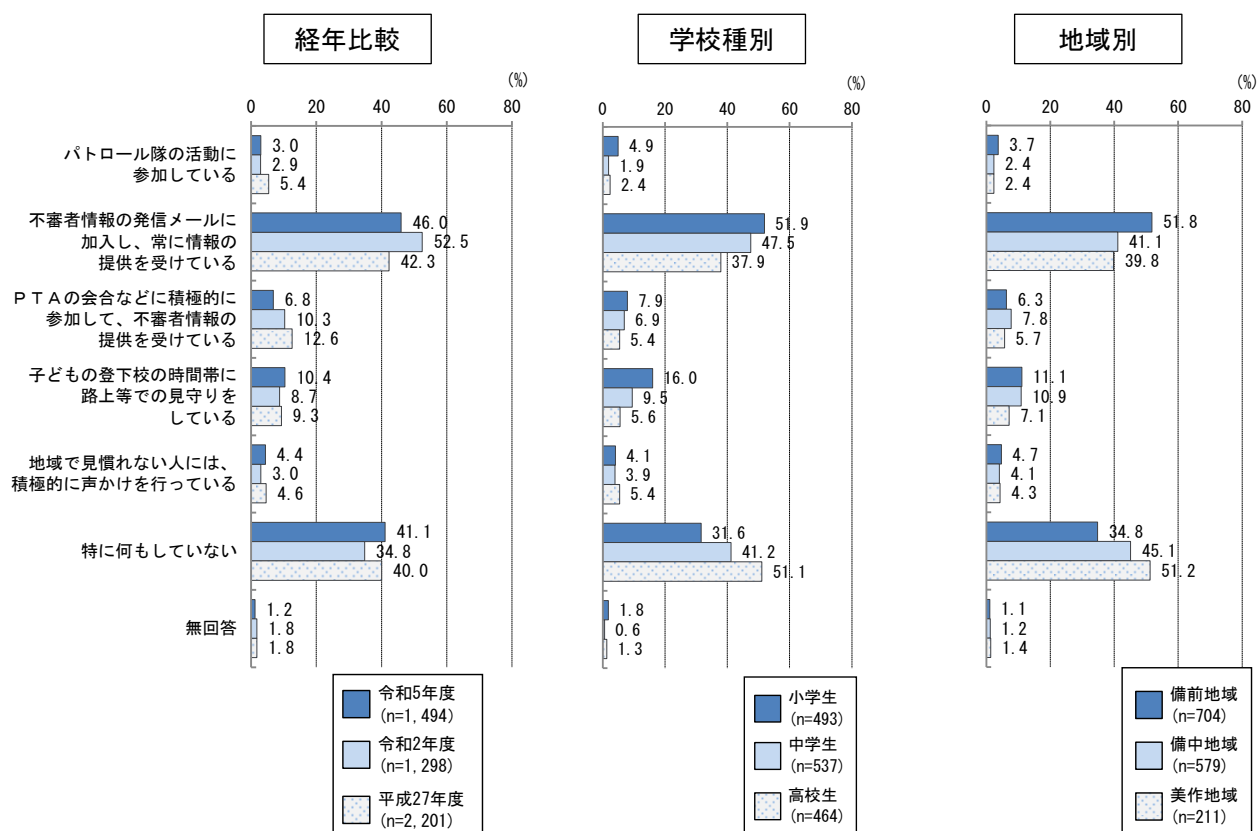
安全を守るためにしている活動について、「不審者情報の発信メールに加入し、常に情報の提供を受けている」との回答が46.0%と最も高く、次いで「子どもの登下校の時間帯に路上等での見守りを行っている」(10.4%)、「PTAの会合などに積極的に参加して、不審者情報の提供を受けている」(6.8%)などの順となっている。また「特に何もしていない」との回答は41.1%となっている。

経年比較すると、「不審者情報の発信メールに加入し、常に情報の提供を受けている」との回答は今回調査が前回調査を6.5ポイント下回っている。一方、「特に何もしていない」との回答は今回調査が前回調査を6.3ポイント上回っている。

学校種別に見ると、「不審者情報の発信メールに加入し、常に情報の提供を受けている」との回答は小学生で高く、小学生、中学生、高校生と上がるにつれて低くなっている。一方、「特に何もしていない」との回答は高校生で高く、小学生、中学生、高校生と上がるにつれて高くなっている。

地域別に見ると、「不審者情報の発信メールに加入し、常に情報の提供を受けている」との回答は備前地域で、「特に何もしていない」との回答は美作地域でともに約5割と他の地域に比べ高くなっている。

【図表 安全を守るためにしている活動（経年比較・学校種別・地域別）】



23 子どもの安全を守るために力を入れるべきことについて

問39 あなたは、お子さんの安全を守るために、特にどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。《○は3つまで》

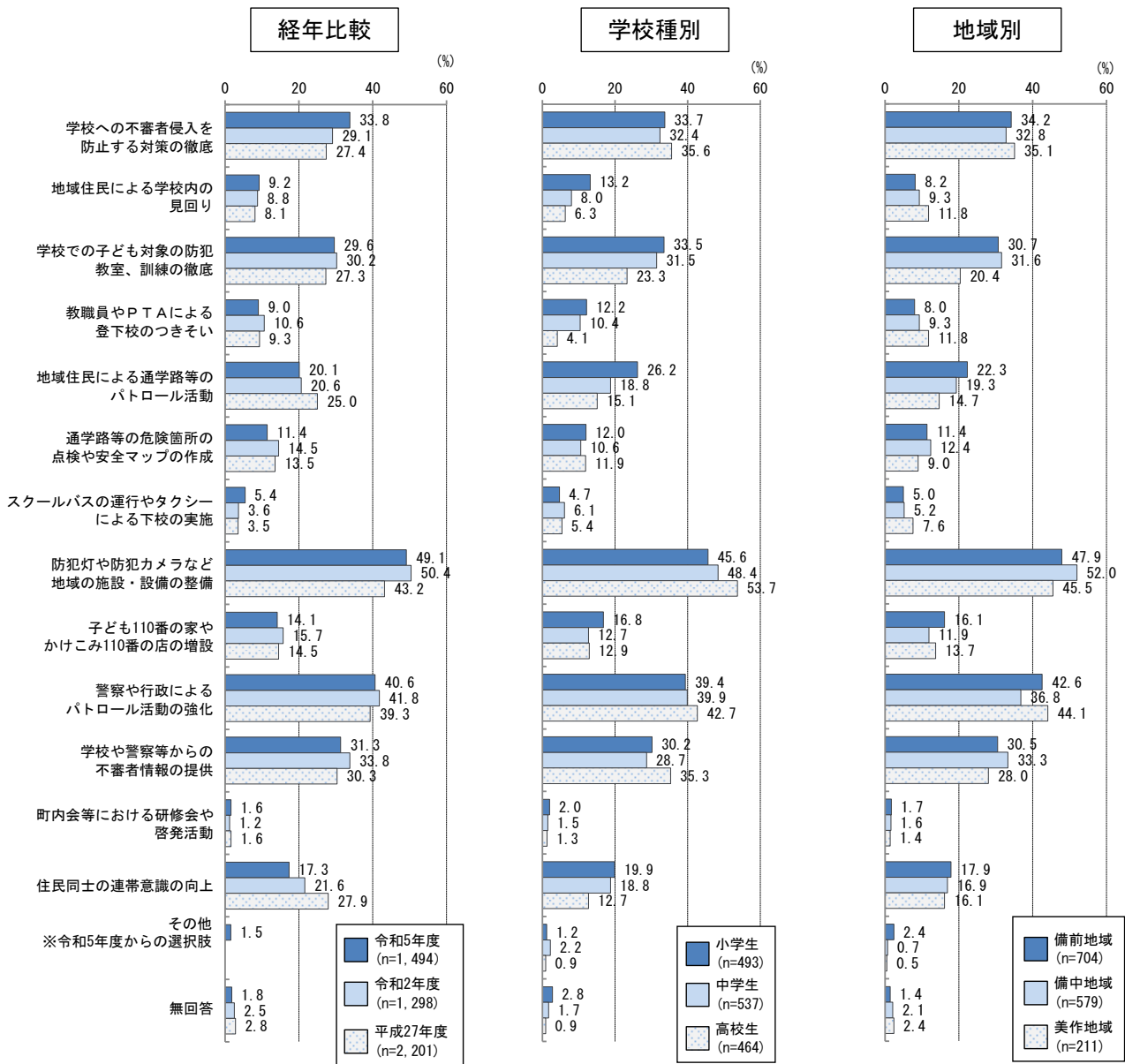
安全を守るために力を入れるべきだと思うことについて、「防犯灯や防犯カメラなど地域の施設・設備の整備」との回答が49.1%と最も高く、次いで「警察や行政によるパトロール活動の強化」(40.6%)、「学校への不審者侵入を防止する対策の徹底」(33.8%)などの順となっている。

経年比較すると、「学校への不審者侵入を防止する対策の徹底」との回答は平成27年度調査から令和5年度調査にかけて増加傾向にある。

学校種別にみると、「学校での子ども対象の防犯教室、訓練の徹底」との回答は高校生で2割台半ばと低く、小学生、中学生、高校生と上がるにつれて低くなっている。

地域別にみると、「防犯灯や防犯カメラなど地域の施設・設備の整備」との回答は備中地域で5割超と他の地域に比べ高くなっている。

【図表 安全を守るために力を入れるべきだと思うこと（経年比較・学校種別・地域別）】



24 「ヤングケアラー」という言葉の認知について

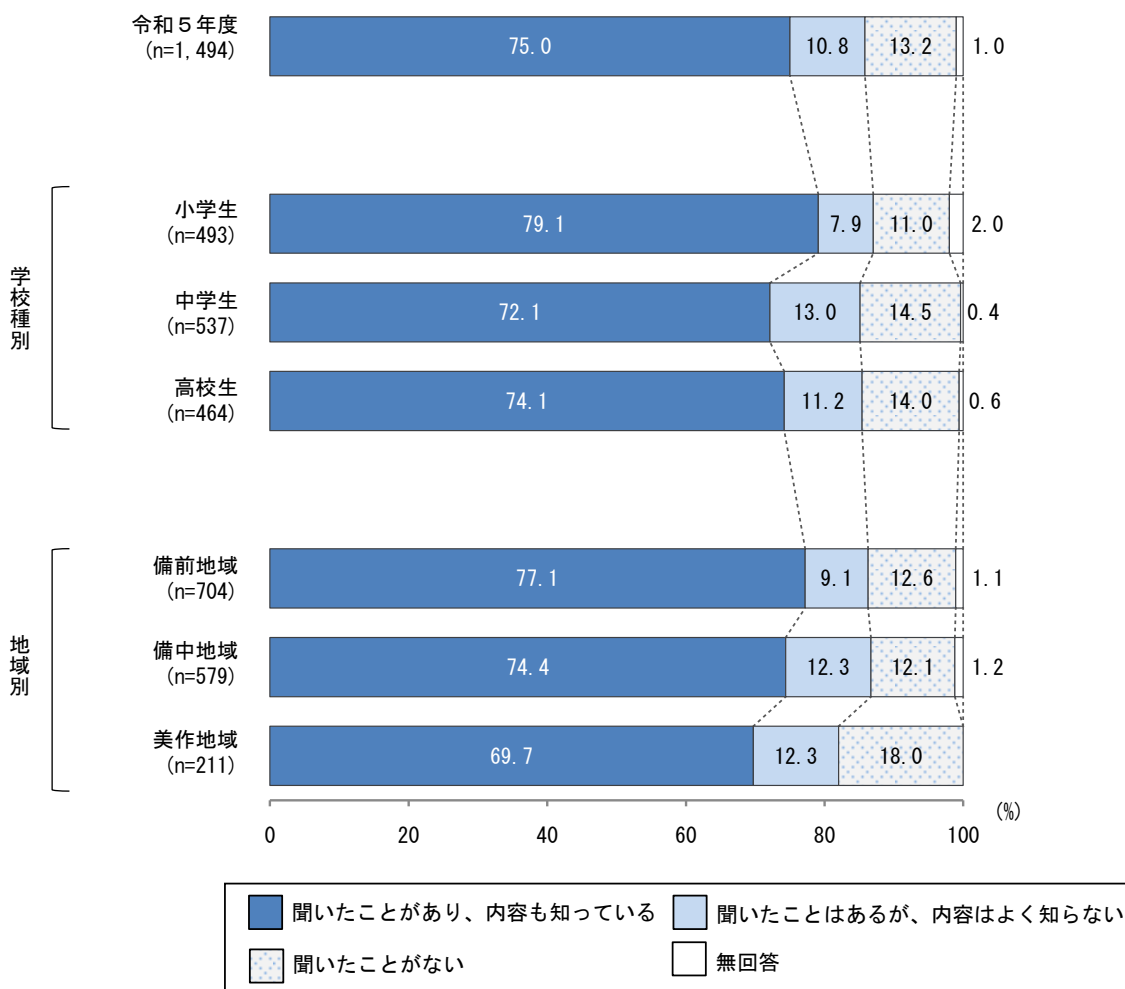
問40 あなたは、「ヤングケアラー」という言葉を聞いたことがありますか。《○は1つ》

「ヤングケアラー」という言葉の認知について、「聞いたことがあります、内容も知っている」との回答が75.0%と最も高く、次いで「聞いたことがない」(13.2%)、「聞いたことはあるが、内容はよく知らない」(10.8%)の順となっている。

学校種別にみると、「聞いたことがあります、内容も知っている」との回答は小学生で約8割と高くなっている。

地域別にみると、「聞いたことがあります、内容も知っている」との回答は美作地域で7割未満と他の地域に比べ低くなっている。

【図表 「ヤングケアラー」という言葉の認知（全体・学校種別・地域別）】



(問40で「1~2」に○がついた人だけお答えください。)

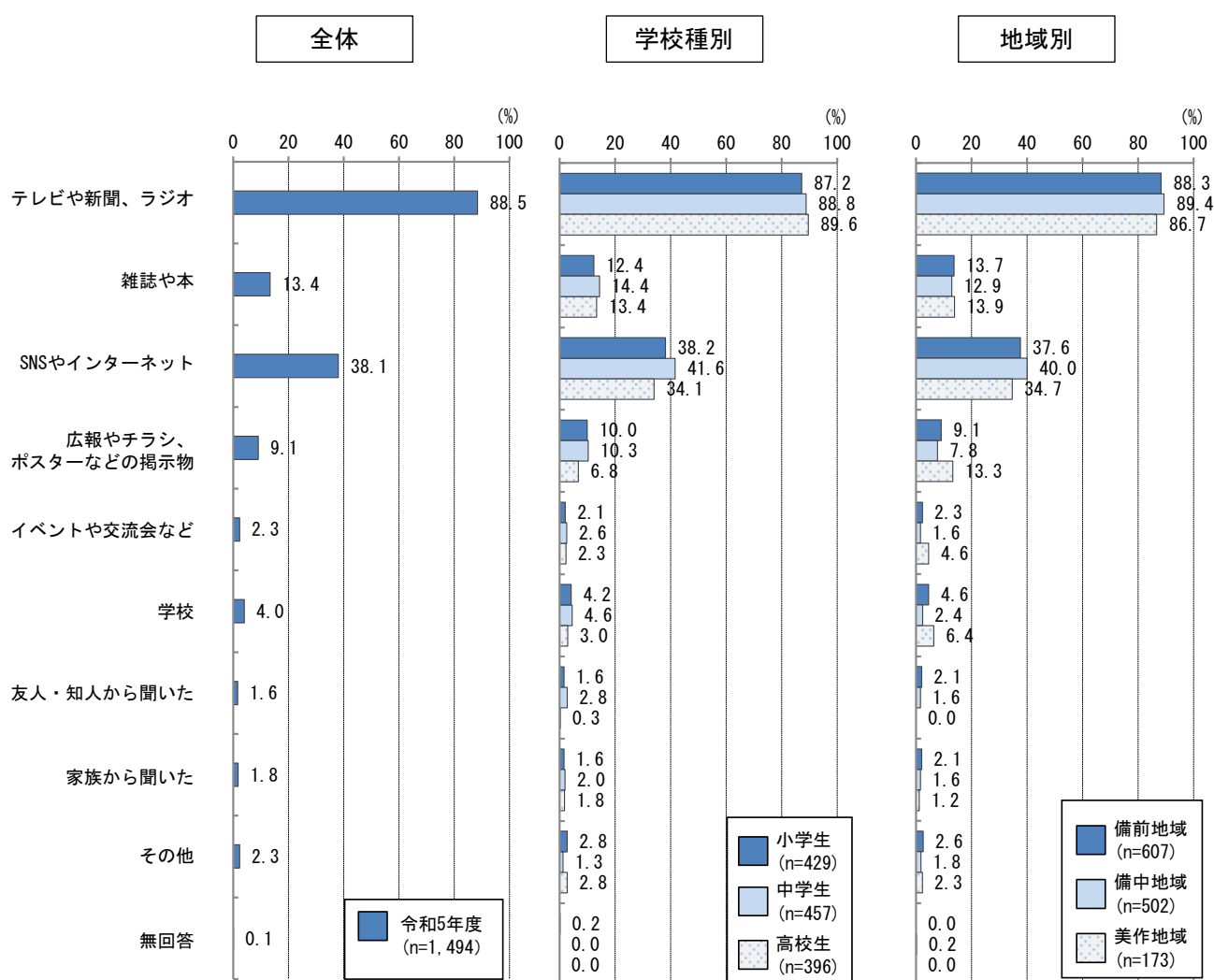
問40-1 「ヤングケアラー」という言葉を、どこで知りましたか。《○はいくつでも》

「ヤングケアラー」という言葉をどこで知ったかについて、「テレビや新聞、ラジオ」との回答が88.5%と最も高く、次いで「SNSやインターネット」(38.1%)、「雑誌や本」(13.4%)などの順となっている。

学校種別にみると、大きな差は見られない。

地域別にみると、「広報やチラシ、ポスターなどの掲示物」との回答が、美作地域で1割台半ばと他の地域に比べ高くなっている。

【図表 「ヤングケアラー」という言葉をどこで知ったか (全体・学校種別・地域別)】



25 自由意見

問 4 1 青少年の健全育成に関して、ご意見・ご要望等がありましたら、ご自由にご記入ください。

全体では 178 件のご意見・ご要望が寄せられた。区分別では、「学校、教育について」(92 件)が最も多く、次いで「地域社会について」(57 件)、「青少年へのより良い指導について」(38 件)などの順となっている。

小学生の保護者では、「学校、教育について」、「地域社会について」、「安心・安全について」が多くなっている。

中学生の保護者では、「学校、教育について」、「地域社会について」、「青少年へのより良い指導について」が多くなっている。

高校生の保護者では、「学校、教育について」、「家庭生活について」、「地域社会について」が多くなっている。

【保護者（自由記述分類表）】

分類	合計	小学生の保護者	中学生の保護者	高校生の保護者
学校、教育について	92	26	44	22
安全・安心について	24	13	8	3
地域社会について	57	18	28	11
スマホ、インターネットについて	28	10	14	4
家庭生活について	34	7	15	12
大人の反省点について	17	3	8	6
保護者支援、子育て支援について	19	10	6	3
青少年へのより良い指導について	38	9	19	10
その他	30	9	13	8
合計		60	75	43

※複数の内容を含む意見があるため、意見総数と内容件数は一致しない。

<問 41 の主な自由意見>

(1) 学校、教育について

内容	学校種別
小学校の先生の人数が十分であるようお願いしたい。様々な子どもと一緒に なって学習する環境を目指しているなら、先生の数足りていないように 日々感じている。先生や学校をもっと応援してあげてほしい。	小学生の保護者
気候変動に伴い、下校の時間を見直してほしい。	小学生の保護者
親や学校の先生に反抗的になる思春期は、一方で先輩の言動に憧れを抱く時 期でもあります。年齢が近い世代同士でサポートし合う仕組みを作るのがよ いと思います。	小学生の保護者
昔に比べて、部活動をする時間も場所も減り、一所懸命に何かに打ち込める機 会がかなり少なくなっているように思います。先生方の働き方改革で子ども 達にしわ寄せが行かないよう、先生方の代わりにサポートする機関等を早急 にご検討いただきたいです。	中学生の保護者
家庭でのしつけなどが大切だと思いますが、もう少し学校の先生も厳しく叱 ることも大切なのではないかと感じます。先生、生徒より友達感覚が強いと感 じます。	中学生の保護者
ジェンダーレスの時代の中で個々の人権を大切にするベースになる性教育は 特に大切かと思えます。	中学生の保護者
心の教育も大事にしてほしい。誹謗中傷しないとか、自分の事だけでなく、他 人も大切にするように家庭では話しているが、周りの人もそうであってほし い。立場の弱い人に優しい人や世の中になってほしい。	高校生の保護者
コロナ禍における行き過ぎた感染症対策は青少年の健全育成を大きく阻害す るものでした。マスク着用義務、黙食、様々な学校行事の中止や縮小。これら は感染症の予防にどこまで効果があったか疑問が残るだけでなく、むしろ子 ども達、若者の心身にとってデメリットの方が大きかったと思います。今後も しコロナのような感染症問題が起きた場合には、子ども達が健全に成長する ための自由や権利を尊重してほしい。	高校生の保護者
学校が決めた古いルールに疑問を感じる。公立・私立を問わず、学校教育で のルールづくりを明確化し、時代に合った教育のあり方に常にリフレッシュ させていく必要を感じる。	高校生の保護者

(2) 安全、安心について

内容	学校種別
子どもが中学生になり自転車で移動するようになると、日が暮れると辺りが本当に暗くて、部活や習い事の帰り道が心配です。地域にもよりますが、せめて大きい道沿いは街灯を増やして、ここを通れば安心、というようにしてほしいです。交通安全や不審者対策として必要だと思います。	小学生の保護者
自転車事故が多いので、学校での交通安全教室などを充実してほしい。	中学生の保護者

(3) 地域社会について

内容	学校種別
各家庭の努力、周りの大人に気軽に相談できる人間関係があれば、子ども達が健全に育成できると思う。ただし、各家庭の事情もあるので、子ども会や地域行事への参加の強制は控えてほしい。	小学生の保護者
地域の方の見守る目が何より力になる。子どもたちの登下校時に地域の方と触れ合えるような工夫ができれば良いと思う。	小学生の保護者
地域の大人が、子どもを見かけた時に声かけなどをもっと積極的にしてほしいと思います。無関心な大人が多いなと感じます。	小学生の保護者
スポーツ参加は良い活動だと思う。	中学生の保護者
家庭教育が一番大切だとは思いますが、核家族化が進んでおり子どもに関わる大人が減っている。地域の大人や学校の協力も必要だと思う。	高校生の保護者
家庭や学校で健全育成の取り組みをするだけでなく、地域全体で見守ることも大切だと思います。行事やボランティアに参加するということだけでなく、登下校の際にちょっと庭先に出てあいさつや声かけをするなどでも良いと思うので、自分で出来る小さな事でも続けて見守っていただけると嬉しいです。	高校生の保護者

(4) スマホ、インターネットについて

内容	学校種別
スマホのルールが守れない子どもにスマホを持たせるのは反対だが、スマホを持っていないことで仲間外れにならないか心配でもある。	小学生の保護者
スマホやタブレットの使用は、大人でもコントロールが難しいが、子どもにはなおさらコントロールが難しいものと思っています。ある程度使用制限をかけないと感じていますが、高校生くらいになるとそれも難しくなります。中高生には親以外の人からの教育を受けられる機会を増やしてほしいです。	小学生の保護者
情報がたくさんありすぎて、子どもよりも大人の方が迷ってしまいます。インターネットの使い方、何がどう正しいのかよく分かりません。	中学生の保護者
家庭での教育は勿論だけど、できていない家庭は沢山あると思う。学校でしっかりインターネットやSNSなどの使い方を教育し、子ども達自身も適切な使い方を考えてほしい。	中学生の保護者
タブレットを使用した学習は小・中学生には不要である。情報機器を操る能力だけが長けても学習の意味がない。低学年から日記や読書感想文など自分で考えること、自分の言葉で表現することを学習させてほしい。スポーツや創作活動など、言葉以外の表現でもよい。	中学生の保護者

(5) 家庭生活について

内容	学校種別
放任の家庭では、ゲームやスマホ、お金についてとてもルーズなことが多く、悪影響が心配。	小学生の保護者
親が無関心では教育もしつけも難しいと思う。各家庭が健全とは限らないし、色々な家庭がある中、各家庭でしっかりしていかないといけないと感じています。	中学生の保護者
不登校の子どもに対する受け皿が少なく、家庭の負担が大きいと感じる。	高校生の保護者

(6) 大人の反省点について

内容	学校種別
子どもは自分のことは自分で決める。大人は自分たちの常識、考え方を押しつけない。	小学生の保護者
親がもっと自分の子どもに関心を持つべきだと思う。子どもが何をしているか、分かっていない親も多いし、子どもが親に嘘をつく事が当たり前になってきているのは問題だと思う。	中学生の保護者
親に放置された子どもの方が愛情不足からか非行に走るような気がします。そのため子育てに一生懸命な親にアンケートを取るよりも、子育てに積極的に関わらない親をどうするかを考えた方が良くと思います。	中学生の保護者
子どもに対していつも命令口調だったり、自分の都合を押し付けている保護者が本当に多くて、驚く事が多い。とても残念な気持ちになる。	高校生の保護者

(7) 保護者支援、子育て支援について

内容	学校種別
教育にかかる費用負担が大きすぎます。給食費だけでも国、市が負担してほしい。	小学生の保護者
ひとり親等の低収入の家庭では、子どもの年齢に関わらず昼夜問わず働きます。塾に通わせてやりたくても難しく、家では子どもだけの時間が多くなり心配しています。子どもへの支援金等が充実すればそのような心配は減り、リスクも減るのになと思っています。一人の時間は多ければ多いほど健全育成とは程遠くなると感じています。子どもと過ごす時間がほしくても、作れない家庭状況もあるのです。	小学生の保護者
親同士の情報交換の場が増えたらありがたいです。	中学生の保護者
問題を抱える子どもや保護者を支援するには、家庭、学校、福祉等の協力が必要だと思います。学校の先生の負担が大きいため、先生にも心の余裕が持てるような体制がとれたらいいのにと 생각합니다。	中学生の保護者
親の経済力や家庭環境で、子供の体験や学習機会の差が大きくなるのは貧富の差の連鎖につながる。優秀な人材はだれでも高等教育を受けられるように大学までは授業料を無償化すべきだと思う。	高校生の保護者

(8) 青少年へのより良い指導について

内容	学校種別
<p>現在住んでいる地域では、文化活動、子ども達の登下校時の見守り、公園の整備や清掃などを積極的に行って下さる先輩方に囲まれており、安心感に包まれて毎日を過ごしています。子ども達が将来大人になって、ふるさとを思い出す時に、ここで育って良かった、楽しい子ども時代だった、と思ってもらえるような地域づくりが大切だと思っています。</p>	<p>小学生の保護者</p>
<p>コロナ禍で、子ども達が遊ぶ場所が一点集中し思った事ですが、公園でボール遊び禁止とあるボードをよく目にしました。書いている内容もそれぞれで低学年には理解しにくい内容もあり近隣住人とのトラブルにたびたびなりました。統一した看板にして、デザイン性を前面に出したものがいいなと思っています。</p>	<p>小学生の保護者</p>
<p>健全な心の教育には、親はもとより子の育つ環境で決まってくると思う。何が大切なのかは親の考えや大人たちの価値観の違いもあり一概に言えないが、親は信念を持って子どもを育て社会の一員として役立つ人間に育てることが大切だ。</p>	<p>中学生の保護者</p>
<p>子どもの意見を尊重して、やりたい気持ちを応援しています。自分自身が厳しく育って若いときにしかできない事をしないできました。成長してからは勇気がなかったり、しがらみがあってなかなかできません。何でも否定しないで応援できればと思っています。</p>	<p>中学生の保護者</p>
<p>大人がきちんとした行動や言葉を子どもに示していかないと、青少年は健全にはならないと思います。まずは大人が道徳を学ぶべき時代です。</p>	<p>高校生の保護者</p>
<p>自身を含めて、人を幸せにする事が一番大切だと教えるべきだと思います。</p>	<p>高校生の保護者</p>